# 松山市埋蔵文化財調査年報 17

平成16年度

2005

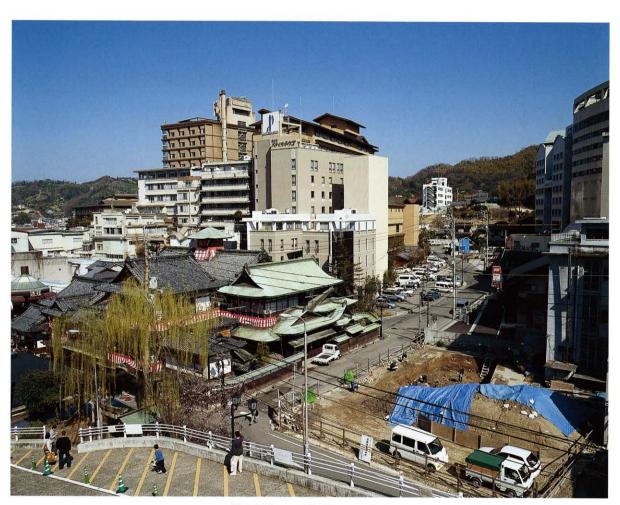
松山市教育委員会
財団法人松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

## 松山市埋蔵文化財調査年報 17

平成16年度

2005

松山市教育委員会 財団法人松山市生涯学習振興財団 埋蔵文化財センター



巻頭図版 1 道後湯月町遺跡



巻頭図版2 番町遺跡 園池遺構SG1 (東より)



巻頭図版 3 樽味高木遺跡 9 次調査地 I 区建物 101 (北東より)

#### 序

松山市には、数多くの貴重な埋蔵文化財があります。財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターでは、開発事業等によって失われようとする遺跡について、事前に発掘調査を実施し、記録保存に努めています。

本書は、平成16年度に埋蔵文化財センターが市内において実施した、発掘調査の概要報告ならびに松山市考古館が同年度に行った展示会、講演会などの教育普及活動の概要をまとめたものです。

本年度の発掘調査では、古くは縄文時代晩期から新しくは中近世に至る数多くの遺構と遺物を発見しています。特に、樟味立添遺跡3次調査地では、縄文晩期の遺構とともに弥生時代前期末~中期初頭の大溝が見つかっています。この大溝は、当時の主要な集落に見られる「環壕」と考えられ、樽味地域の重要性をうかがい知る貴重な資料になりました。継続的に学術調査が行われている久米官衙遺跡群では、古代の役所施設である正倉院南側において、当時の地割りや道路を示す遺構がみつかり、土地利用について重要な手がかりがえられるなど、全国的にも貴重な成果となりました。また同地域の久米高畑遺跡62次調査地では、青銅製のノミが出土しています。これは弥生時代中期前半頃の武器形青銅器を工具として再加工したもので、松山平野では類例のないものとして注目されました。そのほか、道後湯月町遺跡では道後温泉と密接なかかわりを持つ池のあとが見つかりました。平安時代中頃~室町時代、そして江戸時代にあったこの池は、絵図という文献を考古学の調査が裏付けた例であり、郷土の歴史を解明する貴重な資料を得ることができました。

このような資料・成果が得られましたのも、関係各位の埋蔵文化財に対するご理解とご協力のたまものと感謝し、厚くお礼申し上げます。今後とも、なお一層のご理解とご協力をお願い申しあげます。

本書が、松山市民をはじめ、ひとりでも多くの方々に埋蔵文化財に対する知識の向上と調査研究のための資料として、ご活用いただければ幸いに存じます。

平成 17 年 12 月 28 日

財団法人松山市生涯学習振興財団 理事長 中 村 時 広

#### 例 言

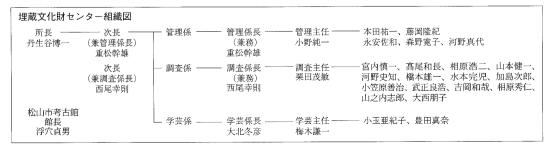
- 1. 本書は、松山市教育委員会と財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが、平成16年4月1日から平成17年3月31日までに実施した発掘調査の概要と、松山市考古館が行った教育普及事業の成果などをまとめた年次報告書である。
- 2. 本格調査については、第Ⅱ章の表にその概要をまとめた。
- 3. 各調査の報告は、発掘調査担当者が執筆し、編集は小笠原善治が行った。
- 4. 本書に掲載した写真の大半は、大西朋子が撮影した。
- 5. 位置図は、国土地理院発行の2万5千分の1図を使用した。
- 6. 遺構は、以下の略号で記した。

 SB: 竪穴式住居址(建物址)
 掘立:掘立柱建物址
 SR:自然流路
 SD:溝
 SG:池

 SE: 井戸
 SK:土坑
 SA:柵、柱列
 SP:柱穴
 SX:性格不明遺構

- 7. 各図の方位は、国土座標第Ⅳ座標系に基づく座標北を基本とする。なお、磁北の場合には方位の上に「磁北」と記入した。
- 8. 刊行組織は、以下の通りである。(平成17年4月1日現在)

松山市教育委員会 教 育 長 土居 貴美 事 務 局 툰 石丸 修 局 画 松本 義文 企 官 仙波 和典 企 画 官 通敏 企 圃 官 江戸 篠原 忠人 文 化 財 課 課 長 主 斡 家久 則雄 主 田城 武志 幹 主 査 栗田 正芳 (財) 松山市生涯学習振興財団 理 事 時広 長 中村 事務局長 一色 巧 事務局次長 石丸 允良 事務局次長 丹生谷博一 事務局調査監 杉田 久憲 埋蔵文化財センター 所 長 丹生谷博一 重松 幹雄 次長兼管理係長 西尾 幸則 次長兼調査係長 学芸係長 大北 冬彦



#### 整理作業協力者 (五十音順)

青野茂子・池内芳美・石丸由利子・猪野美喜子・岩本美保・江島淳子・大野裕子・越智田美紀・金子育代・川添利恵・菅 留美・木下奈緒美・木西嘉子・忽那理恵・國田克彦・篠森千里・新保恵美子・仙波千秋・仙波ミリ子・高尾久子・田﨑真理・多知川富美子・玉井順子・戸川安子・中村 紫・西川千秋・丹生谷道代・萩野ちよみ・東山里美・平岡直美・平岡華美・福岡志保美・政本和人・松下郁子・松本美代子・水口あをい・宮内真弓・村上真由美・矢鋪妙子・矢野久子・山口由浩・山下満佐子・山中菊乃・山邊進也・吉岡智美・渡部英子・渡辺佐代枝

#### 9. 以下の方々より、ご指導・ご協力を賜った。(五十音順・敬称略)

阿部義平(国立歴史民俗博物館)/井汲隆夫(日本考古学協会)/上原真人(京都大学大学院)/岡田敏彦(愛媛県埋蔵文化財調査センター)/岡村道雄(奈良文化財研究所)/小野建吉(奈良文化財研究所)/亀田修一(岡山理科大学)/下條信行(愛媛大学)/早田 勉(古環境研究所)/高瀬哲郎(名護屋城博物館)/田﨑博之(愛媛大学)/多田 仁(愛媛県埋蔵文化財調査センター)/田中清美(大阪市文化財協会)/田中哲雄(東北芸術工科大学)/玉田芳英(文化庁)/辻 美紀(大阪市文化財協会)/寺井 誠(大阪市文化財協会)/冨田尚夫(愛媛県歴史文化博物館)/長井数秋(日本考古学協会)/名本二六雄(日本考古学協会)/前園実知雄(奈良芸術短期大学)/三浦正幸(広島大学)/三辻利一(大谷女子大学)/三吉秀充(愛媛大学)/村上恭通(愛媛大学)/山内英樹(愛媛県埋蔵文化財調査センター)/山中 功(日本庭園研究センター)/山中敏史(奈良文化財研究所)/吉田 広(愛媛大学)

#### 10. ご指導・ご協力を賜りました機関は、次のとおりである。(五十音順・敬称略)

愛媛県歴史文化博物館/大谷女子大学/岡山理科大学/株式会社京都科学/株式会社古環境研究所/株式会社都市・景観設計/京都大学大学院/国立大学法人愛媛大学/国立大学法人広島大学/財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター/財団法人大阪市文化財協会/財団法人元興寺文化財研究所/佐賀県立名護屋城博物館/大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館/東北芸術工科大学/独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所/奈良芸術短期大学/日本考古学協会/日本庭園研究センター/文化庁

11. 本書の仕様は以下のとおりである。

製版 カラー写真・写真図版 - 175線

印刷 オフセット印刷

用紙 カラー写真:マットアート、本文:マットアート

製本 アジロ綴じ

## 本 文 目 次

Ι	7	<b>产成 16</b>	j 华月	支	松口	Цή	] Į	里	鼤	X	.11		7	詗	宜	炒	送																
	道後	湯月町	遺跡																														2
	番町	遺跡																					•						•		•		6
,	樽味	立添遺	跡 3 7	次調	查地	1								•				•				•											12
	東野	森ノ木	遺跡												•			•			•												16
	東野	森ノ木	遺跡	2次	調査	き地															•			•							•		20
	樽味	四反地	遺跡	9次	調査	を地														•					•	•						•	24
	樽味	高木遺	跡 9	次調	查地	1		•									•				•								•			•	30
	東野	お茶屋	台遺	跡 6	次調	『査:	地										•					•						•	•				36
	枝松	遺跡 8	次調	查地		•											•											•	•				40
	枝松	遺跡 9	次調	查地											•							•						•	•				44
	枝松	·遺跡 10	0 次調	]查出	也								•					•				•	•						•				46
	東石	T 井遺跡	2次	調査	地										•				•			•						•	•		•	•	48
	高井	上遺跡										•		•				•	•		•	•	•					•	•		•		50
	南梅	本長広	遺跡												•	•		•	•		•									•	•		52
	南梅	本上方	遺跡	2次	:調査	正地						•	•					•			•			•			•	•	•	•	•	•	56
	谷町	∫遺跡 2	次調	查地	<u>.</u>					•					•						•	•		•			•	•	•		•	•	60
	持田	]町遺跡	53次	調査	地		•												•		•	•	•	٠			•			•	•	•	62
	松山	」城三之	九跡	3次	:調査	至地											•	•	•		•	•			•	•	•	•	•	•		•	64
	樽呀	卡四反地	遺跡	10 ₹	欠調	查地	<u>b</u>										•		•		•	•	•		•	•		•	•	•		•	70
	樽呀	<b></b> ト高木遺	跡 10	) 次訂	調査	地							•	•			•		•		•	•	•	•	•	•		•	•	•		•	72
	来住	上廃寺3	1 次訂	周査士	地			•					•	•			•	•	•		•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	76
	上才	く道管付	计設替	工事	和こ件	半う:	埋	蔵	文	1	財	訓	査	:	•	•	•	•			•	•			•	•	•	•	•	•		•	80
	久米	<b></b>	遺跡 59	) 次記	調査	地			•	•	•	•		•	•	•	•	•			•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	84
	久米	く 高畑遺	遺跡 6]	1 次詞	調査	地			•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	88
	久米	く 高畑遺	遺跡 62	2 次記	調査	地			•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•			٠	•	•		•		•	•	•	•	•	92
	久米	长高畑遺	遺跡 63	3 次記	調査	地																											98
		<b>ド高畑</b> 遺																															102
	久米	<b>ド官衙</b> 遣	遺跡群	~	平原	戈 16	5 £	F.J.	更く	クト	成り	果。	ر مل	今往	後(	の月	旻宣	皇~	-			•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	106
Т	т :	平成 1	6 年	庄	松	1117	Ħ	押	峀	<b>;</b> −₹	r1		計	舗	杳	に見	目存	医雀	全米	31.													110
П		- /久 - 山市埋蔵								ζ, ,	<u>`</u> .	رب		₽/ °.			√J  / •		•														113
		山市埋蔵																															
	74 L	口川生展	以又口	以(7)	~111 10	叫上		52																									100
$\prod$	I	平成1	6年	度	保	存	儿	理	汉	57	۲į	出.	土	遺	物	7 虫	红	1			•	•	•	•		•		•	•	•		•	134
	1.	平成 1	16年月	度出:	土遺	:物團	容玉	里(	われ	既	要		2		保	存	処:	理	3	3.	出	土	遺	物	整	理							
1/	V	平成 1	6年	度	普	及牙	亥	谿	: 事	<b>事</b>	色		•	•																		•	144
1		展示活																															
		展小石 協設の																												אלער זי	-11	1 23/	•

## 挿図・写真目次

巻頭図版 1 巻頭図版 2 巻頭図版 3	道後湯月町遺跡 番町遺跡 園池遺構SG1 樽味高木遺跡9次調査地 ]		
道後湯月町 図1 調査 図2 遺構	地位置図 (縮尺 1:25,000)	写真 3	<ul><li>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</li></ul>
	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	···· 写真 1 写真 2 写真 3	,
図1 調査	は跡 3 次調査地 ・・・・・・・ 地位置図 (縮尺 1:25,000) 配置図 (縮尺 1:400)	···· 写真 1 写真 2 写真 3 写真 4	Ⅱ区完掘状況 (南東より) SD 101 完掘状況 (南より)
図2 遺構	地位置図 (縮尺 1:25,000)	写真 2	<ul><li>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</li></ul>
図1 調査	遺跡 2 次調査地 · · · · · 地位置図 (縮尺 1:25,000) 配置図 (縮尺 1:200)	写真 2 写真 3	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
図1 調査: 図2 遺構	遺跡 9 次調査地 · · · · · 地位置図 (縮尺 1:25,000) 配置図 (縮尺 1:200) 102 測量図 (縮尺 1:40)	··· 写真 2 写真 3 写真 4 写真 5	<ul> <li>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</li></ul>
図1 調査	跡 9 次調査地 ・・・・・ 地位置図 (縮尺 1:25,000) ・ VI 区遺構配置図 (縮尺 1:2	(00)	<ul><li>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30</li><li>写真 1 I 区完掘状況 (東より)</li><li>写真 2 弥生時代中期後葉の貯蔵穴 (SK 101 遺物出土状況: 北東より)</li><li>弥生時代中期後葉の貯蔵穴 (SK 106 遺物出土状況: 北東より)</li></ul>

		写真 5 写真 6	弥生時代中期後葉の建物 (建物 101:北東より) I 区東壁 (南西より) 弥生時代後期後葉の竪穴住居 SB602 における 有溝石錘他遺物出土状況 (南より)
東野お 図 1 図 2	茶屋台遺跡 6 次調査地 · · · · 調査地位置図 (縮尺 1:25,000) 遺構配置図 (縮尺 1:400)	 写真 1 写真 2	<ul><li>・・・・・・・・・・・・・・・・36</li><li>遺構完掘状況 (北東より)</li><li>2 区遺構完掘状況 (北東より)</li></ul>
図 1 図 2	跡 8 次調査地 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40 1 区完掘と 2 区 S B 201 検出状況 (西より)
	跡 9 次調査地 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	跡 1 0 次調査地 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	···· 写真 1 写真 2	<ul><li>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</li></ul>
東石井 図 1 図 2	遺跡 2 次調査地 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
高井遺 図 1	は跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
図 1 図 2	長広遺跡 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
図 1	<ul><li>上方遺跡 2 次調査地 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·</li></ul>	写真 2	<ul><li>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</li></ul>
谷町遣 図1 図2 図3 図4	登跡 2 次調査地 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	 写真 1	60 調査地全景 (北より)

図 1 図 2 図 3	「遺跡 3 次調査地 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	· · · · · 写真 1	・・・・・・・・・・・・・・・・・・62 調査地近景 (北より)
図 1 図 2 図 3	注三之丸跡 3 次調査地 調査地位置図 (縮尺 1:25,000) 調査区位置図 (縮尺 1:1,000) 1トレンチ完掘状況 (縮尺 1:100) 2トレンチ完掘状況 (縮尺 1:100) 3トレンチ完掘状況及び土層断面図	写真 2 )	2トレンチ完掘状況 (北東より)
	反地遺跡10次調査地・・・ 調査地位置図 (縮尺1:25,000)	写真 2	<ul><li>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</li></ul>
図 1 図 2	木遺跡 1 0 次調査地 ・・・・  調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)   遺構配置図 (縮尺 1 : 150)   S K 007 遺構平面図・断面図 (縮尺	写真 2	
図 1 図 2	寺 3 1 次調査地 ・・・・・・ 調査地位置図 (縮尺 1:25,000) 遺構配置図 (縮尺 1:200) 周辺の遺構配置図 (縮尺 1:400)	写真 1	
図 1	管付設替工事に伴う埋蔵文化財調査地位置図 (縮尺 1:25,000) トレンチ位置図 (縮尺 1:1,000)	写真 1 写真 2 写真 3	<ul><li>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</li></ul>
図 1 図 2	畑遺跡 5 9 次調査地 · · · · · 調査地位置図 (縮尺 1:25,000) 遺構配置図 (縮尺 1:150) 正倉院南方における調査状況 (縮尺	写真 2	SB 001・掘立 002 完掘状況 (北より)
図 1 図 2	畑遺跡 6 1 次調査地 · · · · · 調査地位置図 (縮尺 1:25,000) 遺構配置図 (縮尺 1:150) 出土遺物実測図 (縮尺 1:3)		・・・・・・・・・・・・・・・・・・88調査区全景完掘状況 (北東より)
図 1	畑遺跡 6 2 次調査地 · · · · · · 調査地位置図 (縮尺 1:25,000) 遺構配置図 (縮尺 1:150)	写真 1	

	5 測量図 (縮尺 1:40) 写真 3 南西部完掘状況 (北東より) 青銅器転用ノミ実測図 (縮尺 1:1) 写真 4 南部完掘状況 (北より) 写真 5 完掘状況全景 (北東より) 写真 6 S D 001 礫面検出状況 (北東より)
図2 遺構配置	6 3 次調査地 ・・・・・・・・・・・・・・・・・98 立置図 (縮尺 1:25,000) 写真 1 S B 001 焼土と炭化物検出状況 置図 (縮尺 1:200) (北より) 遺構配置図 (縮尺 1:500)
図2 遺構配置	6 4 次調査地 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・102 立置図 (縮尺 1:25,000) 写真 1 S D 001・002 検出状況 (北より) 置図 (縮尺 1:300) 遺構配置図 (縮尺 1:500)
図1 正倉院	群 〜平成 16 年度の成果と今後の展望〜 ・・・・・・・・・106 南方における8世紀以降の官衙施設 (縮尺 1:1,000) 新遺跡群全体図 (縮尺 1:2,000)
	化財調査関係資料 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
写真 1 南江, 写真 2 南江, 写真 3 南江, 写真 4 南江, 写真 5 枝松; 写真 6 枝松; 写真 7 枝松; 図 1 勾玉実	及び出土遺物整理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真 2 速報 写真 3 特別 写真 4 特別 写真 5 「本 写真 6 「古 写真 7 「古 写真 9 「現地 写真 10 職地	回四国・埋蔵文化財センター巡回展「発掘へんろ」 展展示見学風景 展展示見学風景 展記念講演会風景 展記念講演会風景 ことん考古学IV」風景 たのアクセサリー・勾玉を作ろう!IV」風景 ラス勾玉を作ろう! V」風景 古代浪漫の旅〜伊予のまほろば探訪 IV」風景 地説明会風景 場体験風景(松山市立勝山中学校生徒) 奇考古学教室風景(松山市立北中学校)

### 表目次

松山市:	埋蔵文化財調査関係資料 ・・・・・・・・・・・・・・・・・110
表 1	平成 15 年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧(1)~(9)
表 2	平成 16 年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧 (1) ~ (9)
表 3	平成 16 年度 松山市埋蔵文化財本格調査一覧
保存処	理及び出土遺物整理
2. 保	存処理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・135
表 1	平成 16 年度 金属製品保存処理遺跡名一覧 (1)(2)
表 2	平成 16 年度 調査出土木製遺物、金属製遺物、動・植物遺体一覧
3. 出:	土遺物整理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・139
表 1	勾玉一覧(1)(2)
並及政	発事業 ····································
表1	展示活動一覧
表 2	教育普及活動一覧(講演会・展示解説会)(1)(2)
表 3	教育普及活動一覧(体験学習セミナー)
表 4	教育普及活動一覧(現地説明会)
表 5	教育普及活動一覧(職場体験)
表 6	
表 7	教育普及活動一覧(出前考古学教室)(1)(2)
•	出版物一覧(教育普及活動)
表 8	出版物一覧(調査報告書)(1)(2)
表 9	施設利用一覧
表 10	資料の貸出一覧 (1) (2)
表 11	資料の調査一覧 (1) ~ (3)
	職員研修・会議一覧
表 13	平成 16 年度 考古館月別入館者数調(平成 16 年 4 月 1 日~ 17 年 3 月 31 日)

# I 平成 16 年度 松山市埋蔵文化財調査概要

#### 道後湯月町遺跡

所在地 松山市道後湯月町甲 1656 - 1 外

期 間 平成17年2月1日~同年3月31日

面 積 177.20 ㎡

担 当 宮内慎一・相原秀仁



図 1 調査地位置図

経 過 本調査は、松山市道道後 42 号線道路改良工事に伴う事前の発掘調査である。調査地は松山平野北東部の丘陵に挟まれた谷部の標高 44.6 mに位置する。調査以前はホテルと駐車場に利用されていた。調査地は道後城北遺跡群内にあり、弥生時代の竪穴式住居址や古墳時代の掘立柱建物址を検出した文京遺跡をはじめ道後今市遺跡、松山大学構内遺跡など数多くの遺跡が存在している。また、調査地の西隣には県、市の指定文化財がある道後温泉本館があり、古代の道後温泉に関する遺構、遺物が確認される可能性があった。

遺構・遺物 基本層位は第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層にぶい黄褐色土、第Ⅲ層黄褐色土、第Ⅳ層茶褐色土、 第Ⅴ層褐灰色土、第Ⅵ層黄色土、第Ⅷ層黒色土、第Ⅷ層明黄褐色土である。第Ⅰ層は近現代の造成に 伴う客土で、地表下 0.9 ~ 1.5 mまで開発が行われている。第Ⅱ層はにぶい黄褐色土で調査地北西部 にみられ、池4に切られる。層厚25~35cmを測る。第Ⅲ層は黄褐色土で調査区北西部にみられ、池 4に切られる。層厚20~35cmを測る。第Ⅳ層は茶褐色土で調査区中央部から南部にみられる。池3 の埋め戻し土である。層厚 15 ~ 40 cmを測る。第 V 層は褐灰色土で調査区中央部にみられる。池2の 埋め戻し土である。層厚 10 ~ 50 cmを測る。第 VI 層は黄色土で調査区中央部にみられる。池 1 の埋め 戻し土である。層厚 15 ~ 30 cm測る。第 Ⅷ層は黒色土で調査区中央部にみられる。層厚 25 ~ 35 cmを 測る。第四層は明黄褐色土で調査区中央部から北部にみられる。本層上面が最終の遺構検出面であ る。調査で検出した遺構は池址4基〔池1~池4〕(古代~中世)、炉址2基(中世)、埋甕1基(近世) である。遺物は、第Ⅲ層黒色土から縄文土器、弥生土器、土師器(古墳~奈良時代)、須恵器(古墳 ~奈良時代)、石器、動物遺体(角、歯)、種子(桃)、池1~3から土師器、須恵器(平安~室町時代)、 国産陶磁器(備前焼・亀山焼)、中国産陶磁器(白磁)、瓦が出土した。遺構は江戸時代の絵図に描か れた池址(池4)を検出した。池1は出土遺物より、平安時代(10世紀)には存在しており、その後、 池 2、池 3 は鎌倉時代から室町時代までの間に 2 度の改修が施されている。その他、中世( $12\sim13$ 世紀)の炉址、近世(江戸時代末頃)の埋甕を確認した。

小 結 今回の調査では古代から近世の遺構を検出し、縄文時代から近世までの遺物が出土した。縄文時代から古墳時代の遺構は検出されなかったが、第四層中から縄文時代から古墳時代の遺物を確認しており、周辺地域に該期の遺跡があるものと考えられる。池址は江戸時代の絵図に描かれたものの一部と、平安時代中頃から室町時代まで存続していたものを検出した。この池址は性格や用途は断定できないが、池の存在と構築方法などの貴重な資料を得ることができた。池の存続時期や調査結果などから、道後温泉と密接なかかわりをもつものであると考えられる。(相原秀)



図2 遺構配置図



写真1 完掘状況(南東より)



写真2 池4池垣検出状況(東より)



写真 3 池2遺物出土状況 (南西より)



写真 4 埋甕土層 (北西より)

#### 番町遺跡

所在地 松山市一番町三丁目 20番

調 間 平成15年8月1日~平成16年6月30日

面 積 1017.5 ㎡

担 当 栗田茂敏・吉岡和哉



図 1 調査地位置図

経 過 『坂の上の雲』記念館(仮称)建設工事に先立つ調査である。調査地は松山城が所在する勝山丘陵の南東麓直近に位置しており、包蔵地としては「No.74 城ノ内古墳」のエリアに含まれている。この包蔵地名が示すように、勝山丘陵上には、国指定史跡松山城のみならず、多くの古墳や弥生時代の遺跡が存在することが知られている。現在、道後平野を北東から南西に流れながら、平野南部を西流する重信川と出合で合流する石手川は、17世紀初め頃といわれる足立重信による改修までは、現流路よりもやや北、一説には湯渡から持田町の中央、さらに調査地南直近の二番町付近を西流し、今の市役所前あたりから三番町妙清寺近辺を抜け、吉田浜に注いでいたといわれている。そのルートの詳細はともかく、調査地の遺構面はその改修以前の石手川旧流路の氾濫による堆積土砂や砂礫、および、勝山の丘陵斜面を流下した土砂の堆積によって成り立っている。したがって、この堆積土砂には、石手川の氾濫によって運ばれてきた遺物群、また、勝山丘陵上に存在する弥生時代、古墳時代やそれ以降の遺跡群から流下した遺物群が含まれている。

遺構・遺物 遺構は、上述の包含層をベースにして存在しており、大きくわけて江戸時代以降のものと、これらより遡る中世のものとのふたとおりがある。中世の遺構の主なものとしては、掘立柱建物 SB5の一部と、1基の土坑SK6が検出された。土坑出土の土師器皿などからみると、これらの遺構は16世紀後半代のものである。江戸時代以降の遺構の主なものは、園池遺構1基と、これに伴う石組み水路2条、建物跡4棟、井戸2基、土坑50基、柱穴約150基などがあるが、これらは江戸時代以降、昭和の中頃まで存続した屋敷跡を構成する遺構群である。

検出された江戸期以降の建物跡は、SB1~4の4棟である。いずれも、その方位を正方位にとっており、中世の建物SB5が若干方位を振っているのと異なっている。削平のため、いずれもその一部しか確認できなかった。土坑は、主に調査区の南西部で、複雑に切り合った状態で検出された。そのほとんどが、廃棄土坑である。大小さまざまで、プランは楕円形になるものが多いが、不整形のものもある。出土するものには、瓦、陶磁器、土師器、瓦質土器や、焼塩壺、灯明皿、土製玩具、食材残滓などがある。また、調査地南東隅の部分で、地下倉庫と考えられる施設SK3が検出されている。4×1.5 mの長方形プランの竪穴の北西コーナーと南東コーナーにそれぞれ張り出しを設け、この部分に階段を削りだしたもので、深さは0.8 mの遺存であった。この施設に伴う上屋は検出されていない。

園池遺構SG1は、調査地北半で検出された。護岸石積みの多くが抜かれたり、池の中に落ち込んだ状態であった。池は、検出段階では、幅広の溝状を呈した池本体と、その東西に接続する2条の石組み水路、および池本体の南側に接して飛び石や、貼り石を配した施設とで構成された庭となってい

た。この貼り石・飛び石部分は、本来の池の南2/3程度の部分を埋め立てて設けられた施設である。この池は、築造以降、何度かの改修を受けながら昭和まで存続し続けたもので、このような検出時の最終形になったのは、明治以降のことであるということがわかっている。また、この際に池底も嵩上げされている。抜かれた本来の護岸石材の多くは、こういった埋め立ての際の新たな護岸として転用されたものと考えられる。

池の平面プランは、東西に長い紡錘形がくびれたようなかたちを呈している。おおよそ東西長47 m、南北最大幅22 mで、東西の端部にそれぞれ石組みの水路がとりついている。東にとりつき、南東方向へ下るSD1は築造当初から存在していたものではなく、いずれかの段階で設置されたものである。現在でも、池の東端部周辺には護岸石は存在していないが、本来も地山露出の護岸であったものと考えられる。その地山護岸を開削して石組み水路と接続し、排水路としたものである。最終的には、この開削部分をコンクリートの堰で塞ぎ、さらにこの堰の内側に小石を長さ1 m程度詰め込んで、排水の用を廃していた。水路の底レベルは24.4~24.5 mで南東へ下っている。本来の池底レベルが24.0~24.1 m程度、改修後の池底レベルが24.3 m程度であるので、改修後のある段階までの排水を担っていたものであろう。

この池の排水施設として築造当初から存在していた水路は西方向へ延びるSD2である。このことは、当初の池底レベルが西下がりに深くなっていることからもわかる。この水路も石組みのもので、池本体から西へ約6m延びて、土管に接続している。この排水が機能していた最終段階では池本体との接続部分にコンクリート製の水門施設が設置されている。この水門部分には、その後にも2段階の変更が加えられ、方向を南西方向に変えた排水が行われており、近代以降も数度の改修が行われていることがわかる。

SG1北護岸のほぼ中央に位置するくびれ部は、現況では攪乱され痕跡も残っていないが、池全体の形状からみて築山があったとみてよい。さらにそのすぐ西には、長さ1.5 mを越える細長い巨石が倒れ込むように遺存しているので、築山の西で入り江状になったこの部分が滝石組みであった可能性が高い。ちなみにこの池には、発掘調査された範囲では導水用の水路等の施設は存在していない。この池の北直近の上方に存在する萬翠荘の池も江戸時代のものといわれ、城山斜面から滲出する雨水を集めて滝石組みに落とす自然給水となっていることからみて、同様の自然給水であったものと考えられる。

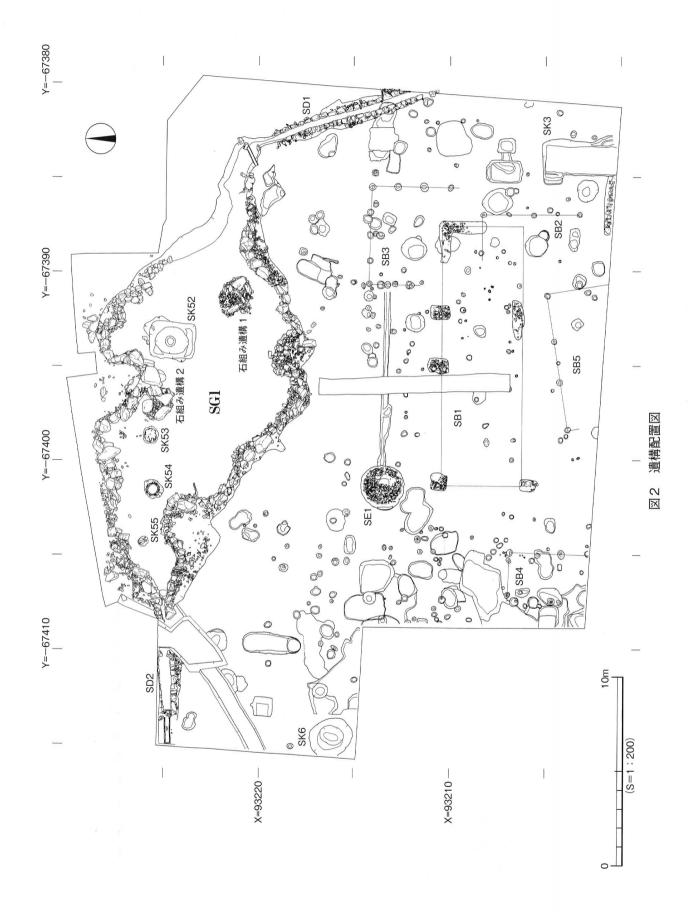
そのほか、大小の石で組んだ遺構が2基検出されている。1基は石組み遺構1としている池南東部の埋め立て土下層から検出されたもので、若干崩れたり石を抜かれたりしているが、本来は2×2m程度の円形プランを呈していたものと思われる。基本的には、後述する石組み遺構2と同様で、大ぶりの石数個を上面の平坦面を揃えるように配置し、このために人頭大から拳大の川原石を敷いたり詰めたりして調整している。石組み遺構2は北側の築山と考えているくびれ部護岸直近に配置された施設で、落ち込んだ護岸石材が一部のしかかったような状況で検出された。おおよそ、1.8×1.4m規模の楕円形に近いプランに石材が集中している。主となる部材は長さ1m近い3石で、上面が平坦に面を揃えるよう三角形に近い配置で据えられ、人頭大から拳大の川原石を詰め、あるいは調整に用いている。先の遺構とともに浮島の基礎あるいは灯籠台のような役割を果たしていたものと考えられる。両者ともに、上面のレベルは24.5mにあるので、水がかりはこのレベルを越えたあたりにあるものと思われる。ちなみに、原位置を保っていると考えている護岸天のレベルは25.0~25.1mにある。

貼り土や敷石・撒き石などの特別な床面施設を持たない池底は、中央より北半分が北方丘陵から続く砂岩質の地山を平坦にカットした面、これより南は斜面堆積あるいは氾濫堆積による小礫混じりの黒色シルトからなっている。この床面から 1 基の魚溜まりと考えられる施設 S K 52 が検出された。検出面のプランは  $2.3 \times 2.0$  mの長方形で、0.5 m程度下がったところで  $1.8 \times 1.5$  mの楕円形平面に変わる。深さは 1.4 mの擂り鉢状を呈する素掘りの竪穴である。

その他、S K 52の西方池底面で東西に一直線に並ぶように、3 基の施設、S K 53~55が検出された。それぞれ形態は異なるが、睡蓮などの水生植物の植栽に用いられた施設と考えられる。S K 53 は、 $0.9\times0.8$  mの楕円形プランで、深さ 0.1 mの非常に浅い竪穴である。S K 54 は、直径 1 mの円形の掘り方の中に、直径 0.5 m、深さ 0.23 mを測る桶の底を抜いたものを据え、裏込めに小礫や瓦片を混ぜた黒色シルトを入れて固めた施設である。また、最も西よりで検出された S K 55 は、直径 0.5 m、深さ 0.2 mの円形に近い平面プランの竪穴に陶器の甕の上半を据えた施設で、その一部が壁面に貼りついた状況で検出された。破片の一部は竪穴の中に残り、また一部は、直近の北護岸裏の攪乱土から出土している。これは、池底を浚えた際にヘドロとともに打ち上げられたものであろう。

その他、遺構が載ったり、切りこんだりしている包含層からは、先述のように氾濫やその他の要因によって堆積した土砂とともに、若干の遺物が含まれている。出土したものには、弥生土器、古墳時代から古代の須恵器、土師器、円筒埴輪・形象埴輪片、紡錘車、碧玉製管玉、耳環などがある。

小 結 今回の調査では、弥生時代から近世あるいは近代までの各時代の遺構・遺物が調査された。これらのうちでも江戸時代の遺構・遺物は、今回の調査の中核をなすものである。歴代の絵図からみると、調査地は蒲生・松平の代を通じて、ひと区画の屋敷地として存在しており、概ね三百石、四百石程度の比較的上級クラスの家臣の屋敷地として利用されてきたようである。屋敷そのものの遺存はさほど良好ではなかったが、この屋敷地の庭に設けられた池は良好な残存状況で検出された。屋敷地から出土する江戸時代の遺物としては、18世紀後半から19世紀前半のものが多数を占めるが、古いところでは17世紀後半のものも一部にみられる。また、SG1床面から検出された施設のうち、SK55としたものに用いられた陶器の甕は唐津焼で、17世紀後半の特徴を備えたものである。この遺物が池の築造年代をそのまま示すものではないが、遅くとも17世紀後半には築造されていたいうことはできよう。現在、調査地西隣の松山地方裁判所や北隣の萬翠荘敷地内といった直近には、江戸時代築造と伝えられる2基の園池が現存しているが、これらの施設の築造年代に関しても重要な手がかりとなるものである。(栗田)



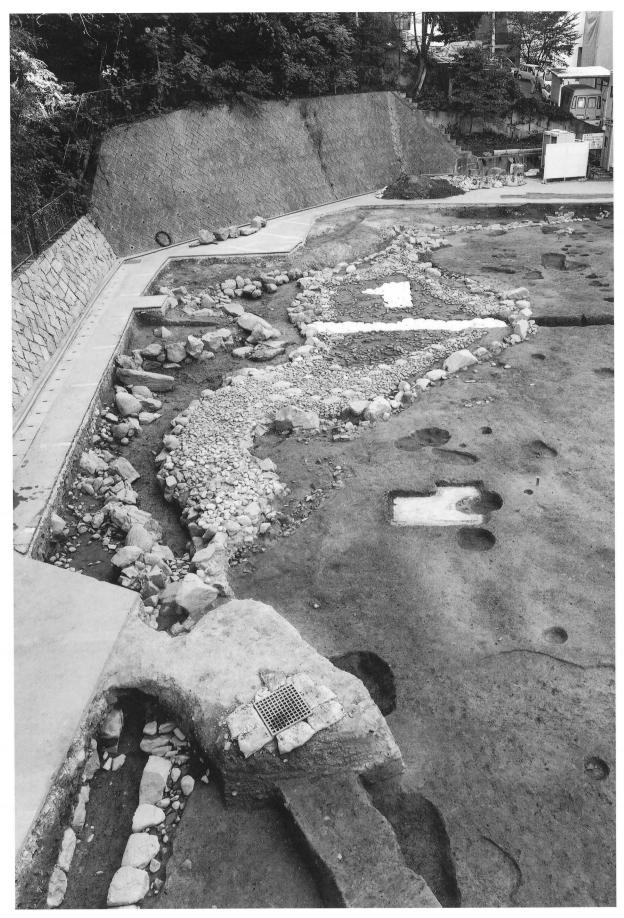


写真 1 園池遺構SG1検出状況 (西より)



写真 2 調査区南半遺構完掘状況 (東より)



写真 3 SG1 北護岸滝石組周辺近景 (南西より)

#### **樽味立添遺跡3次調査地**

所在地 松山市樽味2丁目10番外

期 間 平成15年10月1日~平成16年7月30日

面 積 1,889.42 ㎡

担 当 高尾和長·加島次郎

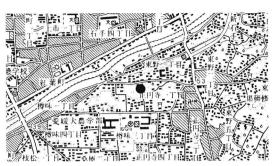


図 1 調査地位置図

経 過 本調査は、松山市道樽味溝辺線道路改良工事に伴う事前発掘調査である。調査地は、松山平野を西流する石手川中流域の左岸に位置し、調査以前は水田と宅地であった。試掘調査からは、土坑、柱穴等を数多く検出したことから、集落関連遺構の広がりと、古地形と古環境復元のための基礎データを得ることを主目的として、本格調査を実施した。

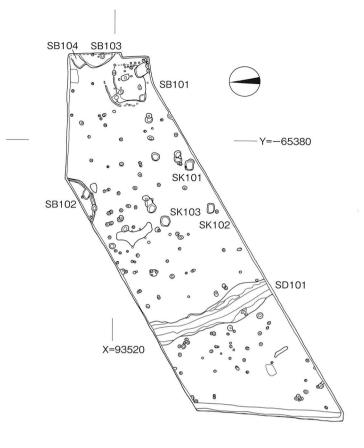
遺構・遺物 調査では、4層の土層を確認した。 I 層は灰黄褐色土(水田耕作土)であり、調査区全域で検出し層厚 15~30 cmを測る。 II 層はにぶい黄褐色土(水田床土)であり調査区全域で検出した。 III 層は2層に分層できる。 II ① 層は黒褐色土で、層厚 8~12 cmを測る。 I 区北西部と II 区北部で検出し、弥生土器・土師器・須恵器が出土した。 II ② 層は黒褐色土で層厚 8~10 cmを測る。 I 区北西部と II 区北部で検出し、弥生後期の土器が出土した。 IV 層は明褐色土及び極暗褐色土であり調査区全域で検出した。 層厚 10~25 cmを測り、 IV 層上面が遺構検出面となる。

検出した主な遺構としては、竪穴式住居址 9 棟(S B  $101 \sim 104$ 、 $201 \sim 204$ 、301)、掘立柱建物跡 1 棟(掘立 201)、土坑 5 基(S K  $101 \sim 104$ 、201)、溝 3 条(S D 101、201、202)、性格不明遺構 3 基(S X  $101 \sim 103$ )、柱穴 460 基(小穴含む)である。遺物は、縄文土器(鉢)、弥生土器(甕、壺、鉢、高坏、器台)、須恵器(壺)、石器(鏃、鎌、石庖丁、台石、敲石)がある。

小 結 本調査では、縄文時代晩期から中世までの遺構と遺物を確認した。検出した遺構は、縄文時代晩期の土坑群と、弥生時代前期末~中期初頭の複数の大溝が注目される。

前者は、I 区中央部から南部に分布し、3 基を検出した。平面形態は長方形を呈し、その規模は長軸 1.2 m、短軸 1.0  $\sim 0.7$  m、深さ 0.19  $\sim 0.27$  mを測る。断面形態は箱形を呈し、一部フラスコ状になるところがある。これら土坑群は、平面・断面形態には規格性が認められ、貯蔵穴として機能していた可能性が高いものと判断される。

弥生時代前期末~中期初頭の溝は、I区中央部に位置する溝(SD101)と、II区南西部から北部中央部に位置する溝(SD201・202)である。これらの溝には、平面形態と規模に違いが見られるものの、出土遺物から同時性の高いものと判断される。SD101は規模が幅3.6~1.6 m、深さ1.2 mを測り、SD201・202は規模が幅2.2 m、深さ0.8 mを測る。このうち、SD101は東に向けて円弧状を呈するものであり、これは、いわゆる「環壕」と呼称されるものである。大溝は規模と堆積状況から判断すると集落を分ける環壕(区画溝)と考えられる。樽味地区においては、該期の大溝の検出は初例となる。既往の調査及び研究からは、該期の大溝(環壕)は中核的集落に伴う例が多く、本遺跡の性格を考える上で大変興味深く参考になるものである。(高尾)



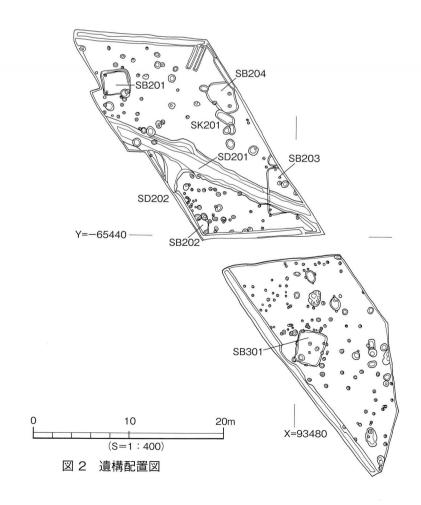




写真 1 Ι区完掘状況 (南西より)



写真 2 Ⅱ区完掘状況 (南東より)

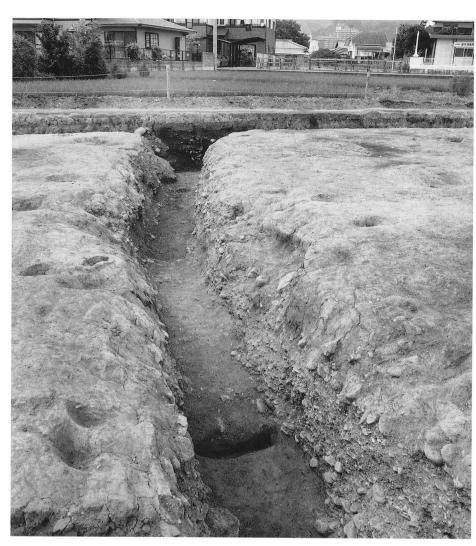


写真 3 SD 101 完掘状況 (南より)



写真 4 SB 301 遺物出土状況 (南西より)

### 東野森ノ木遺跡

所在地 松山市東野1丁目甲43番1外

期 間 平成16年3月22日~同年9月30日

面 積 1.618.57 ㎡

担 当 河野史知:小笠原善治

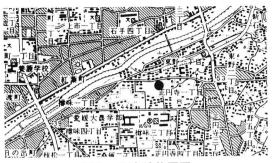


図 1 調査地位置図

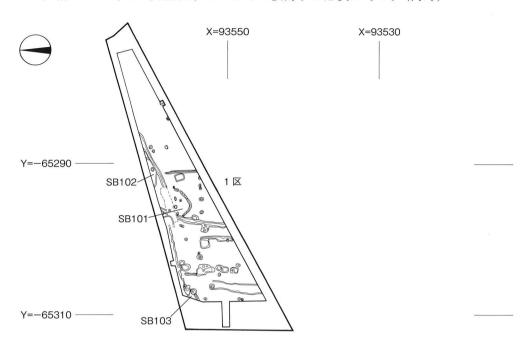
経 過 本調査は、松山市道樽味溝辺線道路改良工事に伴う事前調査である。調査地周辺では、南側に弥生時代前期から古墳時代後期の樽味遺跡、南西には弥生時代後期から古代の樽味立添遺跡、東側には東野お茶屋台古墳群や東野古墳群など、これまでに数多くの調査が行われ、弥生時代から古代にかけての集落関連遺構や墳墓などが多数検出され、これらの様相を考えるうえで重要な地域である。遺構・遺物 調査地は、石手川左岸の扇状地の扇央付近で標高 46 mに立地する。調査以前は住宅地と畑地であった。基本土層は、第 I 層現代の造成土、第 II 層近現代の耕作土、第 II 層近現代の水田床土、第 IV 層灰褐色土(土師器・陶磁器・瓦を包含)、第 V 層明褐色土(土師器・陶磁器を包含)、第 VI 層明褐色土(上面にて遺構を検出)。検出遺構は、竪穴式住居址 7 棟、掘立柱建物跡 3 棟、溝 8 条、土坑 21 基、柵列 1 条、柱穴 83 基、倒木痕 1 基、性格不明遺構 4 基である。これらの遺構は弥生時代後期と中世の 2 期に大別でき、他に古代の遺構も検出した。遺物は主に遺構から出土し、弥生土器、土師器、陶磁器、瓦、石器、鉄器、ガラス製小玉等がある。

【弥生時代】全域において竪穴式住居址を検出しており、安定して調査地周辺に該期における集落の展開がうかがえる。SB201床面からは、炭化材が放射線状に並んだ状態で部分的に検出した状況から、火災を受けた住居の可能性をもつ。SK206は壁体に周壁溝を伴うことから、SB202と同様な小型の竪穴遺構と考えられる。SB301は大型の円形竪穴式住居址であるが、東側から南西部にかけ内側を巡る周壁溝や主柱穴を検出し、住居を拡張する前の痕跡が確認できた。特に南西部の一部には周壁溝が4重にも巡っており、その部分だけ修復等が数回行われた様相を示している。住居址内からは土器や石器・鉄器などに混じり、ミニチュア土器や大型の土錘、ガラス製の小玉なども出土しており、住居の規模や出土品などから集落内の中でも権力者の住居と考えられる。

【古 代】検出した遺構は、SK201だけである。一辺が2m程の正方形状に掘られた土坑で、基底面から土師器椀が据えられた状態で出土しており、遺構の性格を解明する必要がある。

【中 世】全域で溝や土坑・柱穴等の集落遺構を検出しており、該期の貴重な資料が得られた。南北方向に延びる溝の殆どは真北を指向しており、区画性の高いSD301から東側に展開する集落と考えられる。掘立301はやや北側の柱間が延びる総柱の建物であるが、その東側付近にあるSP301からは柱穴に埋納された状態で中国製白磁の四耳壺が検出された。この壺は検出状況より蓋を伴った可能性が強く、壺内の内容物は未検出であったが集落内での祭祀による埋納と考えられる。SP328は基底面に陶器の甕の底部が据えられた埋め甕遺構である。SD201とSD202は1間程度の間隔をもち平行な位置関係で直線的に延びており、この検出状況より道路と側溝の可能性をもつ。

小 結 今回の調査では、弥生時代後期頃の竪穴式住居址を主体とした集落を形成する遺構や遺物と、中世頃の溝で区画された集落址を検出し、当時の集落構造を解明する資料が得られた。今後の整理課題として、当地における弥生時代後期の詳細な集落構造や住居構造、古代集落や中世集落の広がりやSP301の性格などを周辺の調査成果をふまえて検討する必要がある。(河野)



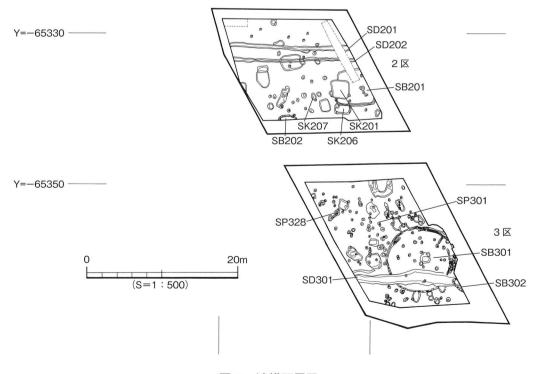


図 2 遺構配置図

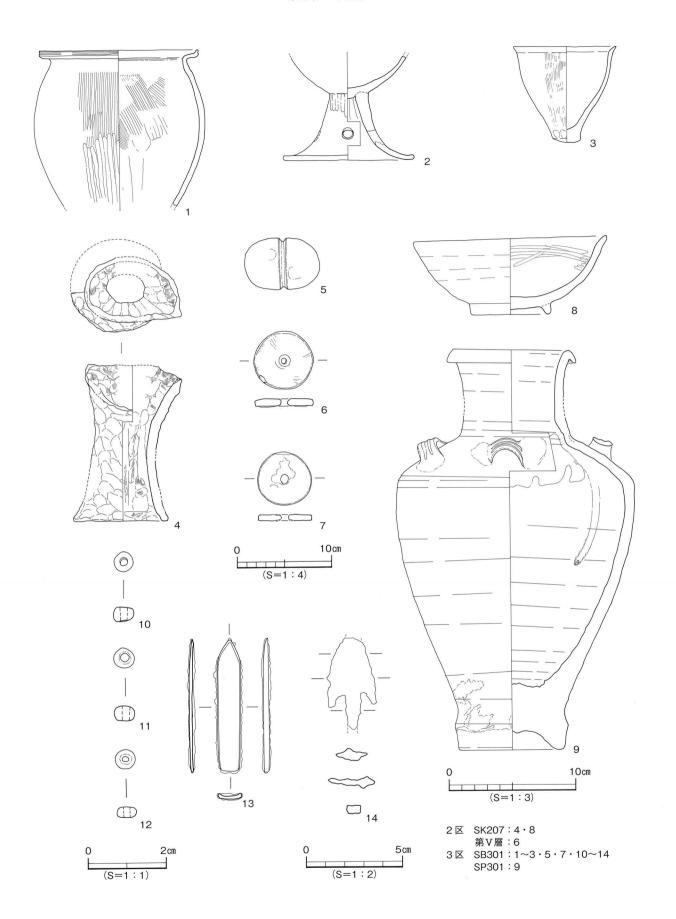


図 3 出土遺物実測図

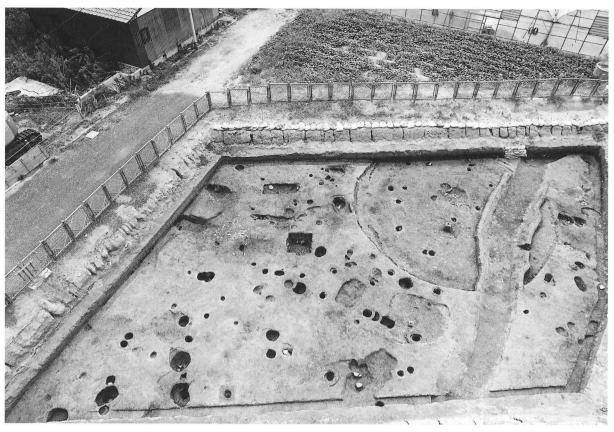


写真 1 3区遺構完掘状況 (北より)



写真 2 3区白磁壺出土状況 (南より)

### 東野森ノ木遺跡2次調査地

所在地 松山市東野1丁目甲53番外

期 間 平成16年8月2日~平成17年1月31日

面 積 794.46 ㎡

担 当 加島次郎·髙尾和長

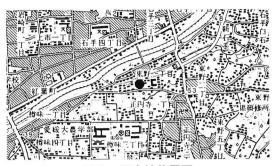


図1 調査地位置図

経 過 本調査は、松山市道樽味溝辺線道路改良工事に伴う事前の発掘調査である。本調査地は松山平野の北東部、石手川の氾濫に起因する扇状地上に立地し、調査以前は水田で、標高 46.5 mを測る。 周辺では、これまで本格調査に恵まれていないため、遺跡の展開や集落動向に関して基礎となり得る 精緻な発掘調査が待ち望まれていた。

事前に試掘調査を実施したところ、土坑や柱穴を検出し、さらには弥生土器、古墳時代の土師器と 須恵器を含む遺物包含層を確認した。このことから、遺跡の存在が明らかとなり、本格調査を実施す る運びとなった。

遺構・遺物 基本層位は I 層真砂土(層厚 50 cm)、 II - ①層耕作土(層厚 20 cm)、 II - ②層床土(層厚 5 cm)、 II - ③層褐灰色土(層厚 10 cm)、 III 層黒色土(層厚 10 ~ 35 cm)、 IV 層黄橙色土(層厚 10 ~ 50 cm)である。このうち、遺物包含層は III 層で、弥生土器を主体として若干の土師器と須恵器が包含されており、本層は古墳時代までに堆積した遺物包含層の可能性が高いものと考えられる。 IV 層以下の旧地形は調査区北東から南西へ向けて緩傾斜しており、本調査地が微高地の尾根上付近に位置することが確認されている。遺構は IV 層上面で検出することができた。

検出遺構は竪穴式住居址 3 棟、土坑 20 基、柱穴 100 基、性格不明遺構 1 基である。遺構の帰属時期は、遺構の検出面、重複関係、埋土に加えて出土遺物をも考慮した上で言及すべきであるが、出土遺物の洗浄が未だ完了していない現時点においては、全て遺構についてその帰属時期を確定するには至っていない。以下では、検出遺構の主要なものとなる、弥生時代中~後期の 502 号竪穴式住居址(SB 502)を取り上げて、その概要について述べておきたい。

SB 502 は対象地東半部(V区中央南端)に位置する。調査当初、住居の南半部についてはV区南壁外へ続いているため、その輪郭や規模、さらに埋土内の遺物状況については判断材料を持ち得ていなかった。調査途中で南壁の一部拡張を行い、埋土の精査を試みて、先の判断材料を獲得することが出来た。平面形態は長方形を呈し、長軸方向は南北方向を指向する。規模は東西方向 5.5 m、南北方向 4.8 m、深さ 30 cmを測り、屋根を 4 本柱で支える構造となる。住居の中央には炉が設けられている。住居埋土は黒色土を基調とし、ほぼ水平に近い堆積状況が認められた。さらに、埋土を詳細に観察したところ、本住居は、先に存在していた円形の竪穴式住居址(SB 503)と一部重複する形で構築されたことが判明している。ただし、この円形住居は、遺存が不良で床面の埋土が局部的に認められるにすぎなかった。住居埋土には多量の炭化材の小片や焼土粒を含み、多くの遺物が認められている。遺物の構成は、多量の弥生土器(甕、壺主体)、鉄器 2 点(袋状鉄斧他)、勾玉 1 点(翡翠製)である。

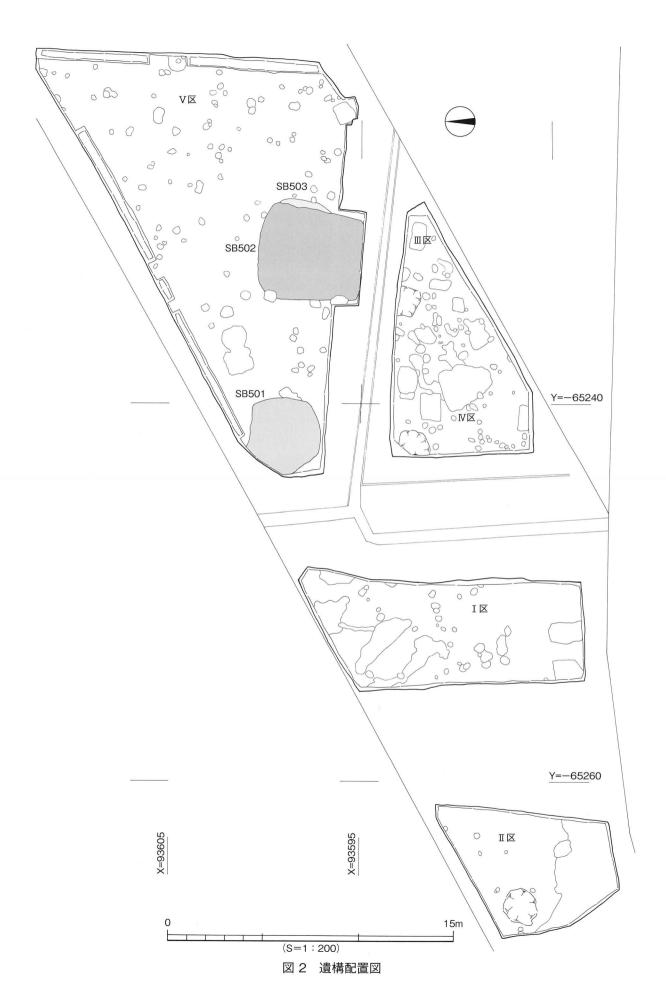




写真 1 桑原中学校生徒(写真奥 2 人)を交えた遺 構精査の様子 (西より)

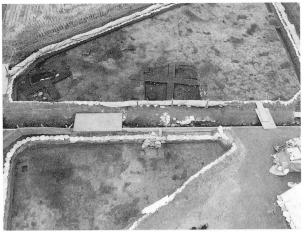


写真 2 Ⅲ~V区遺構検出状況 (南より)

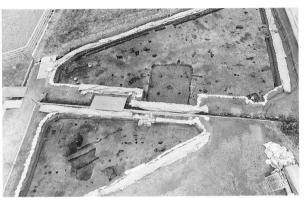


写真 3 Ⅲ~V区遺構完掘状況 (南より)



写真 4 V区SB 502 埋土下層の遺物出土状況(北より)

これらの遺物は、住居埋土の下層部に集中する傾向がある。

小 結 今回の調査では、竪穴式住居址、土坑、柱穴、性格不明遺構などの集落関連遺構を多数検出し、主に弥生時代中~後期の遺跡を新たに確認した点が特筆される。この成果は当地区における弥生集落の動態と景観を復元する上でひとつの基準資料になるものと考えられる。なかでも、弥生時代中~後期に帰属するSB502は、竪穴住居の廃絶に伴い、遺物の破砕散布や完存品の据え置きを行う過程で埋め戻しがなされた可能性が示唆される稀少な事例であり注目しておきたい。本住居から出土した遺物のうち、土器と共伴した2点の鉄器と勾玉は、その稀少さから、住居廃絶とその埋め戻しに際し、特別な意識が働いた可能性のあることが想起される。

今後は出土遺物の整理を積極的に進めることで、遺構の時期の絞り込みをおこない、当地区における弥生時代の集落動態を検証していきたい。(加島)

## 樽味四反地遺跡 9 次調査地

所在地 松山市樽味 4丁目 228番3外

期 間 平成16年8月2日~平成17年2月28日

面 積 543.37 m<sup>2</sup>

担 当 加島次郎·髙尾和長

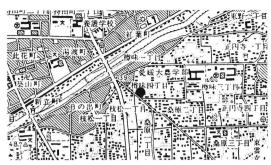


図1 調査地位置図

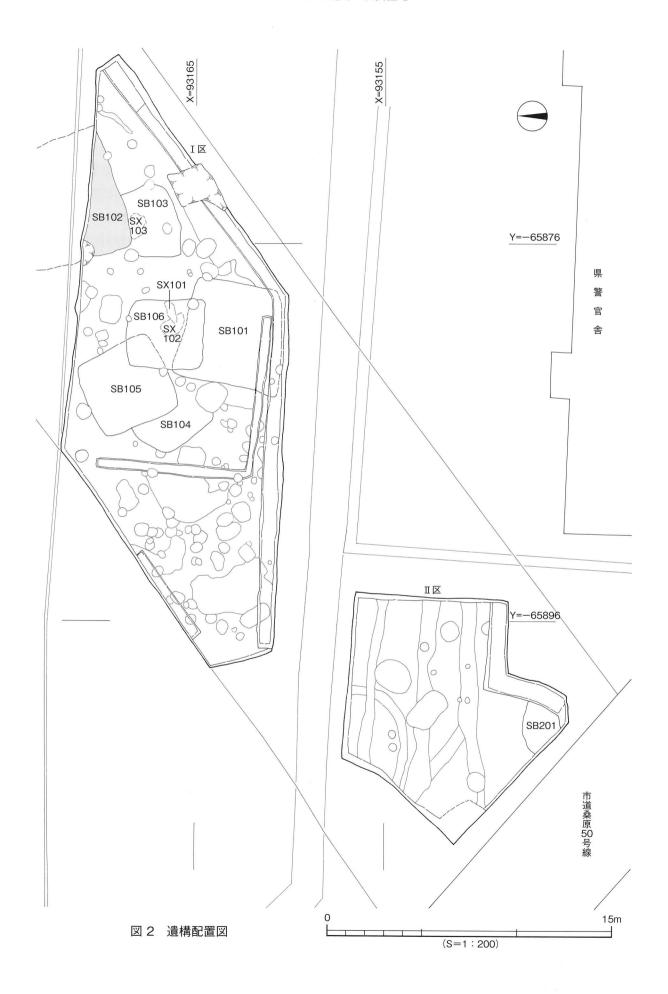
経 過 本調査は、松山市道樽味溝辺線道路改良工事に伴う事前の発掘調査である。調査地は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の「No.81 樽味遺物包含地」内にあり、周知の遺跡として知られている。本調査地は松山平野の北東部、石手川の氾濫に起因する扇状地上に立地し、調査以前は宅地であった。現地形は調査地南西側に接する市道桑原 50 号線を境界とし、この南西一帯に比べて本調査地の地表面は 3 m程度高くなっており、標高はおおよそ 38 mを測る。周辺では、これまでに枝松遺跡 1 ~6 次、樟味四反地遺跡 1 ~8 次、樟味高木遺跡 1 ~10 次の調査等、数多くの本格調査が実施され、周知の遺跡として知られている。これらの調査により、弥生時代中期後葉~後期中葉、後期終末、古墳時代初頭、古墳時代中期末~後期、古代、中世の生活関連遺構が広く展開することが明らかとなりつつある。平成 15 年度に調査された同遺跡 8 次調査地からは古墳時代初頭のあらたな超大型建物が確認されており、これは、首長にかかわる重要な建物群が存在したことを裏付ける特筆すべき調査成果といえる。

今回、事前に試掘調査を実施したところ、溝、土坑、柱穴等の「生活関連遺構」を多数検出し、さらには弥生時代~古代の遺物を包含する黒色系堆積土の「遺物包含層」を確認したことから、本格調査を実施する運びとなった。本格調査の主目的には、集落の帰属時期とその広がり、古墳時代初頭の超大型建物に関連する諸施設の有無、古環境や古地形を復元する上でのデータの獲得などがある。

遺構・遺物 基本層位は I 層真砂土(層厚  $10 \sim 44 \, \mathrm{cm}$ )、  $II - ① 層耕作土(層厚 <math>4 \sim 30 \, \mathrm{cm}$ )、 II - ② 層床土(層厚  $2 \sim 20 \, \mathrm{cm}$ )、  $II - ③ 層褐灰色土(層厚 <math>6 \sim 18 \, \mathrm{cm}$ )、 III 層黒色土(層厚  $58 \, \mathrm{cm}$ )、 IVI 層黄橙色土(層厚  $10 \sim 85 \, \mathrm{cm}$ )である。このうち、遺物包含層は III 層で、弥生土器、土師器、須恵器等が多量に包含されており、本層は古代までに堆積した遺物包含層の可能性が高いものと考えられる。なお、遺物包含層の精査中に、弥生土器(大型破片)や、須恵器(ほぼ完形に復元可能な無蓋高坏)の出土をみている。ただし、これらの遺物に伴う遺構を認識することができなかったことから、調査では、これらを SX (性格不明遺構)に伴う遺物群として扱っている。なお、土層堆積を確認する目的で IVI 層以下の掘り下げを人力にておこなったものの、人工遺物は全く確認することができなかった。

調査では、対象地北をI区、西端をII区として呼称し、確認された遺構については、区毎に番号を付して精査ならびに記録化をおこなった。遺構の多くはIV層上面にて検出することができたものであり、調査区のほぼ全域に密に分布する傾向が認められた。遺構確認面のIV層上面の地形を測量したところ、調査地は北東から南西方向に延びる微高地の南西部突端にあたり、主稜線から南にやや下がる緩傾斜地に該当する可能性が高いことが判明している。

検出した主要な遺構は竪穴式住居址6棟、掘立柱建物跡1棟、土坑20基、柱穴60基である。これら

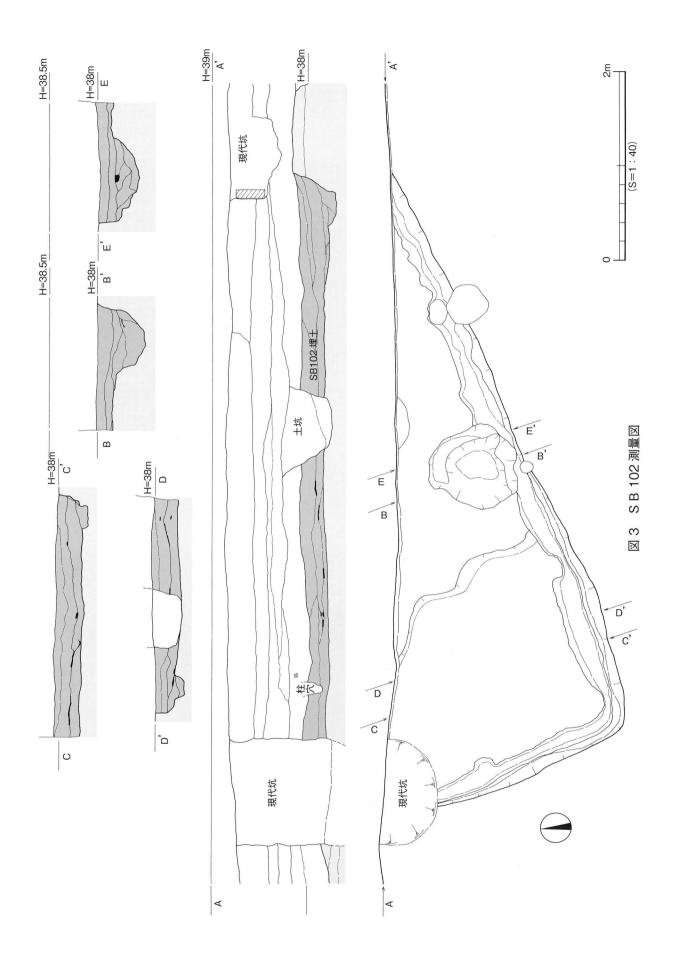


遺構の帰属時期については、遺構の検出面、重複関係、埋土に加えて、出土遺物も参考にした上で、 言及すべきであるが、現時点において出土遺物の洗浄が完了していないため、確定することは差し控 えておきたい。ただし、遺構埋土の大半が黒色系の土で、出土遺物には古墳時代中~後期のものが伴 うことを根拠として、遺構の多くはこの時期に該当する可能性があるとの見通しは得られている。

以下では、注目すべき調査所見が得られた古墳時代中期前葉の102号竪穴式住居址(SB102)を とりあげてその概要を述べておきたい。SB102は対象地北東端部(I区北東端部)に位置する。調 査当初、住居の北半部についてはI区北壁外へ続いているため、その輪郭や規模、さらに埋土内の遺 物状況については判断材料を持ち得ていなかった。調査の終盤に北壁の拡張を行い、埋土の精査を試 みて、先の判断材料を獲得することが出来た。住居の平面形態は長方形を呈し、長軸方向は東西を指 向する。規模は東西方向 6.4 m、南北方向 5.4 m、深さ 24 ~ 50cm を測り、北壁には造り付けの竈が みられる。主柱穴については現時点では判然としていないが、付帯施設として竈対置土坑と周壁溝、 さらには間仕切りの直線的な小溝を確認している。住居埋土は黒色土を基調とし、ほぼ水平に近い堆 積状況が認められた。さらに、埋土を詳細に観察したところ、各土層の境界には炭化材の小片や焼土粒、 さらには遺物が存在することが判明している。遺物には土師器(甕、壺、高坏、甑)と須恵器(坏蓋、甕、 壺)とがあり、これらは埋土の下層、すなわち住居の床面付近に集中する傾向にある。ただし、その 出土状況は一律ではなく、土師器では高坏が多く、完形品が横倒しの状態や、分割された状態で出土 したケースがある。分割されたものには、坏部と脚部を分離した上で、坏部内に脚部を据え置いたも のがある。また、甑には、直口する口縁をもち、外面には格子叩きが看取される破片がある。これと は別個体の甑は、器形が緩やかに外反し、胴部中位付近に一組の把手の付くものであり、外面には叩 きはなく、縦〜斜めの刷毛調整である。これは竈の中央にて大きな破片が折り重なって出土しており、 意図的に破砕された可能性が高いものとみられる。須恵器には壺が2個体以上含まれており、その出 土状況と接合関係の検証から、これらは明らかに意図的に破砕・散布された可能性が高いものと判断 され、先述した土師器の高坏とは全く異なる出土状態であり、興味深い。これら遺物の出土状況(特 に完形品の横倒しや分割した高坏の存在)と住居埋土との関係を総合すると、このSB 102 は住居廃 絶時に人為的に埋め戻された可能性が高いものと推察できる。さらに、この埋め戻しには遺物(主に 土師器高坏と須恵器壺)の据え置き、分割、破砕・散布がなされ、住居に供献されたこれら遺物を強 く意識した上での埋め戻しが入念になされた状況を復元することが可能である。

小 結 今回の調査では、古墳時代中~後期を主体とした遺構と遺物を確認することができた。確認された遺構の大半は生活関連遺構であり、これは既往の調査成果を一部追認するものとなる。ただし、 古墳時代初頭に帰属する超大型建物に関連する新たな遺構を確認するには至らなかった。

さて、注目される遺構には古墳時代中期前葉の竪穴式住居址(SB102)がある。精査の結果、住居廃絶に伴い、土師器と須恵器を用いた儀礼行為が執行された可能性の高いことが確認された。これは、当地域における竪穴式住居址の調査としては初例となり、注目される所見である。樽味四反地遺跡が立地する石手川中流南岸域では、古墳時代の集落が中期から後期まで継続して展開することが知られる。集落が一定期間継続して展開する地域では、SB102のように、「うつわ」を用いた儀礼行為を執行した上で、住居の人為的埋め戻しがなされた類例の増加が予想される。今後、本調査地周辺の調査では、このような視点も考慮に入れながら、検出遺構に対する精査と記録化(測量と写真撮影)を継続しておこない、検証を進める必要があることを付記しておきたい。(加島)





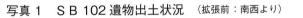




写真 2 SB 102 遺物出土状況 (拡張前:北東より)



写真 3 現地説明会開催の様子 (北東より)



写真 4 SB 102 北壁土層 (拡張前:南より)

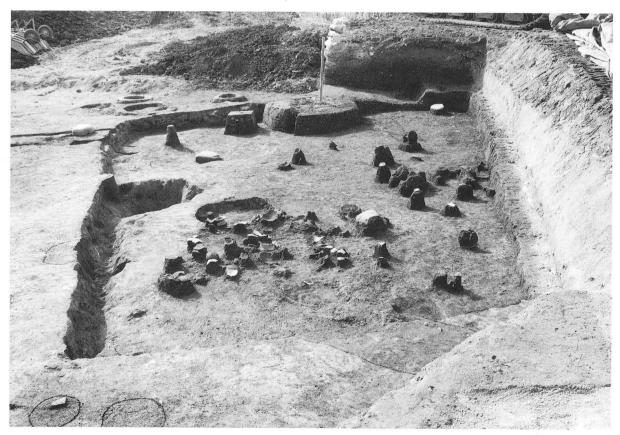


写真 5 拡張後のSB 102 遺物出土状況 (北東より)

## 

所在地 松山市樽味 4丁目 179番1外

期 間 平成16年2月2日~同年7月31日

面 積 1,041 ㎡

担 当 加島次郎

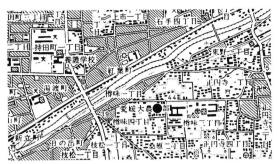


図 1 調査地位置図

経 過 本調査は、松山市道樽味溝辺線道路改良工事に伴う事前の発掘調査である。調査地は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の「No.81 樽味遺物包含地」内にあり、周知の遺跡として知られている。本調査地は松山平野の北東部、石手川の氾濫に起因する扇状地上に立地し、調査以前は宅地であった。周辺では、これまでに樽味高木遺跡 1~10次、樽味遺跡 1~3次、樽味四反地遺跡 1~8次の調査があり、貴重な調査成果が数多く得られており、周知の遺跡として知られている。これらの調査により、弥生時代中期~古墳時代後期の集落動態と古代の動向、さらには古墳時代初頭の首長層にかかわる建物群の配置と旧地形との関係等、注目すべき歴史的事実が相次いで確認されるに至り、当地周辺における精緻な発掘調査の重要性が増しているといえよう。事前に試掘調査を実施したところ、竪穴式住居址、土坑、柱穴等の「生活関連遺構」を多数検出し、さらには弥生~古墳時代の遺物を包含する黒色系堆積土の「遺物包含層」を確認したことから、対象地内には遺跡が存在することが確認され、本格調査を実施する運びとなった。本格調査の主目的としては、集落の帰属時期とその広がり、古環境や古地形を復元する上でのデータの獲得などが挙げられる。

遺構・遺物 基本層位は I-①層真砂土(層厚 30~cm)、 I-②層耕作土(層厚 15~~35~cm)、 I-③ 層旧耕作土(層厚 10~cm)、 II 層灰黄褐色土、 II 層黒色土(層厚 30~cm)、 IV 層浅黄橙色土(層厚 15~cm) である。このうち、遺物包含層は II 層と II 層で、とくに調査地に広く分布していた II 層には弥生土器、土師器、須恵器等が多量に包含されており、本層は古代までに堆積した遺物包含層の可能性が高いと考えられる。なお、土層堆積を確認する目的で IV 層以下の掘り下げを人力にておこなったものの、人工遺物は全く確認することができなかった。

調査では、対象地を  $I \sim VI$ 区に区分し、確認された遺構については、区毎に番号を付して記録化をおこなった。遺構の多くはIV層上面にて検出することができたものであり、II区を除く各区からは生活関連遺構が密に分布する傾向が認められた。遺構確認面のIV層上面の地形を測量したところ、調査地は北東から南西方向に延びる微高地付近に位置し、主稜線から南にやや下がりつつある緩傾斜地に該当する可能性が高いことが判明している。

検出した主要な遺構は竪穴式住居址 11 棟、掘立柱建物跡(建物) 1 棟、溝 1 条、土坑 10 基、柱穴 120 基である。これら遺構の帰属時期については、遺構の検出面、重複関係、埋土、さらには出土遺物も考慮したところ、三期(弥生時代中期後葉、後期後葉、古墳時代中期末~後期初頭)に大別されることが明らかとなった。以下では、注目すべき調査所見が得られた弥生時代中期後葉の建物 101、土坑 101 (S K 101)、土坑 106 (S K 106)、同時代後期後葉の竪穴式住居址 (S B 602) をとりあげ

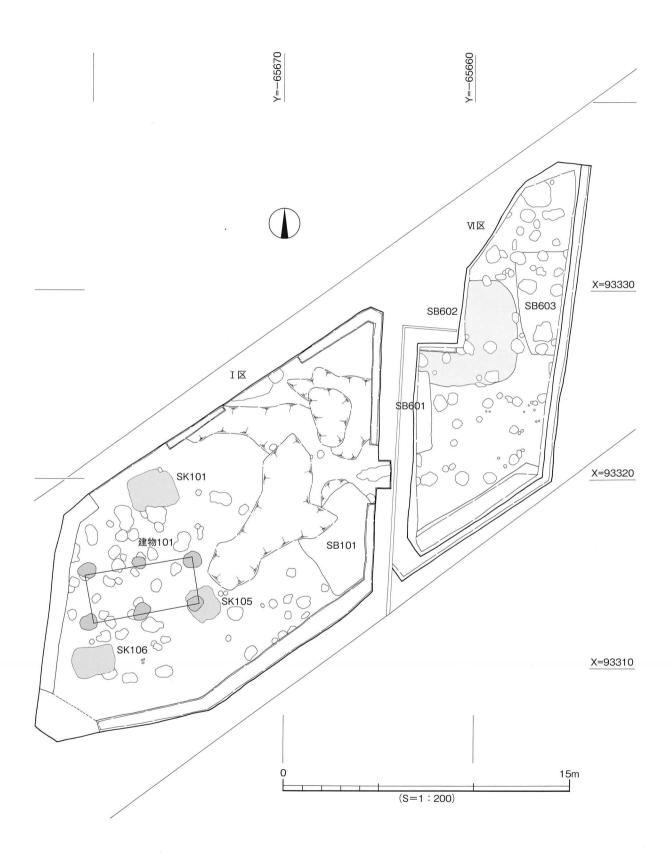


図2 I区・VI区遺構配置図



写真 1 Ι区完掘状況 (東より)

てその概要を述べておきたい。

建物 101 は I 区西半部に位置し、6 基の柱穴で構成される 2 間× 1 間の掘立柱建物である。建物の平面形態は長方形を呈し、建物主軸は東西方向を指向し、 $N-83^\circ-E$  となる。建物規模は桁行 2 間で 5.7 m、梁行 1 間で 2.5 mを測り、床面積は 14.25 ㎡である。建物を構成する柱穴のうち、柱穴④ は S K 115 を切り込んで構築されていることを確認しており、この建物は土坑の廃絶・埋没後に構築されたと理解される。各柱穴の掘りかた埋土からは拳大程度の円礫が大量に確認されており、これは、建物の柱を据え置くための措置と考えることができる。なお、柱穴⑥では、精査時の断面観察により、柱が抜き取られていたことが確認されている。各柱穴からは、弥生土器(甕・壺・鉢)が出土した。

SK101は、建物101の北2.7mに位置し、平面形態は隅丸の不整長方形を呈する。規模は長さ2.4m、幅2.0m、深さ10㎝を測り、断面形態は逆台形をなす。埋土は小指先大の橙色土ブロックが混じる黒色土である。遺物は弥生土器(甕・壺・高坏)と石器(鑿状片刃石斧)があり、これらの多くは土坑床面に接して出土している。遺物には完存品はみられず、全てが破損品であることから、本遺構は貯蔵施設としての機能が停止した後に生活廃棄物を処理するごみ穴として活用されていた可能性が考えられる。

SK 106 は、建物 101 の南西 1.3 mに位置し、平面形態は隅丸長方形を呈する。規模は長さ 2.3 m、幅 1.6 m、深さ 20 cmを測り、断面形態は皿~逆台形をなし、埋土はSK 101 と共通である。埋土は二層に大別され、遺物の多く上層と下層の境界で確認されており、遺物には弥生土器(甕・壺・鉢など)と石器(石庖丁・敲石)がある。このうち、石庖丁は在地の緑色系片岩を用いた磨製品で、破損後に端部に抉りを施した再加工品である。

SB 602 は、VI区中央部に位置し、平面形態は隅丸方形を呈する。住居の西側は調査区外へ続き、南西部は古墳時代中期末~後期初頭に帰属するSB 601 に切られる。規模は東西 5 m以上、南北 5.4 m、深さ 30 cmを測り、埋土は黒色土で、上層と下層に大別でき、下層には炭化物と炭化材片の多い傾向が認められた。内部施設には周壁溝の一部と土坑状の浅い落ち込み 1 基を確認したものの、主柱穴を確認するには至らなかった。遺物は住居床面に接して弥生土器(甕・壺・高坏)と石器とが出土し、なかでも完存する有溝石錘が伴う点は、遺跡の立地(地理的環境)と性格を考える上で興味深い。

小 結 今回の調査では、弥生時代中期後葉、後期後葉、古墳時代中期末~後期初頭を主体とした遺構と遺物を確認することができた。確認された遺構の大半が生活関連遺構であることは、既往の調査成果を一部追認するものである。ただし、古墳時代初頭に帰属する超大型建物に関連する新たな遺構を確認するには至らなかった。

さて、注目される遺構には弥生時代中期後葉の建物 101 と S K 101・106 とがある。これらは、平面形態と規模、さらには断面形態から貯蔵施設しての機能が考えられ、建物を高床倉庫、土坑を穴倉として理解しておきたい。発掘調査時における弥生時代中期の貯蔵施設群の抽出は、調査地周辺における既往の調査を顧みても稀少な事例であり、今後の整理と分析、さらには弥生時代の集落復元における新たな視点として注目しておきたい。これにより、調査地周辺には弥生時代中期後葉の集落が広く展開していた可能性が高まり、今後は、遺構配置と集落規模といった具体的様相の確認が求められることになろう。

野外調査(発掘調査)で得られた多くの情報については、報告書刊行に向けて予定されている屋内調査(室内整理)でさらなる整理と分析を試みた上で、詳細かつ的確に報告する所存である。(加島)

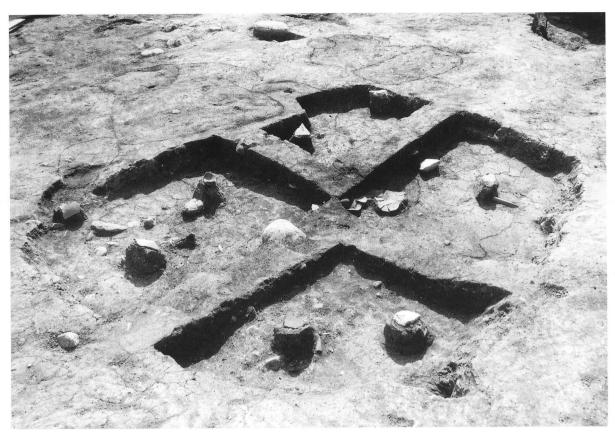


写真 2 弥生時代中期後葉の貯蔵穴 (SK 101 遺物出土状況: 北東より)

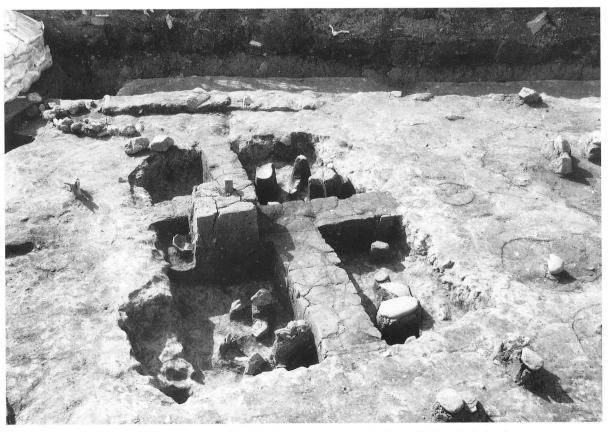


写真 3 弥生時代中期後葉の貯蔵穴 (SK 106 遺物出土状況: 北東より)



写真 4 弥生時代中期後葉の建物 (建物 101:北東より)

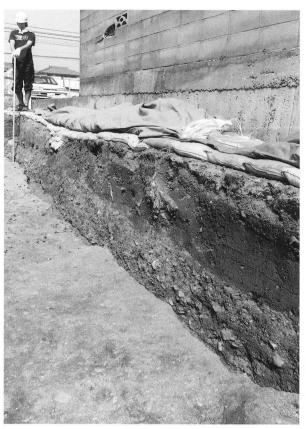


写真 5 Ι区東壁 (南西より)

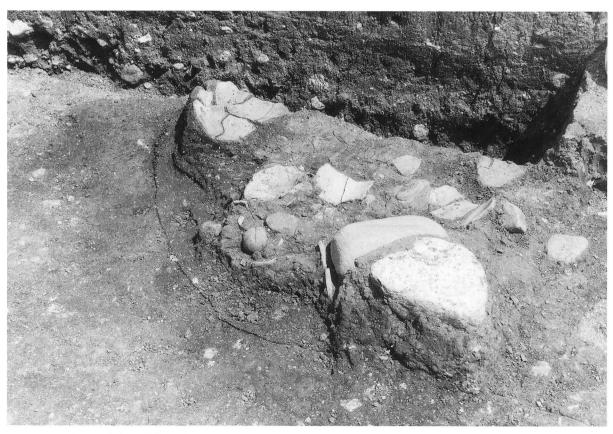


写真 6 弥生時代後期後葉の竪穴住居 SB602 における有溝石錘他遺物出土状況 (南より)

## 東野お茶屋台遺跡6次調査地

所在地 松山市東野 4 丁目乙 222 番 2 · 3、

223番の一部

期 間 平成16年7月16日~同年10月15日

面 積 835 m²

担 当 吉岡和哉·栗田茂敏



図1 調査地位置図

経 過 本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「No.79 お茶屋台古墳群」内における、宅地開発に伴う事前の発掘調査である。申請地の周辺では、これまでに東野お茶屋台遺跡として5度の発掘調査が実施されており、県指定史跡東野お茶屋跡に関連する遺構の他、特に5世紀から6世紀にかけての古墳が濃密に分布することが判明している。試掘調査を実施した結果、申請地の南側に偏った位置より古墳の周溝と考えられる溝状遺構を数条確認し、埋蔵文化財が存在する可能性の高い箇所に対して調査区を設定し、本格調査を実施する運びとなった。

遺構・遺物 今回、東野お茶屋跡に伴う遺構や遺物を確認することができなかったが、5世紀中葉から6世紀後半頃までに築造された6基の古墳を確認することができた。

【1区】古墳に伴う周溝を1条検出した。他に耕作に伴うと考えられる溝状遺構や、土坑、獣骨を多量に含むピット等を複数検出したが、これらは全て近現代に掘られたものである。

【2区】 5基の古墳に伴う周溝をそれぞれ1条ずつ検出した。また1区と同様に、近現代の耕作によって掘り込まれた土坑や古墳時代以前の倒木痕などを確認した。

21 号墳は調査区の北東部に検出した古墳で、墳丘及び主体部は後世の開発により消失している。 一部が未検出であるため断言できないが、直径が約 15.9 mを測る円墳の可能性が高い。周溝の幅は 1.3~2.2 mを測り、埋土は4層〔第1層:暗黒褐色微粒土、第2層:褐灰色微粒土+黒灰色微粒土、 第3層:黒色~黒褐色粘質微粒土、第4層:暗灰色粘質微粒土(橙灰色土混)〕に分けることができる。 古墳周辺の地形が南西部及び南東部に向かって緩やかに落ち込むことが判明しており、当古墳に伴う と考えられる遺物が崩落した状態で確認された。出土遺物には須恵器の大甕、広口壺、蓋杯、塵など がある。出土遺物より6世紀中葉~後半頃の古墳であると考えられる。

22 号墳は調査区の中央部西側に検出した直径約9.5 mを測る円墳で、出土遺物より5世紀後半~末頃に築造されたと考えられる。周溝の幅は0.5~1.2 mを測り、墳丘及び主体部は後世の開発によって削平され確認できない。周溝の埋土は4層に分けることができ、第1層:暗褐色粘質微粒土(暗灰色土~黄橙色土混)、第2層:黒色~黒褐色粘質微粒土、第3層:暗褐灰色粘質微粒土(黄橙色土混)、

第4層: 橙灰色粘質微粒土 (暗灰色土混)である。出土遺物には須恵器の蓋杯、弥生土器などがあるが量が少なく、ほとんどが第2層中からの出土である。

23 号墳は調査区の中央部南東側に検出した円墳で、直径が7~7.5 mを測る。地形的あるいは位置的な制約を受けた結果、古墳の北西側が丸みを失い直線的になっている。他の古墳と同様に、墳丘及び主体部は開発の為に消滅しており、今回確認したのは幅約0.36~0.9 mを測る周溝だけである。周溝の埋土は2層に分けることが可能で、第1層:黒褐色~黒色粘質微粒土(暗褐色土混)、第2層:暗褐色粘質微粒土(暗灰色土混)である。周溝内部から出土した遺物には、弥生土器、須恵器の有蓋高杯の蓋などがあり、その特徴より当古墳は5世紀後半~末頃に造られた可能性が高い。

24 号墳は直径約 10.4 m、周溝幅 0.8 ~ 1.3 mを測る円墳で、調査区の南部にて検出した。周溝の埋土は 3 層に分けられ、第 1 層:暗灰色~暗褐色粘質微粒土(暗灰色土混)、第 2 層:黒色~黒褐色粘質微粒土(灰褐色~黄橙色土混)、第 3 層:暗灰色粘質微粒土(黄橙色土混)である。遺物は、周溝の第 2 層中より須恵器の蓋杯、大型略、器台、弥生土器などが出土している。墳丘及び主体部は後世の開発により消失しており、出土遺物より 5 世紀後半~末頃の築造と考えられる。

14 号墳は調査区南西隅に検出した古墳で、1976年に調査した東野お茶屋台遺跡 2 次調査地で確認している 14 号墳と同一の古墳であると考えられる。当古墳の北東側から東側に位置する 22 号墳及び 24 号墳との間に浅い谷状地形を挟むため、周溝の外郭線を明確に検出することができなかった。周溝の埋土は 3 層に分けることが可能で、第 1 層:暗褐色粘質微粒土(黒褐色土混)、第 2 層:暗褐色粘質微粒土、第 3 層:暗灰色粘質微粒土(黒褐色土、橙灰色土をまばらに含む)である。周溝内より出土した遺物は無いが、谷状地形に流れ落ちた状態で 6 世紀代の須恵器が出土している。

小 結 今回の調査では、5世紀中葉~6世紀後半頃までに築造された6基の古墳を確認することができた。この結果、お茶屋台古墳群の中に新たに5基の古墳が追加され、古墳群の広がりが確認できたことは大きな成果である。また特に、20号墳では周溝の北部で須恵器を用いた祭祀が行われた可能性が高く、得られた須恵器は一括性の高い資料として貴重である。しかしながら、今回調査した古墳は、全て後世の削平によって墳丘および主体部が消滅しており、多角的な視点で古墳群を形成した集団の実像に迫ることができないのは残念である。(吉岡)

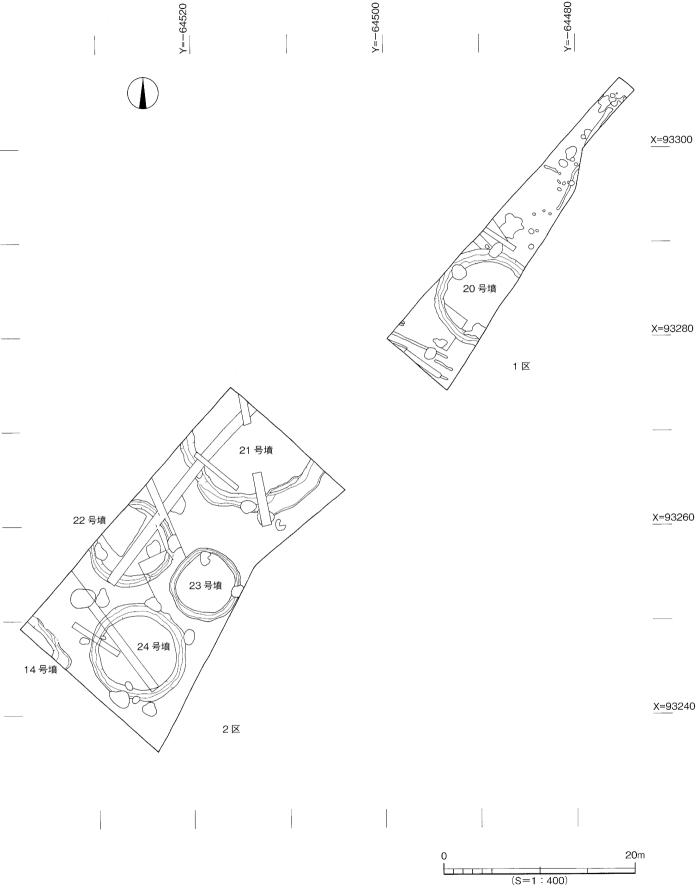


図 2 遺構配置図

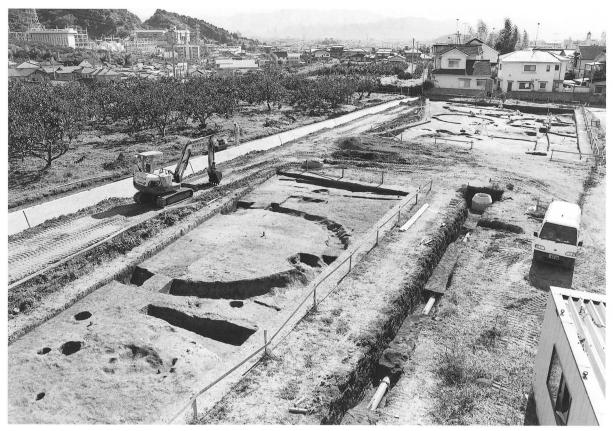


写真 1 遺構完掘状況 (北東より)

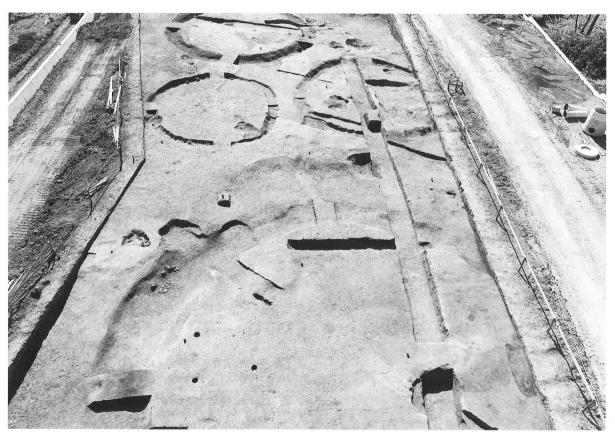


写真 2 2区遺構完掘状況 (北東より)

#### <sup>えだまっ</sup> 枝松遺跡8次調査地

所在地 松山市枝松3丁目7-14外

期 間 平成16年2月2日~同年8月12日

面 積 1.688 ㎡

担 当 相原浩二·武正良浩

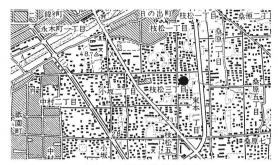


図1 調査地位置図

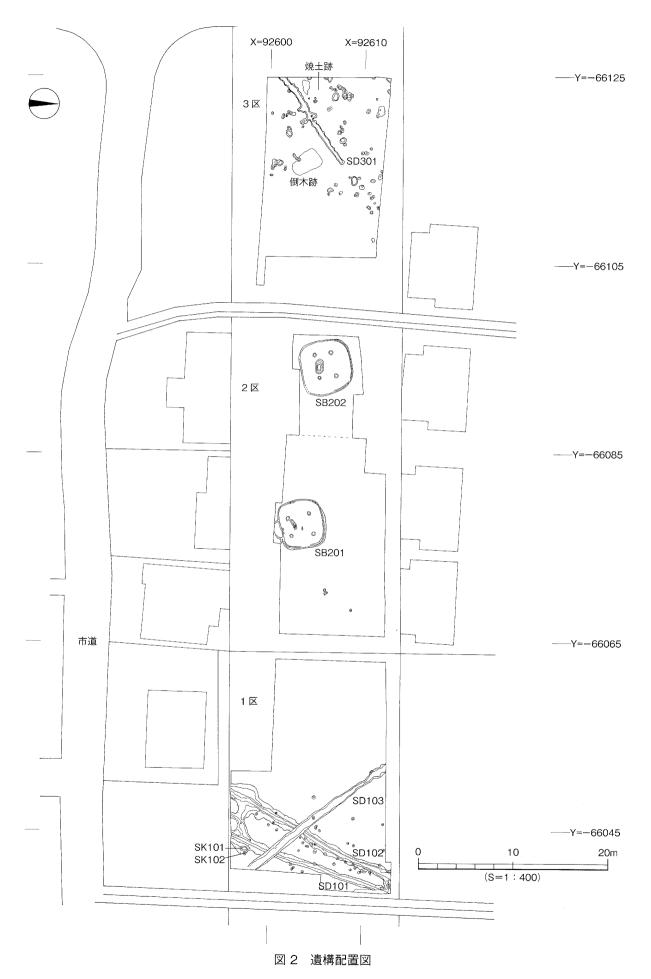
経 過 本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『No81 枝松遺物包含地』内における松山市 道中村桑原線道路改良工事に伴う事前発掘調査である。調査地周辺では、これまでに数多くの調査が 行われ、弥生時代~古墳時代にかけての集落関連遺構が確認されており、松山平野の主要な遺跡地帯となっている。これらのことから、弥生時代~古墳時代の集落関連遺構の広がりと構造解明を主目的として調査を行った。調査にあたっては、東から1区、2区、3区とし3区画に分けて調査を行った。 遺構・遺物 調査地の基本層位は第1層造成土、第11層灰色土、第11層を色土、第11層を色土、第11層を色土、第11層を色土、第11層を主、第11日を一大、第11日の、第11日を一大、第11日の、第11日

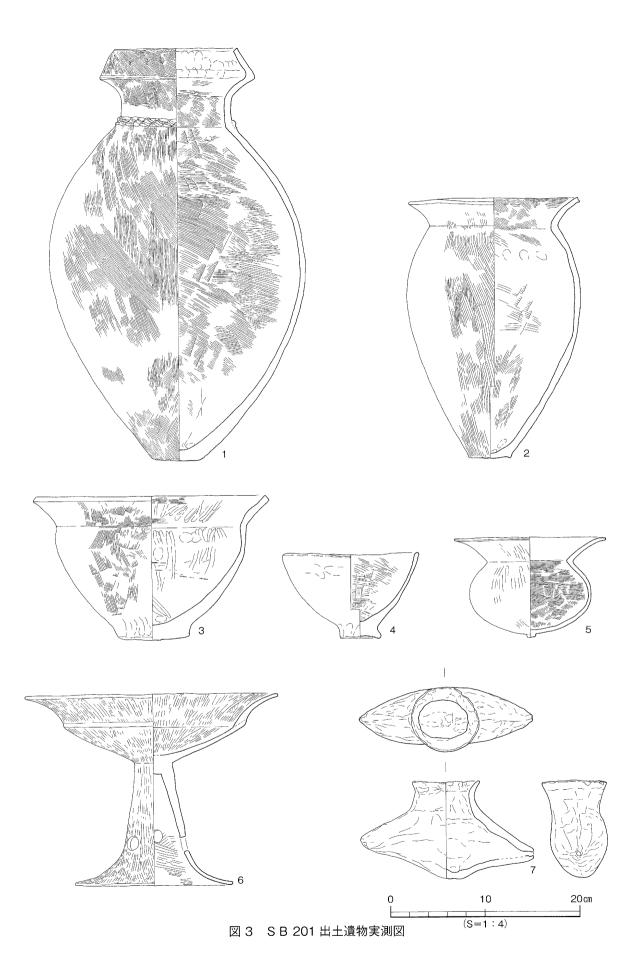
1 区ではSD 101、SD 102 の溝 2条と土坑SK 101、SK 102 の 2 基を検出した。SD 101 の検出規模は長さ 17.80 m、幅 0.55 m~ 1.20 m、深さ 0.48 m~ 0.52 mを測る。遺物は弥生土器、石器、ガラス玉が出土している。SD 102 の検出規模は長さ 19.15 m、幅 0.85 m~ 1.50 m、深さ 0.48 m~ 0.52 mを測る。遺物は弥生土器、石器が出土している。

2 区では S B 201、 S B 202 の竪穴式住居 2 棟を検出した。 S B 201 は調査区中央部の第 V 層上面で検出した。平面形は隅丸方形を呈する。南壁中央部に張り出しをもつ。検出規模は東西 5.10 m、南北 5.50 m (張り出し部含む)、壁高 0.30 m~ 0.38 mを測る。遺物は、住居中央部に折り重なるように多量の土器が一括廃棄された状態で出土したほか、皮袋状土製品や環状石斧片が出土している。 S B 202 は、 2 区の西側を拡張して検出したものである。平面形は隅丸方形を呈する。検出規模は東西 5.80 m、南北 5.50 m、壁高 0.27 m~ 0.38 mを測る。遺物には皮袋状土製品などがある。

3区では、掘立柱建物址1棟、溝1条、土坑4基、柱穴52基、焼土跡1基、倒木跡1基を検出しているが出土遺物が少なく明確な時期比定ができていない。

小 結 今回の調査では、弥生時代後期後葉~末葉の竪穴式住居 2 棟や弥生時代後期末葉に埋没した 溝など弥生時代後期の集落関連遺構を検出した。このことは、調査区東側に近接する東本遺跡の数次 に及ぶ調査で見つかった集落がさらに西側に広がることを確認したものである。(相原)





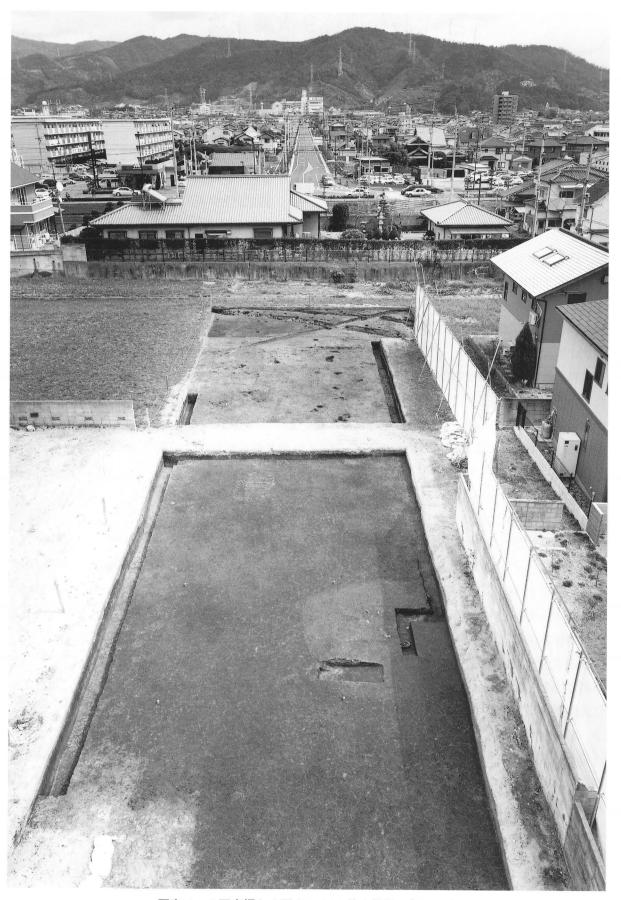


写真 1 1区完掘と2区SB201検出状況 (西より)

#### <sup>えだまっ</sup> 枝松遺跡 9 次調査地

所在地 松山市枝松3丁目5-40外

期 間 平成16年3月22日~同年9月30日

面 積 1.600 m²

担 当 相原浩二·武正良浩



図 1 調査地位置図

経 過 本調査は、松山市道中村桑原線の道路改良工事に伴う事前発掘調査である。申請地は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「No.83 枝松遺物包含地」内及びその近接地に属する。周辺ではこれまでに幾度となく発掘調査が実施され、弥生時代~中世にかけての集落関連遺構や古墳などが確認され、松山平野の中でも特に密度の高い遺跡地帯となっている。なお調査地周辺は、約25,000年~22,000年前に噴出・降下した姶良・丹沢火山灰(以下、AT火山灰)と約6,300年前に噴出・降下した鬼界アカホヤ火山灰が顕著に確認されている地域である。試掘調査の結果、遺構・遺物が確認されたため、記録保存を目的とした本格調査(緊急発掘調査)を実施することとなった。

第Ⅲ層は調査区南側に遺存し、6層に細分される。中世前半の土器・陶磁器片、鉄製鋤先が出土した。第Ⅳ層は調査区全域でみられ、土壌化が顕著に進行する。本層中から遺物は検出されなかった。第V層は調査区全域でみられ、1~3mm大の砂の粒子が混入する。直上層の染み込みや植物根の生育等の影響を受け、土壌化が顕著に進行している。本層以下から遺物の検出はない。第Ⅵ層、第Ⅲ層はAT火山灰の2次堆積層である。第Ⅲ層~第X層はAT火山灰の1次堆積層で、第X層は成層である。遺構の検出は、第Ⅳ層上面で行った。

検出遺構は掘立柱建物跡 2 棟、溝 3 条、土坑 10 基、柱穴 71 基、倒木痕 3 箇所、鋤跡 15 条、性格 不明遺構 1 基である。また、水田耕作に伴う人の足跡や牛の足跡が無数に検出されている。出土遺物 は土師器片、須恵器片、鉄製品(鋤先 1 点)が出土している。

小 結 今回の調査では中世期と考えられる水田跡が検出された。遺構の性格上、時期決定に有効な 土器や陶磁器の出土は少ないものの、幾重にも折り重なる水田層から調査地周辺において比較的長期 間にわたって営農されていたことが窺い知れる。また今後の詳細なる素材分析及び資料調査結果を待 たなければならないが、該当期と考えられる鉄製鋤先の出土は、発掘調査における出土遺物として貴 重な資料である。なお、検出された人足跡や牛の蹄痕及び出土農具は、当時の農耕形態を裏付けるも のと思われる。また松山平野の中でも桑原地区、枝松地区に多く見られる約25,000年前の火山灰層 であるAT層(1次堆積)が地表下1.0~1.2mに安定的に存在することが分かった。この層は、旧 地形復元の基準資料となり、平野の形成過程を考える上で重要である。(武正)



写真 1 1区(左上)・2区(下)の完掘状況 (北西より)



写真 2 2区西壁土層 (南東より)

### 枝松遺跡 10 次調査地

所在地 松山市枝松3丁目6-40外

期 間 平成16年8月2日~同年12月27日

面 積 1,500 ㎡

担 当 相原浩二 · 武正良浩

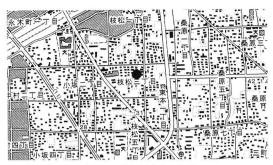


図 1 調査地位置図

経 過 本調査は、松山市道中村桑原線の道路改良工事に伴う事前発掘調査である。試掘調査の結果、 遺構・遺物が確認されたため、記録保存を目的とした本格調査を実施することとなった。

調査にあたっては、掘削した土砂置き場の確保のため調査地を西から1 区、2 区、3 区の3 区画に分けて調査を行った。

遺構・遺物 調査地周辺は、約25,000年~22,000年前に噴出・降下した姶良・丹沢火山灰(以下、AT火山灰)と約6,300年前に噴出・降下した鬼界アカホヤ火山灰が顕著に確認されている地域である。本調査においては、AT火山灰が検出された。

検出遺構は掘立柱柵列跡1条、溝4条、土坑5基、柱穴37基、性格不明遺構2基、自然流路2条、 倒木痕2カ所、鋤跡痕10条である。遺物は遺構内より土師質土器、土師器、弥生土器、石製品が出土 している。

小 結 1区・2区からは、中世期の水田関連遺構の一部と考えられる溝が検出された。隣接する枝 松遺跡 9 次調査地から同様の溝が検出されている。これら溝の基軸は、ほぼ南北方向であることから 当時の農地運営を考える上で貴重な資料となるものである。

3区からは弥生時代後期末の自然流路が検出された。東方50mに位置する枝松遺跡8次調査地において同時期の集落跡が検出されている。また、付近の遺跡から同時期の井戸が検出されていないことから、本区で検出された自然流路を人々が取水場として利用していた可能性が考えられる。

なお、同時期、同様の自然流路が西方に位置する枝松遺跡 7 次調査地から検出されている。流路の隔たりは約 150m あり、その間、弥生時代後期の遺構は検出されていない。しかしながら第 V 層以下の層序は安定的に堆積していることから、第 V 層以上が後世の何らかの要因により削平されていると思われる。(武正)



写真 1 3区完掘状況 (北東より)



写真 2 3区SD301 (下部)・SD302 (上部) 完掘状況 (南東より)

## 東石井遺跡2次調査地

所在地 松山市東石井2丁目355番1の一部

期 間 平成17年1月5日~同年1月31日

面 積 112.75 m²

担 当 吉岡和哉·栗田茂敏



図1 調査地位置図

経 過 本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「№ 118 東山縄文・弥生遺物包含地 東山古墳群」内における、宅地開発に伴う事前の発掘調査である。申請地の北側から東方にのびる独立丘陵は、古より伊予三山のひとつ "東山"として知られ、旧石器〜縄文時代の遺物が採集できるほか、縄文時代晩期〜弥生時代前期頃の土坑墓、弥生時代後期の溝、古墳などが存在することが過去の発掘調査によって判明している。試掘調査を実施した結果、申請地の南西端に設定したトレンチ内から埋土中に土師器を含む遺構を確認した。試掘調査の結果を受け、埋蔵文化財が存在する可能性の高い箇所に対して本格調査を実施する運びとなった。

遺構・遺物 基本層序は、第 I 層:暗灰色粘質微粒土~灰色微粒土(黄橙色土をブロック状に含む)、 第 II 層:黄橙色粘土(内部に灰色粘土および暗褐色土をブロック状に含む)、第 II 層:暗褐灰色~褐 灰色粘質微粒土、第 IV 層:黄褐灰色硬質微粒土、第 V 層:第 IV 層+暗褐色硬質微粒土、第 IV 層:暗(紫) 灰色硬質微粒土+暗褐色土、第 II 層:暗紫灰色微砂+暗褐色微砂、第 II 層:暗紫灰色微~細砂、であ る。遺構は、第 II 層上面より弥生後期終末~古墳時代後期に属する溝状遺構を 9 条検出し、弥生土器 及び土師器、須恵器の小片などが出土した。また、第 IV 層より縄文時代晩期中葉~後半の土器片が比 較的に多く出土したが、遺構の検出には至っていない。

小 結 今回の調査では、第Ⅲ層上面より弥生後期終末~古墳時代後期に属する溝状遺構を9条検出し、第Ⅵ層中より縄文時代晩期中葉~後半の土器及び石器を採取した。遺構埋土内からの出土遺物が少なく、時期決定が困難であるが、SD1、2、3、8、9は弥生時代後期終末に属する可能性が高く、またSD4及びSD5、6、7は古墳時代中期末~後期に属する可能性が高い。検出した遺構の中でも特にSD1は、断面形態が緩やかなV字形を呈し、埋土に砂粒の堆積が見られないことより日常的に水路として機能していたとは考え難く、集落などの周縁を区画するために設けられた可能性が高い。また今回、縄文時代晩期中葉~後半の土器や石器を含む土層を確認し、小範囲ながら遺物を採取できたことは大きな成果であり、今後近隣における発掘調査の基礎資料として大いに貢献できるものである。(吉岡)

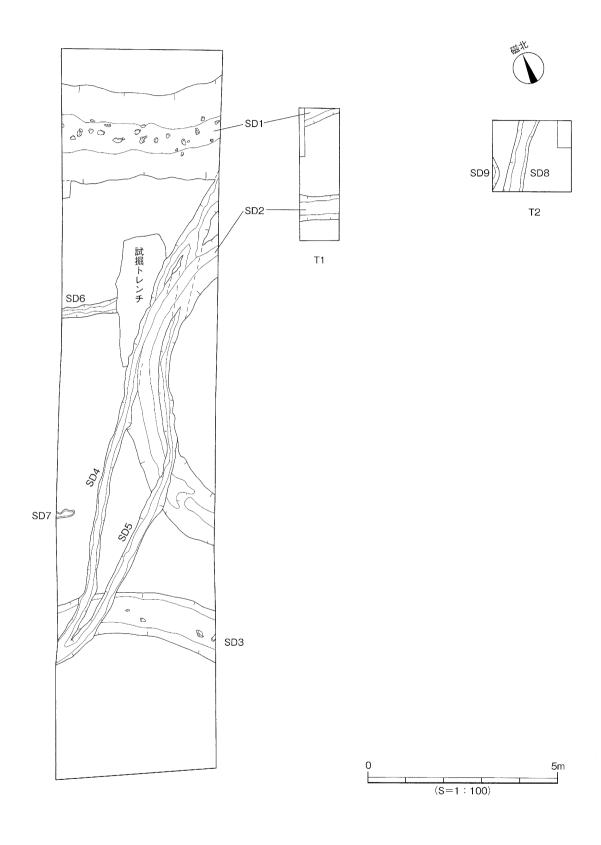


図 2 遺構配置図

## 高井遺跡

所在地 松山市高井町 466 外

期 間 平成16年3月1日~平成17年1月31日

面 積 6,429.6 m²

担 当 水本完児・梅木謙一

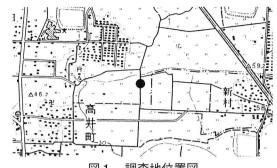


図 1 調查地位置図

経 渦 本調査は、松山市道水泥南高井線道路改良工事に伴う事前発掘調査である。調査地は松山平 野の南東部、標高 49.5 ~ 50.7m に立地する。調査地の北側には水泥遺跡 1・2 次調査地と平井遺跡 1・ 2次調査地があり、縄文時代晩期から中世までの集落関連遺構や遺物が多数確認されている。

遺構・遺物 調査地の基本層位は第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層水田床土、第Ⅲ層灰黄色土、第Ⅳ層鈍い黄橙 色土、第V層灰白色土、第VI層黒褐色土、第VI層淡黄色土であり、第IV層では中世の遺構と遺物を、 第Ⅲ層では古墳時代から古代までの遺構と、弥生時代から古代までの遺物を確認した。検出した遺構 は掘立柱建物址2棟、石室1基、溝17条、自然流路2条、畝状遺構37条、鋤跡状遺構1条、土坑8 基、柱穴60基、性格不明遺構4基である。

2 D 区検出の石室 201 は、北壁と西壁では石が 2 段、南壁と東壁は石が 1 段残っていたにすぎない。 石室堀り方の平面形態は長方形で、規模は東西 1.6 m、南北 1.0 m、深さ 3.5 ~ 10 cmを測る。埋土は 黒褐色土である。遺物は須恵器の壺が1点出土した。敷石となる玉石は石室の東側で確認された。時 期は出土遺物より古墳時代、6世紀後半とする。

5 B区検出の掘立柱建物址 501 は 3 間×2間の建物址で、規模は東西 4.4 m、南北 3.2 mを測る。 平均柱間は東西 2.2 m、南北 1.6 m、床面積は 14.1 ㎡である。柱穴の平面形態は円形と楕円形とがあ り、規模は径 45 ~ 75 cm、深さ 21 ~ 46 cmを測る。柱穴の埋土は黒褐色土である。出土遺物には土師 器、須恵器、耳環がある。時期は出土遺物より古墳時代、6世紀後半とする。

小 結 今回の調査では、高井遺跡における古墳時代から中世までの墓墳地集落に関係する資料が得 られた。今後は、調査地周辺の遺跡との関係を検討し、古墳時代から中世までの集落範囲や構造を究 明しなければならない。(水本)



写真 1 2 D区 石室 201 完掘状況 (西より)

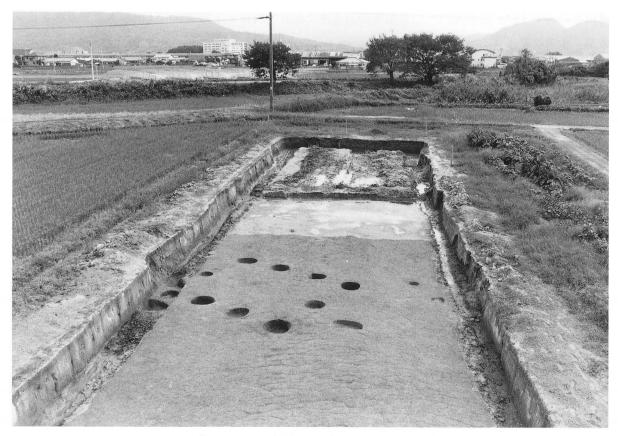


写真 2 5 B区 掘立 501 完掘状況 (北より)

## 南梅本長広遺跡

所在地 松山市南梅本甲 544 - 2

期 間 平成16年10月18日~平成17年3月31日

面 積 586.13 ㎡

担 当 小笠原善治·河野史知

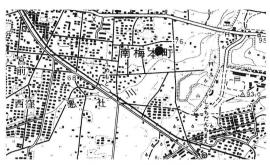
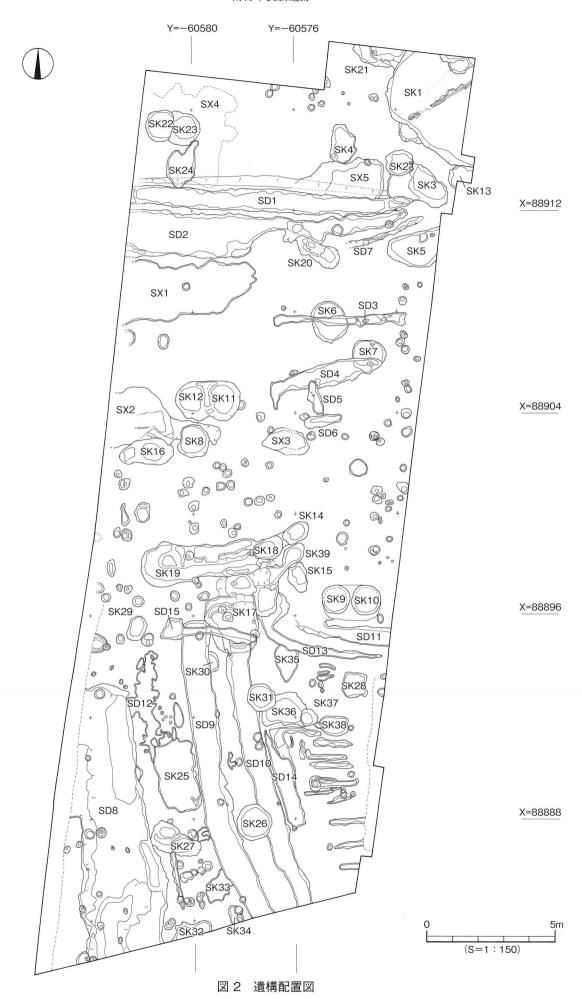


図1 調査地位置図

経 過 本調査は、松山市指定の埋蔵文化財包蔵地「No.107播磨塚古墳群」と「No.142水泥遺物包含地」に挟まれる埋蔵文化財包蔵未指定地での、「市道南北梅本線道路改良工事」に伴う事前調査である。申請地の小野地区は、重信川の支流である小野川、悪社川及び内川によって形成された扇状地が広く分布する地域である。調査地周辺では、東に近接する「播磨塚古墳群」内には、20基とも30基ともいわれる多数の古墳が、かつて存在していたと言われている。しかし明治時代に、梨・柑橘類の栽培適地として開墾され、その後、陸上自衛隊松山駐屯地として当地周辺は造成・削平を受けている。そのため、過去に存在したと考えられる古墳の大半が消滅し、現在では「播磨塚天神山古墳」陸上自衛隊松山駐屯地内に横穴式石室の一部が残っている。さらに、約2km東には東温市(旧重信町)に所在する、「志津川古墳群」や寛政11年頃に創業されたと言われる「西岡窯跡」などがある。また、悪社川を挟んで14~15世紀代の中世集落関連遺跡である「南梅本上方遺跡」、「南梅本上方遺跡2次調査地」が南に隣接する。

遺構・遺物 基本層序は、第 I 層耕作土、第 II 層整地層(にぶい黄褐色土、暗褐色土、黒褐色土混じり)、第 II 層礫層(礫層が断続的に堆積する)、第 IV 層にぶい黄橙色シルト、第 V 層砂礫層である。調査地内の土層観察より、第 II 層の砂礫層を覆うように、薄い第 II 層によって整地行為が見受けられ、遺構面はこの第 II 層下にて検出した。遺構の検出は、土坑(S K)39 基、溝(S D)15 条、性格不明遺構(S X)5 基、その他建物を構成しない柱穴が多数検出された。遺構の所属時期は、不明なものがあるが中世〜近世の遺物を含むものが多く検出されている。 S K 9、10 と S K 11、12 と S K 22、23 は直径 1~1.5 mの規模で深さは 0.5 m程度である。それぞれ近接して構築されている。遺構から土師皿、陶器片、挽き臼片が出土。これら土坑群の性格は不明であるが規模や検出状況、出土遺物からも共通点の多い遺構である。 S K 1 は規模が 4.35 m×3.2 mで深さ 0.35 m内外を測り、平面形はやや丸みを持った方形を呈する。床面から南西〜北東方向に走る幅4~6 cmの小溝が検出された。遺物は拳大〜人頭大の礫群を検出した。小溝の性格は不明であるが、この土坑内の土層断面観察より礫群と小溝の関連は薄いと考えられる。そのほか S D 1 や S K 17、 S K 29 などからは旧重信町所在の窯跡である西岡焼の可能性が指摘される遺物が出土している。また S K 18 からは火鉢の口縁部片が出土、S K 36 からは焙烙が出土しており、県内での出土例は少ない。

小 結 今回の調査では、中世〜近世の遺構遺物を多く検出した。中でも同様な規模・構造を持つ土 坑群は、今後の周辺における中世集落の構造解明にとって貴重なデータとなるものである。また、陶 磁器等の出土遺物から西岡焼とみられるものがあり、今後の周辺での調査が期待される。(小笠原)



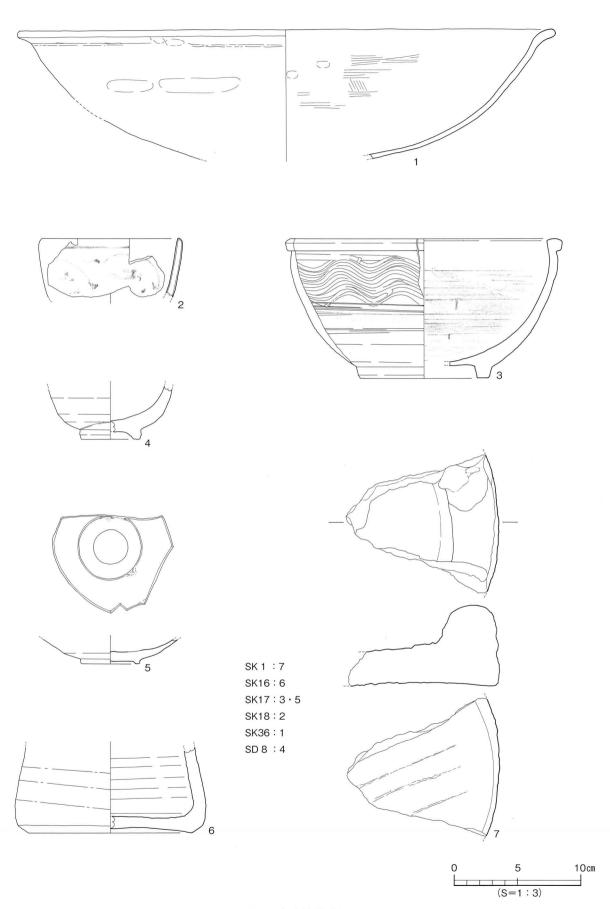


図 3 出土遺物実測図



写真 1 遺構完掘状況 (北より)



写真 2 SK1礫群及び間仕切り状遺構検出状況(南西より)

# 南梅本上方遺跡2次調査地

所在地 松山市南梅本甲 385 - 2

期間 平成 16 年 10 月 18 日~平成 17 年 3 月 31 日

面 積 577.56 ㎡

担 当 小笠原善治・河野史知



図 1 調査地位置図

経 過 本調査は、松山市道南北梅本線道路改良工事にともなう事前発掘調査である。調査地は、昨 年度実施された、同改良路線に伴う「南梅本上方遺跡」北部に隣接する。調査地は、松山平野の東部 に位置し、重信川の支流である小野川、悪社川及び内川によって形成された扇状地が広がる地域であ る。調査地周辺では、東に近接する「播磨塚古墳群」内に、多数の古墳がかつて存在していたと言わ れている。しかし明治時代に梨・柑橘類の栽培適地として開墾され、その後、陸上自衛隊松山駐屯地 として当地周辺は造成・削平を受けている。そのため、過去に存在したと考えられる古墳の大半が消 滅し、現在では「播磨塚天神山古墳」と駐屯地内に横穴式石室の一部が残っている。さらに、約2km 東には東温市(旧重信町)に所在する、「志津川古墳群(古墳後期) | や寛政 11 年頃に創業されたと 言われる「西岡窯跡 | などがある。また、14~15世紀代の中世集落関連遺跡である「南梅本上方遺跡 | が南に隣接する。

遺構・遺物 本遺跡では、第一遺構面と第二遺構面がある。第一遺構面では中世〜近世の鋤跡を確認 した。第二遺構面では、掘立柱建物1棟と柱穴十数基および礫群を検出している。

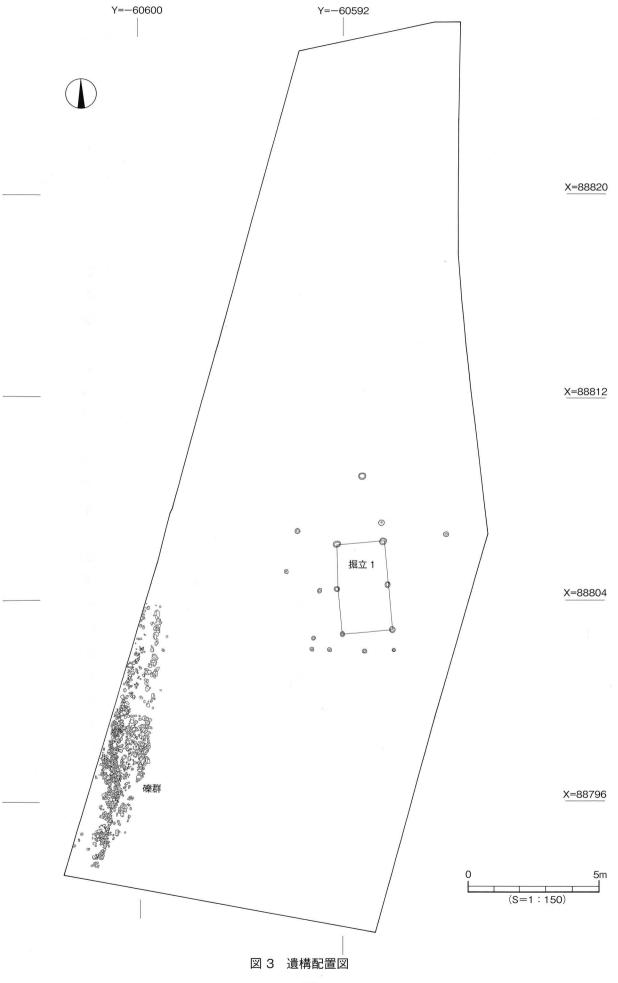
掘立柱建物1は、調査区中央部やや南に位置する。規模は桁行2間(3.5m)、梁行1間(1.8m)である。 2×1間の側柱建物である。建物軸方向はほぼ南北方向をとっている。遺物は、SP2より土師皿(完 形品)が出土している。

礫群は、調査区南西隅に位置し、調査区南部から北部に延びる。規模は長さ10.7 m、幅は0.7 ~ 2.0 mを測る。遺物は礫群下面で土師皿の底部片が検出された。礫群は比較的両端に人頭大の円礫を 配し、中央部は小石が分布している。

小 結 今回の調査では、隣接する既往調査とほぼ同時期(14~15世紀)の掘立柱建物址を検出し た。また、人為的に構築された礫群を確認したが、調査区北部には遺構を検出することができなかった。 このことからも本遺跡は当地周辺に営まれた中世集落域のほぼ北限にあたると想定される。(小笠原)



図 2 出土遺物実測図



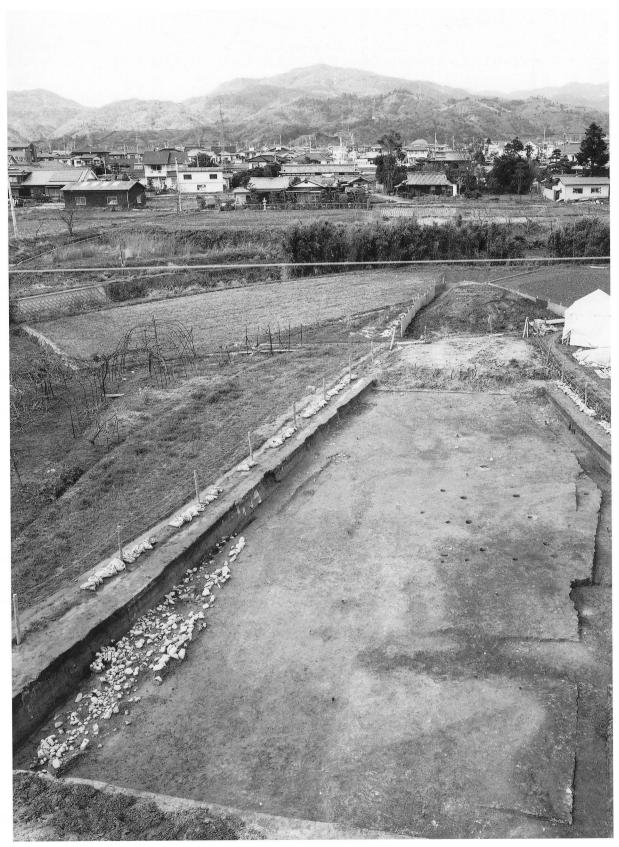


写真 1 遺構完掘状況 (南より)



写真 2 掘立1 完掘状況 (南より)



写真3 礫群検出状況 (南より)

# 谷町遺跡 2 次調査地

所在地 松山市谷町甲 375 番6の一部

期 間 平成16年11月16日~同年12月3日

面 積 45 m<sup>2</sup>

担 当 西村直人(文化財課)



図1 調査地位置図

経 過 調査地は松山市埋蔵文化財包蔵地「No.41 潮見古墳群・遺物包含地」内に該当する。試掘調査を実施した結果、弥生時代~古代の遺物包含層及び遺構を確認し、遺跡の存在が明らかとなったため、破壊の及ぶ範囲及び深さまでを対象とした、国庫補助金による記録保存のための発掘調査を実施した。

本調査地は、松山平野北東部に展開する高縄山系丘陵南西裾部の標高約 17.20m に位置する。周辺の遺跡については、同丘陵上に北から南へかけて、谷町遺跡、座拝坂遺跡、潮見遺跡、吉藤宮ノ谷遺跡、姫原遺跡が存在し、弥生時代前期末~後期末の遺構、弥生時代前期末~中世の遺物が確認されており、特に谷町遺跡とは約 30m しか離れていない。また、東側山上には潮見山古墳群が展開している。遺構・遺物 調査前の状況は休耕地であり、雑草の繁茂した状況であった。基本層位は大別して6層である。この内、遺物包含層は第IV層から第IIM層まで(黒褐色~黒色粘質土)の4層が確認され、遺物は弥生時代中期中葉~中世までの遺物が含まれる。IV層からは弥生土器、土師器、須恵器、瓦器等が出土し、須恵器の比率が高く、V層では弥生土器、土師器、須恵器が出土し、弥生土器が多くを占める。全体として、弥生土器は中期中葉~後期、須恵器は7世紀~8世紀のものが多い。遺構は第V層上面(第2遺構面)において古代~中世の柱穴7基、第IV層上面(第1遺構面)において近世の柱穴1基、土坑1基、溝1条を検出した。

第 V 層上面の主な遺構としては 008、009、010 を検出した。それぞれ楕円形の柱穴で、径約 60~70 cm を 測り、008 と 009 には柱痕を確認した。また、同遺構面において 4 基の径約  $12 \sim 23$  cm の 小ピットを検出した。遺物は出土していないものの、遺構埋土の状況から  $008 \sim 010$  より新しい遺構と考えられる。出土遺物及び層位との新旧関係から 7 世紀後半以降、中世以前と考えられる。

第Ⅳ層上面の主な遺構としては 002 を検出した。径約 150 cmの土坑である。上端部は円形を呈すものの、下端部は隅丸方形を呈する。埋土は灰黄褐色砂質土で第Ⅲ層に酷似しており、遺物は最下部より近世の甕形炻器片が出土した。墓坑とも考えられるが、木材は出土していない。

小 結 今回の調査で注目すべき点は、谷町遺跡(1次調査)では確認されなかった古代の遺構が検出されたことである。但し、遺構内からは弥生土器や古墳時代の須恵器が検出されており、あくまで層位的状況により判断したに過ぎない。また、出土層位は明確ではないが、廃土中より須恵器の円面硯が出土していることからも、当地において古代の遺構が存在した可能性は高い。また、第Ⅲ層以上からも近世および近代の遺物が出土しており、少なくとも弥生時代から現在まで継続的な土地利用がなされていたことが判明した。

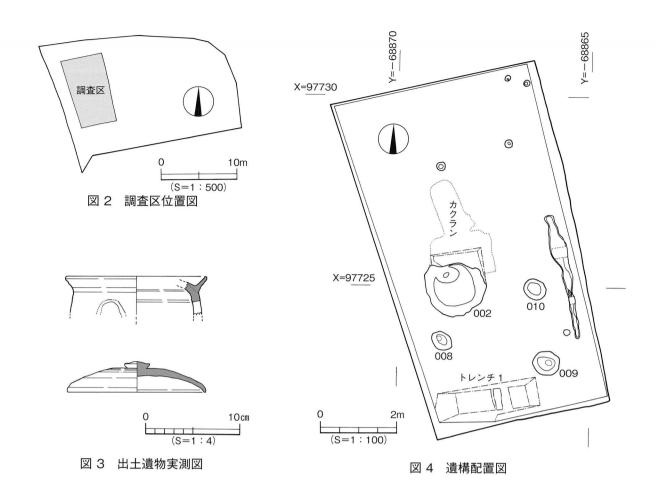




写真 1 調査地近景 (北より)

## 特田町遺跡3次調査地

所在地 松山市持田町3丁目250番1の一部

期 間 平成 16年 12月 15日~同年 12月 16日

面 積 23 m<sup>2</sup>

担 当 西村直人(文化財課)

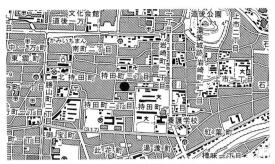


図 1 調査地位置図

経 過 本調査は持田公園建設工事に伴う事前調査として実施された。試掘調査を実施した結果、古 墳時代の遺構を確認し、遺跡の存在が明らかとなったため、破壊の及ぶトイレ建設範囲を対象とした、 記録保存のための発掘調査を実施した。

本調査地は、松山平野北東部に展開する高縄山系丘陵南西裾部の標高約35.10mに位置する。本調査地を含む松山平野北東部一帯は道後城北遺跡群と呼ばれ、平野有数の遺跡密集地帯として知られており、周辺の遺跡には、持田町遺跡、持田町3丁目遺跡(持田町遺跡2次調査地)、岩崎遺跡があり、縄文時代晩期~中世の遺構、縄文時代晩期~近世の遺物が確認されている。特に持田町3丁目遺跡(持田町遺跡2次調査地)では弥生時代前期の土坑墓が確認され、磨製石剣等の数多くの副葬品が出土している。

遺構・遺物 基本層位は大別して7層である。この内、遺物包含層は第四層(暗灰黄色土)の1層が確認され、遺物は須恵器、土師器、近世陶磁器等が出土したが、何れも小片であった。遺構は第四層上面において古墳時代後期の柱穴4基、近世(江戸時代)の土坑6基および柱穴5基、時期不明の遺構を2基検出した。また、第四層は道後城北一帯に分布する土層で「黄褐色シルト」と呼ばれているものである。

古墳時代後期の遺構としては009、010、013、021を検出した。それぞれ隅丸方形の柱穴で、径約75~90cmを測る。柱痕は確認できていないことから、径は柱抜取り穴を含んだものと考えられる。主な遺物として、009より6世紀末頃の須恵器が出土した。

近世(江戸時代)の遺構としては、主なものとして 002 を検出した。埋土は第 $\mbox{$\square$}$ 層と同じであり、遺構と土層を区切る明確なラインが検出できないことから、耕地整理に伴う整地によって一括で埋没したものと考えられる。径は  $120\sim160~\mbox{cm}$ 、深さ約  $20\sim60~\mbox{$m$}$  に格は不明である。遺物は近世の備前焼擂鉢が出土した。

小 結 今回の調査で注目すべき点は、柱穴4基ではあるものの持田町3丁目遺跡(持田町遺跡2次調査地)で確認された6世紀~7世紀初頭の遺構と同様の時期の遺構が検出されたことである。また、試掘調査において「黄褐色シルト」の南限界が公園敷地内に存在することが判明したことは成果である。さらに今後の問題点としては、002を代表とする円形土坑がどのような性格のものかを解明する必要があろう。

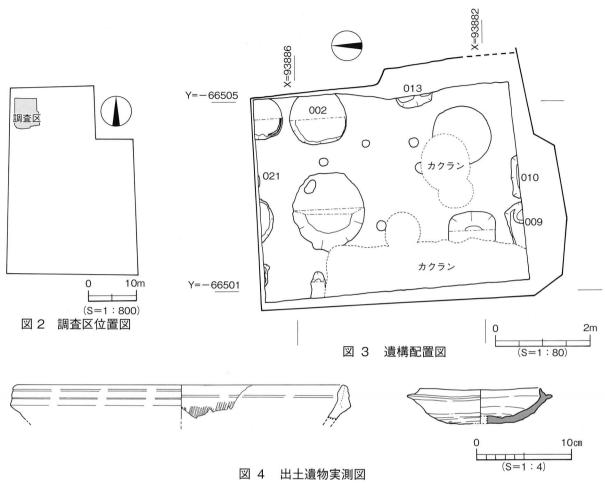




写真 1 調査地全景 (北より)

# まっゃまじょうさんのまるあと 松山城三之丸跡3次調査地

所在地 松山市堀之内(市営庭球場跡地)

期 間 平成16年7月27日~平成17年2月3日

面 積 約340 ㎡

担 当 岸見泰宏(文化財課)

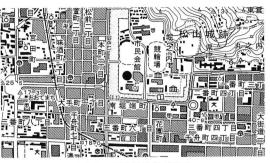


図 1 調査地位置図

経 過 本調査は松山市の「城山公園(堀之内地区)整備事業」にともなう確認調査である。松山市では平成13年度より国庫補助を受け、堀之内に遺存する遺構群の範囲・性格・内容を把握することを目的とした「確認調査」を実施している。なお、この調査は松山市教育委員会文化財課が都市整備部公園緑地課の依頼をうけ実施している。

今回の調査では、16年度に解体の終了した市営庭球場跡地において、①土地区割に関連する遺構を確認すること、②庭球場スタンド及び野球場スタンドの解体終了後、復元が予定されている土塁の構造を解明することの2点を目的とした。

遺構・遺物 【1トレンチ】当該地は平成8年度県民館跡地調査で確認された東西道路と、平成15年度市営庭球場解体に伴う事前発掘調査で確認された南北道路西側溝との交差部にあたる。現地表面下約60cmまでは近現代の造成土層が続き、直下が近世の遺構面であった。東西道路(石組溝2条)、南北道路(石組溝1条)、溝2条等が確認された。

東西道路は南北に石組側溝(SD01・SD02)をもつ道路で、最大幅 7.2m を測る。一部で細砂を叩き締めた道路面を 3 面確認した。路面厚は一面約 3cm を測る。

SD01 は、最大幅 50cm を測る。トレンチ東半は現代の造成時に大きくかく乱を受けており、現位置を保っている石はなかった。石組は幅  $30 \sim 40$ cm・高さ  $20 \sim 40$ cm の川原石を横積みにしており、1段ないし2段が残存していた。石組の高さは、最大50cm を測る。

SD02 は、最大幅 80cm を測る。北側石組はトレンチ中央部から SD03 との交差部の間で近代以降のかく乱を受けており、残存状況は悪かった。石組は幅  $40\sim50$ cm・高さ 30cm 前後の川原石を横積みにしており、 $1\sim2$ 段が残存していた。築石同士はしっかりと接しており、20cm 以下大の川原石で間詰めされている。石組の高さは最高 60cm を測る。

南北道路については、西側側溝(SD03)を確認した。検出幅は約80cm、検出長は47mを測る。西側石組は近代以降に大きくかく乱を受けており、残存している築石も現位置を保っていない可能性が高い。東側石組はSD02交差部以北約2mより2段に分かれている。下段石組は、10~20cm大の川原石が並べられており、石同士は接していない。上段石組は幅30cm高さ20cm大の川原石を横積みで配石しており、SD02との交差部には40cm角の切り石が配されている。下段に比べ、上段は並びが乱れており、石の大きさも揃っていない。また、上段石組は下段石組の掘方を切って構築されており、上段石組は改修されたものであることがわかる。SD03内は、周囲の堆積状況からSD02が埋没する以前に埋まったことが確認された。

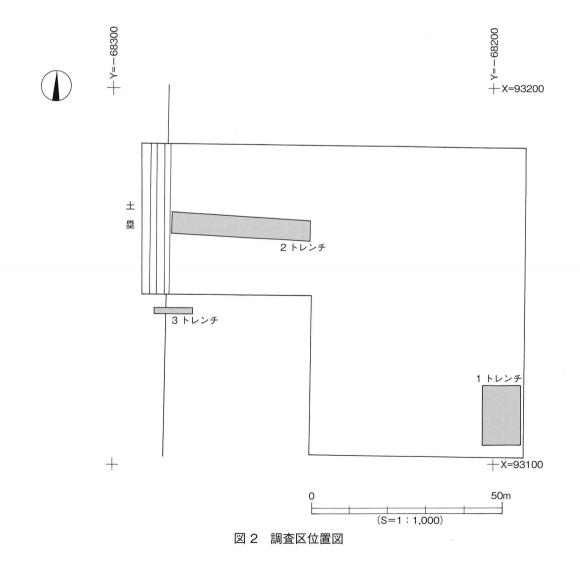
これらの道路に伴う石組溝内からは、18世紀末から19世紀中頃までの遺物が出土しており、この頃同時に廃絶されたと考えられる。

SD04・SD05 は東西道路の内側に石組溝と並行して掘削されており、幅約2.3mを測る。埋土には多量の遺物・食物残滓が含まれ、廃棄土坑と同様の堆積状況といえる。深さは約80cmであった。SD04・05 内からは、18世紀末から19世紀中頃の遺物が出土している。また、極少数であるが17世紀中頃の初期伊万里も確認した。

【2トレンチ】 現地表面下約 $0.9 \sim 1$  mまでは、近現代の造成土層が続き、直下が近世の遺構面であった。南北方向溝4条、土坑、整地土層、柱穴等が確認された。

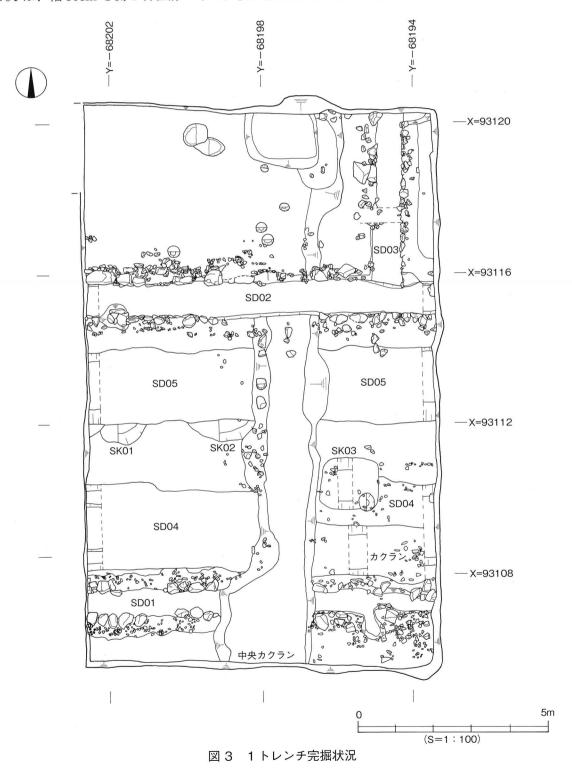
SD01 は、幅  $1.3 \sim 1.4$ m、深さ 0.4m を測る。SD01 は SK01 を切って掘削しており、両方から、19 世紀初頭から中頃の肥前系磁器、瀬戸・美濃系陶磁器、在地系陶器等が出土した。

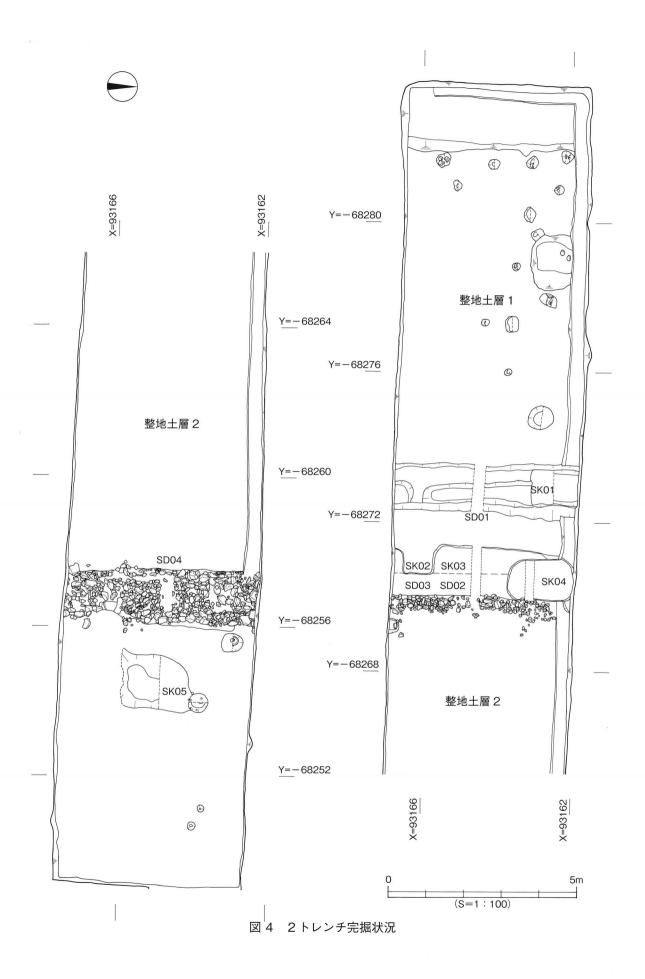
SD02 は SD01 の東 1m に並行して走る溝である。幅は北壁付近で 60cm、南壁付近で 50cm を測る。検出標高は 19m、底部高は、北壁付近で標高 18.7m、南壁付近で標高 18.6m であった。SD02 は SK02、SK03、SK04 を切っており、SK03 は SK04 を切って掘削されている。これらの土坑は下層に遺物を大量に包含しており廃棄土坑と考えられる。これらの遺構からは 18 世紀末から 19 世紀中頃の遺物が出土している。



SD03 は SD02・SK02・SK03・SK04 に切られる。検出幅は 60cm を測る。SD02 と同位置・同規模であったと考えられるが切り合いが激しく、検出長はわずか 80cm であった。両肩部には 20cm 以下の川原石を多量に含む灰黄褐色土が埋められており、護岸であったと考えられる。灰黄褐色土の幅は両肩共に 60cm であった。埋土は SD02 に切られているため、判別できなかった。切り合い関係は古いものから SD02  $\rightarrow$  SK04  $\rightarrow$  SK03・02  $\rightarrow$  SD02 となる。

SD04 は、幅 50cm を測る石組溝である。検出標高は 19.3 mで、石組の頂部を検出した。溝内の標





高 18.9m でモルタルが敷き詰められており、この面までは現代に改変されたことがわかる。モルタルの下層には非常に硬くしまった真砂土層があり、真砂土層の下層には 30cm 以下の川原石が敷き詰められていた。この真砂土層は、モルタルを敷く前の整地と考えられることから、現代の造作とわかる。川原石は地山層に直に敷かれていた。遺物の出土が皆無であったため、年代はわからない。

土塁側にあたる調査区西端では、土塁と並行する明治期以降の溝が確認されたが、以東7m付近までの間には、砂岩由来の明黄褐色粘質土層が検出された。江戸期の整地土と考えられる。また、SD03以東SD04以西には黄橙色真砂土層が一部検出されたが、これについても江戸期の整地と考えられる。【3トレンチ】 土塁部分では、土塁本体にともなう盛土層を3層、土塁構築前の造成土層を1層確認した。土塁端部付近には明治以降に掘削された溝があり、土塁の規模は確定できなかった。

小 結 今回の調査については、目的①に対して1トレンチで道路交差点を確認した。また、2トレンチ SD02・03・04 については、ほぼ南北を主軸とすることから、区画溝と考えられる。また、文久年間(19世紀中頃)に描かれた絵図「亀郭城秘図」によれば、土塁内側には6間幅の馬場「杉馬場」が存在したとあるが、これは土塁から SD01 までの間と考えられる。さらに東には緑の帯が描かれているが、これが SD01・03 間、SD03・04 は道路に当ると考えられる。いずれも、検出長が5m と短いため断定する材料に乏しいことから、今後の調査のなかで遺構の広がりを確認したい。

目的②については、土塁構造の一端を明らかにすることはできたが、正確な範囲を確定することは できなかった。次年度の調査によって、明らかにしたい。

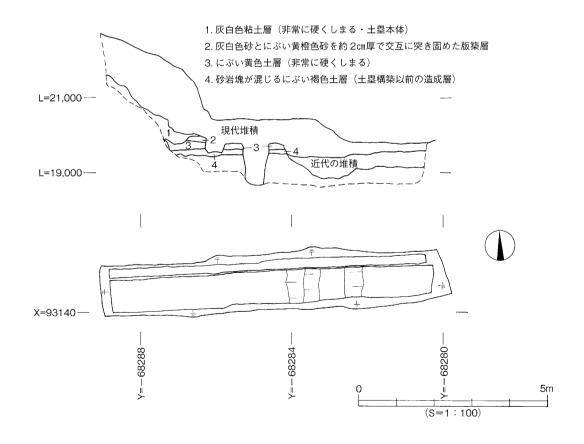


図 5 3トレンチ完掘状況及び土層断面図



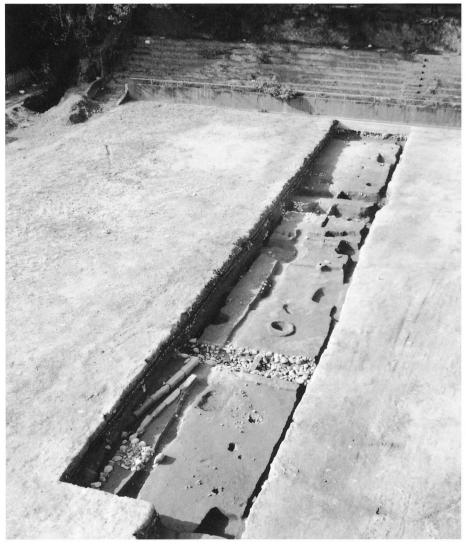


写真 1 1トレンチ 完掘状況(東より)

写真 2 2トレンチ完 掘状況 (北東より)

## 樽味四反地遺跡 10 次調査地

所在地 松山市樽味 4 丁目 223 番1の一部

期 間 平成17年2月21日~同年3月5日

面 積 約120 m

担 当 武田尊子(文化財課)

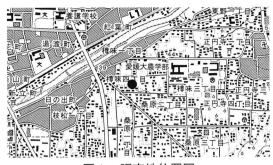


図 1 調査地位置図

経 過 本調査は宅地造成に伴う事前の発掘調査で、国庫補助により実施した。調査地周辺では樽味高木遺跡、樽味四反地遺跡、樽味立添遺跡、樽味遺跡など数次にわたる調査が行われ、おもに弥生時代~中世にかけての遺構、遺物が数多く検出されている。調査地の周囲は、東に樽味四反地遺跡 5 次調査地、北に 8 次調査地、北西に 6 次調査地、北東に 7 次調査地が位置している。なかでも樽味四反地遺跡 6・8 次調査では、弥生時代後期末~古墳時代前期初頭の「大型掘立柱建物址」が検出され、松山平野における有力者層がこの地域に存在した可能性が高くなった。また 6 次調査では、その北側で弥生後期の溝も検出されたことから、「大型掘立柱建物址」周辺の解明と溝の展開を把握することが課題となった。これをうけて本調査では、「大型掘立柱建物址」の南側の状況と溝の展開を把握することに重点を置いて調査を実施した。

遺構・遺物 調査区を東、西、南区にわけて調査を行った。基本層序は I 層現・水田耕作土および床土、 II 層旧・水田耕作土、III 層褐灰色土(遺物包含層)、IV 層灰黄褐色シルト、 V 層黒褐色~黒色シルト (弥生時代後期末の遺物を多く包含する層)、 VI 層黄橙色~明褐色土(地山層)である。 VI 層の上面で 遺構を検出したが、壁面の土層観察から V 層を掘り込んでつくられた遺構も確認できた。以下、主な 遺構について述べる。

【SB1】南区東に位置する隅丸方形の住居址である。遺構の約2/3は調査区外で、全容は把握できていない。埋土は他の遺構に切られて残っていないが、周壁溝を1条検出した。周壁溝からは土師器片が1点出土している。この住居の時期は、切っている遺構や周壁溝の遺物から古墳時代後期初頭以前と考える。

【SB2】東区北隅に位置する住居址である。調査区外に展開するため規模や形状は不明である。住居内では周壁溝と思われるほぼ並行する溝を3条検出した。3棟の住居址が切り合うか、改築したと思われる。その他に土坑1基、焼土塊を検出した。出土遺物は古墳時代の遺物と弥生時代後期末の土器があり、整理・検討の結果、検出面および比較的上層から出土した古墳時代の遺物はこの住居に伴わないと考える。

小 結 本調査では弥生時代〜近代までの遺構を検出した。目的の一つである「大型掘立柱建物址」 に近い時期の遺構としては SB2 を検出できたが、その全容は把握できなかった。また、弥生時代後 期の溝は調査区内では検出されなかった。「大型掘立柱建物址」の北側にある溝が、南側に存在する 可能性は低いと考える。



写真 1 東区完掘状況 (北より)



写真 2 南区東側完掘状況 (西より)



写真 3 SB2内遺構完掘状況 (北東より)

# 模味高木遺跡 10 次調査地

所在地 松山市樽味 4 丁目 247 番地の一部

期 間 平成16年7月20日~同年12月27日

面 積 約500 m²

担 当 武田尊子・大庭美鈴(文化財課)

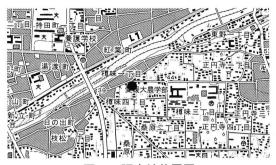


図1 調査地位置図

経 過 本調査は宅地開発に伴う事前調査で、国庫補助により実施した。調査地は埋蔵文化財包蔵地 『No.81 樽味遺物包含地』内にあり、樽味高木遺跡 6 次調査地の西側に位置する。周辺では樽味高木遺跡、 樽味四反地遺跡、樽味立添遺跡、樽味遺跡などで数次にわたる調査が行われ、弥生時代~中世にかけての遺構、遺物が数多く検出されている。

【SB001】調査区南西隅の竪穴住居である。遺構の約 2/3 は調査区外で、復元すると平面形は直径約 10mの円形になる。住居址内からは周壁溝、主柱穴 2 基を検出した。周壁溝は遺構検出面の第 1層中から検出し、残存高 0.44 ~ 0.64m、幅約 0.1m、底部は断面 U 字形である。この住居の廃絶時期は、出土遺物から弥生時代後期末~古墳時代初頭と考える。

【SB004】調査区南東に位置する直径約5mの円形竪穴住居である。改築の際に0.8m×1.96mの突出部を設ける。突出部は円形部からの周壁溝が巡り、円形部と共通の層が堆積する。住居内からは改築前後で各1条の周壁溝と、改築後も位置が変わっていない主柱穴4基、住居中心部で不整円形の土坑を検出した。住居の埋土は大きく4層に分けられる。①褐灰色土層、②焼土・灰層、③焼土・炭化物(炭化材を含む)層、④地山を含む褐灰色土(貼り床)層である。①は北東から南西に向かって流れ込むように堆積し、②は遺構全体を覆い、③は住居中心部の土坑とその周辺に堆積する。周壁溝の埋土、主柱穴の埋土にも焼土が混入している。床面に被熱痕跡はない。遺物は主に②から出土した。この住居が廃絶された時期は、出土遺物より弥生時代後期後葉と考える。

【SK007】SB001を切る土坑である。平面形は 2.86m × 2m の不整長方形で、断面は最深部で 0.26m の逆台形である。埋土は黒褐色土で、 V層の含有量により上下に分けた。遺物は、上層から鉄滓、鞴の羽口片等が出土した。出土遺物より古墳時代中期末~後期初頭の土坑と考える。

小 結 本調査では、弥生時代と古墳時代の集落の一部を確認した。なかでも大型の竪穴住居 SB001 は、樟味四反地遺跡 6・8 次調査で確認された「大型掘立柱建物址」と近い時期であり、関連の有無が注目される。SK007 では鍛造剥片を含む鉄滓が出土し、近隣で鍛冶が行われたことを証明するばかりでなく、古墳時代の鍛冶技術を知る上で貴重な資料が得られた。(武田)

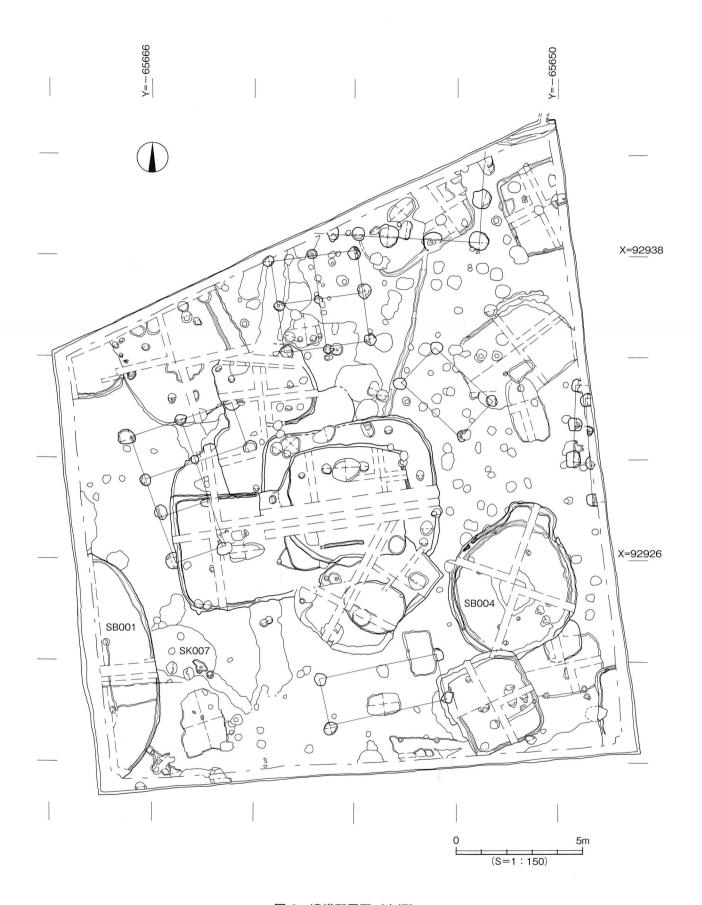


図 2 遺構配置図(完掘)

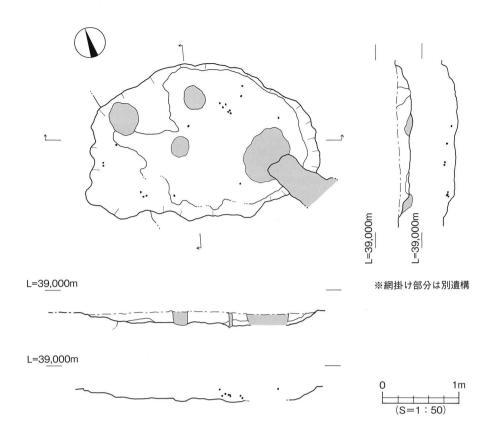


図3 SK 007 遺構平面図・断面図(●は鉄滓)



写真 1 SB 001 完掘状況 (南西より)

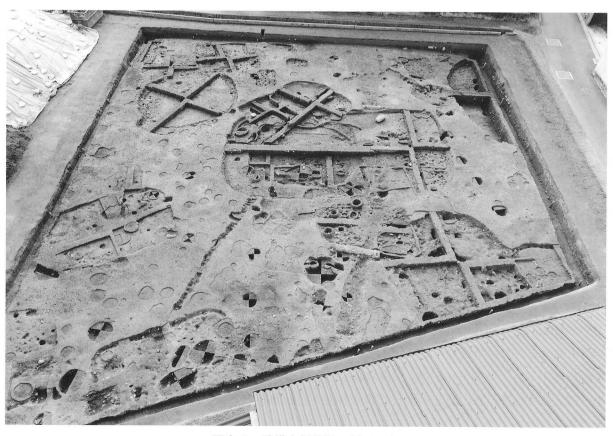


写真 2 遺構完掘状況 (北より)

### 来住廃寺 31 次調査地

所在地 松山市来住町 818 - 1

期 間 平成16年8月17日~同年12月3日

面 積 約800 ㎡

担 当 橋本雄一

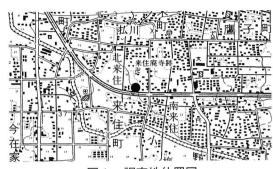


図1 調査地位置図

経 過 「史跡久米官衙遺跡群」の南東部、「来住廃寺跡」指定区域のすぐ南側の隣接地において調査を実施した。来住廃寺の基壇の南約50mに位置するこの地点は、近現代に行われた水田開発によって削平されているものの、寺域の南限に関する遺構が残されている可能性もあると期待されていた。調査は重要遺跡の確認調査として、国から補助を受けて実施された。

遺構・遺物 調査の結果、検出された遺構の大半は江戸時代後半以降の溝と墓で、古代に遡るものと しては、掘立柱建物 1 棟と柱穴 1 基のみであった。

古代の遺構は、元々の地形が低かった南西部における削平率が低かったことから、この部分にかろうじて遺存したものと考えられる。掘立001は、久米高畑63次などで検出されている弥生時代頃の倉庫跡と考えられるが、柱穴からは、この時代に石器の石材として用いられることの多い結晶片岩が1点出土したのみで、詳細な時期は不明である。

近世の遺構としては、方形木棺墓 3 基 (SK 001  $\sim$  003)、円形桶棺墓 4 基 (SK 004  $\sim$  006、008) の他、溝 1 条 (SD 002) を検出した。なお、調査区西辺の畦沿いで検出された SD 001 とした掘り込みは溝ではなく、西側に一段低く水田を造成した際の段差であることが判明した。

SD 002 は、調査地の東辺から北辺に沿って西へ流れる現在の水路に沿う位置に掘り込まれた溝である。現況の水路と対応することから、この場所にはじめて耕作地が営まれた際に設定された水路の跡であろうと考えている。ここからは、染付の小片が出土している。

3基の方形木棺墓は近接して掘り込まれている。東よりのSK 002 と 003 は重複しており、003 のほうが新しい。木棺の側板痕跡の平面形状が、墓の南から見て逆台形になることから、棺を横向きに寝させて置いた可能性が高い。SK 001 は、墓の底が僅かに遺存しているにすぎない状況で、人骨の一部が粘土化した状態で検出されたほか、副葬品として小型の陶器が 1 点出土している。規模は、東西 0.6 m×南北 0.8 m程度と推定される。

4基の円形桶棺墓についても、底近くが僅かに残っている程度であると理解している。 S K 002、 003 と同様、掘り下げは行なっていないので正確な時期は不明であるが、埋土の特徴から、江戸時代以降に属することは間違いないものと考えている。もっとも大きな S K 005 で、検出面における桶棺の直径は約  $1\,\mathrm{m}$ 、小さな S K 004 で約  $0.6\,\mathrm{m}$  を測る。

小 結 基壇付近の水田面と比較して高低差約1mを測るこの地点では、寺域南限に関して成果を期待できる可能性が残された場所としては、北に接する史跡指定地のうち、基壇南面の同24次と当調査地の間に残された未調査部分に事実上限定されたと言える。

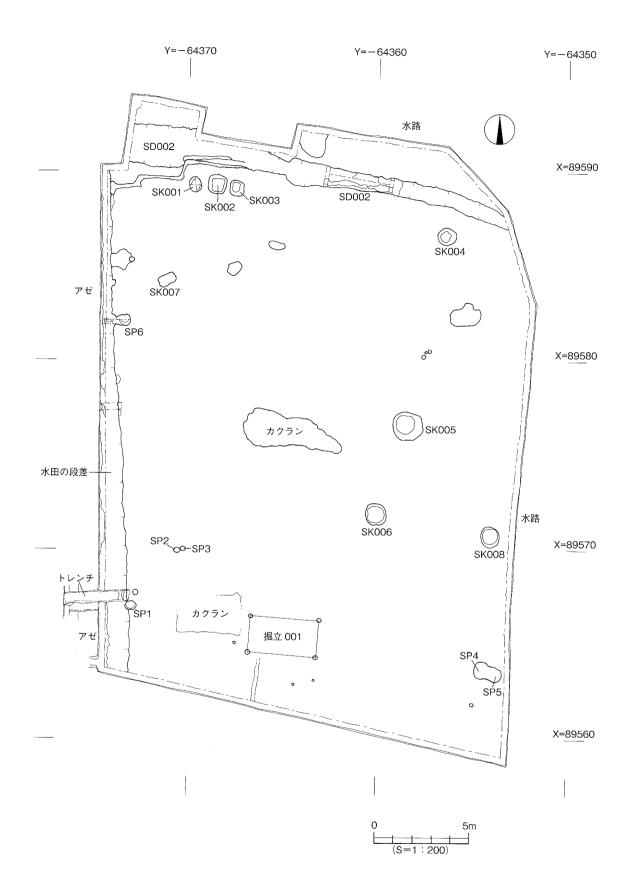


図 2 遺構配置図

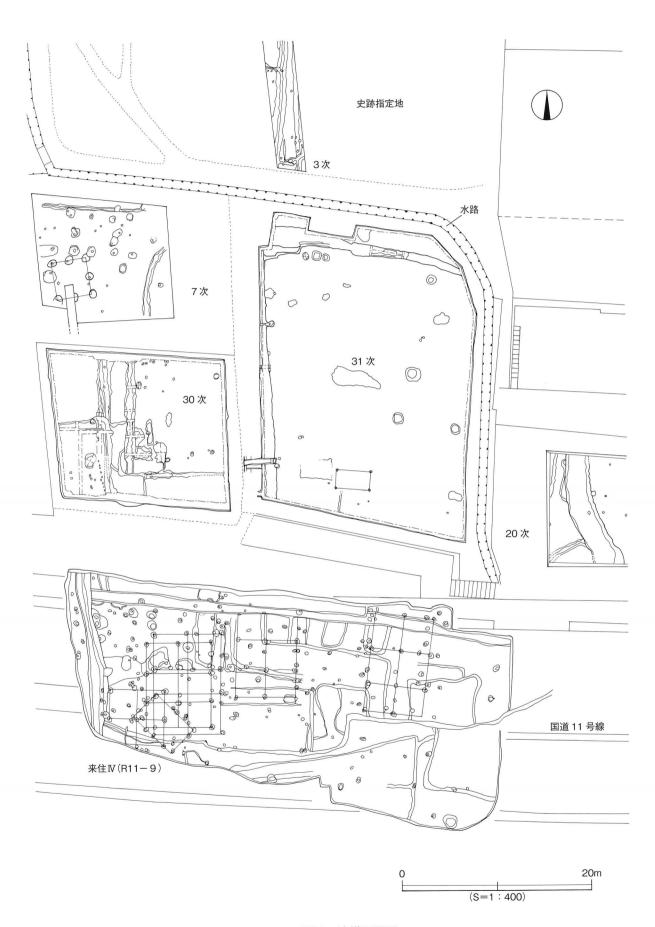


図3 周辺の遺構配置図

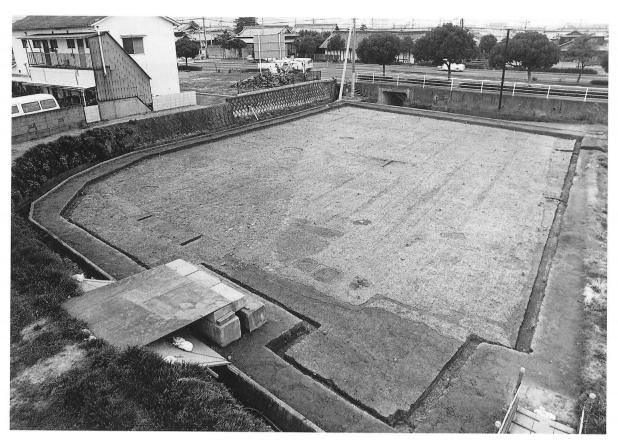


写真 1 調査地全景 (北北西より)

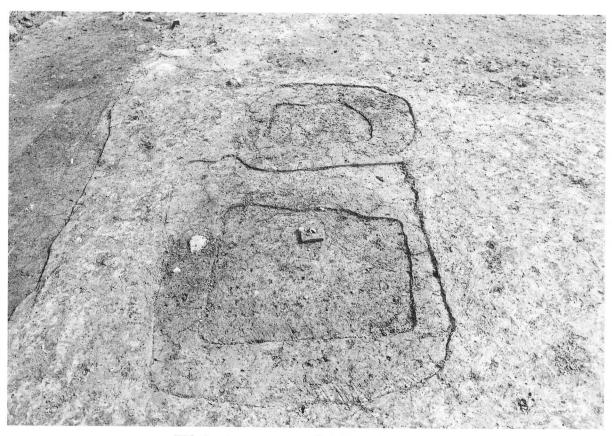


写真 2 SK 002・003 検出状況 (西より)

### 上水道管付設替工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 松山市南久米町 792番 2 地先外

期 間 平成16年9月6日~同年10月5日

面 積 94.6 ㎡

担 当 宮内慎一・相原秀仁

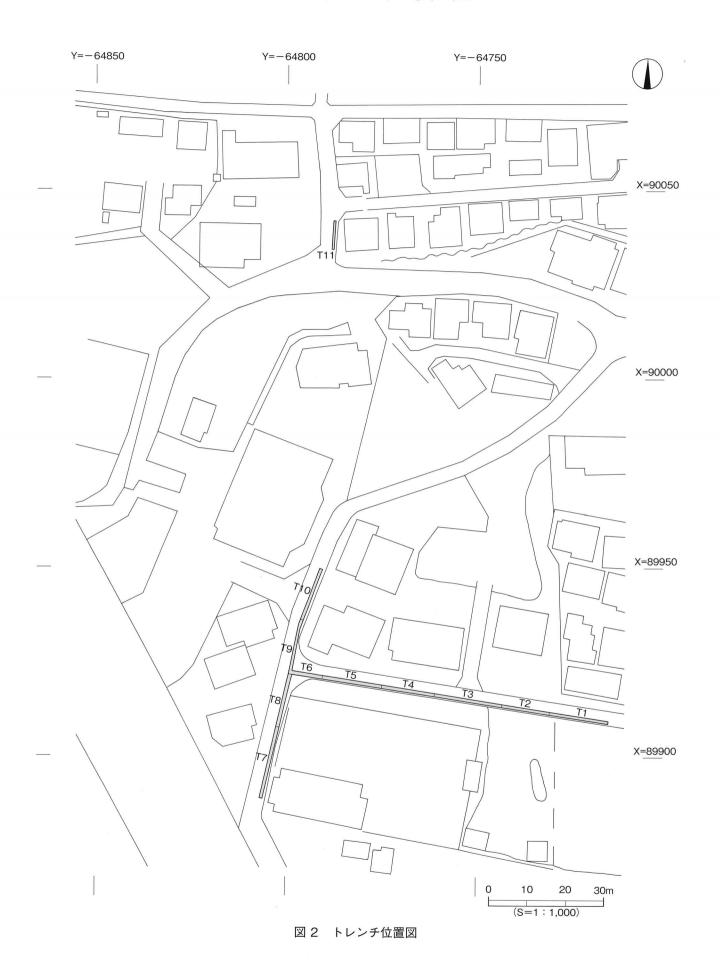


図1 調查地位置図

経 過 本調査は、南久米町内の上水道管付設替工事に伴う埋蔵文化財調査である。調査地は、松山平野南東部を流れる堀越川と小野川に挟まれた来住台地上の南西部に所在し、標高 32.4 ~ 36.3 mを測る。調査地は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『No.126 高畑遺物包含地』内にあたり、調査以前は道路である。調査地周辺には、正倉院を囲む区画溝、南東には国指定史跡の来住廃寺跡及び方一町規模の二重柵列である「回廊状遺構」、さらに、東には弥生時代の大溝や土坑など集落に関連する重要な遺構が多数検出されており、古代の官衙関連遺跡群として知られている。

遺構・遺物 基本層位は第 I 層表土、第 II 層耕作土、第 II 層灰褐色土、第 IV 層黒褐色土、第 V 層黒色土、第 V 層 II 層 E 上、第 V 層 II 層 E 上、第 V 層 II 層 E 上である。遺構は第 V II 層上面にて竪穴式住居址(S B) 2 棟、土坑(S K) 4 基、溝(S D) 3 条、柱穴(S P) 25 基を検出した。注目される遺構は T 2 で検出した溝 S D 1 である。 S D 1 はトレンチ中央部に位置し、南北に方位をとり、規模は検出長 0.64 m、幅 1.84 m、深さ 46 cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、埋土は黒褐色土に黄色土が混入する。遺物は須恵器片、弥生土器片、石斧が出土した。 S D 1 は、久米高畑遺跡 27 次調査地で検出した正倉院の区画溝の南西コーナー部(S D 6)から北へ約 40 m地点の延長線上で検出されており、過去に周辺で調査された 10 次、31 次、32 次調査地からも同様の溝が確認され、規模や断面形態が、類似することから区画溝の一部と考えられる。 T 4 で検出した土坑 S K 1 はトレンチ西部に位置し、平面形態は方形を呈するものと考えられる。規模は検出長 2.04 m、検出幅 0.66 m、深さ 14 ~ 21 cmを測る。土坑の壁体は、東壁及び西壁はほぼ垂直に立ち上がり、埋土は黒褐色土に黄色土が混入する。遺物は弥生土器片が出土した。本土坑は、断面形態の特徴より貯蔵穴の可能性がある。時期は、出土した遺物の特徴より弥生時代とする。

小 結 今回の調査では、弥生時代から古代の遺構と遺物を確認することができた。弥生時代の土坑 S K 1 は断面形態の特徴から貯蔵穴の可能性がある。このような特徴をもつ土坑は、調査地の南方に 所在する久米高畑遺跡 5 次、27 次調査地からも検出されており、これらの土坑群の広がりが来住台 地北部にまで及んでいることが判明した。古代の溝 S D 1 は来住台地の南西地域に展開する正倉院(8世紀)を囲う溝の西辺の一部と考えられる。調査地の南方に所在する久米高畑遺跡 27 次調査地では、溝の南西コーナー部が確認されており、今回の溝の検出は、区画溝の存在を証明する貴重な成果といえよう。(相原秀)



- 81 -

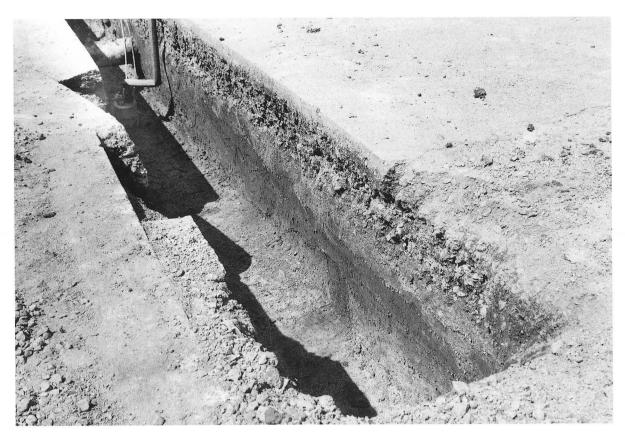




写真 1 T6土層 (南東より)

写真 2 Т 10 遺構検出状況 (南より)



写真3 SD1完掘状況 (北東より)



写真 4 作業風景 (南より)

# 人米高畑遺跡 59 次調査地

所在地 松山市来住町 1147 - 1の一部

期 間 平成15年11月4日~平成16年3月31日

面 積 約300 m²

担 当 篠田久恵(文化財課・平成15年度退職)



図1 調査地位置図

**経 過** 正倉院南濠の南に接する水田において、調査区を東西に分割して2年に分けて発掘調査を行った。15年度は国からの補助を受けて、敷地の西半分について調査が実施された。

遺構・遺物 正倉院の濠1条、掘立柱建物を少なくとも7棟、竪穴式住居址3棟、溝2条、土坑41基、柱穴456基などの遺構を検出した。遺構の大半は弥生時代のものである。

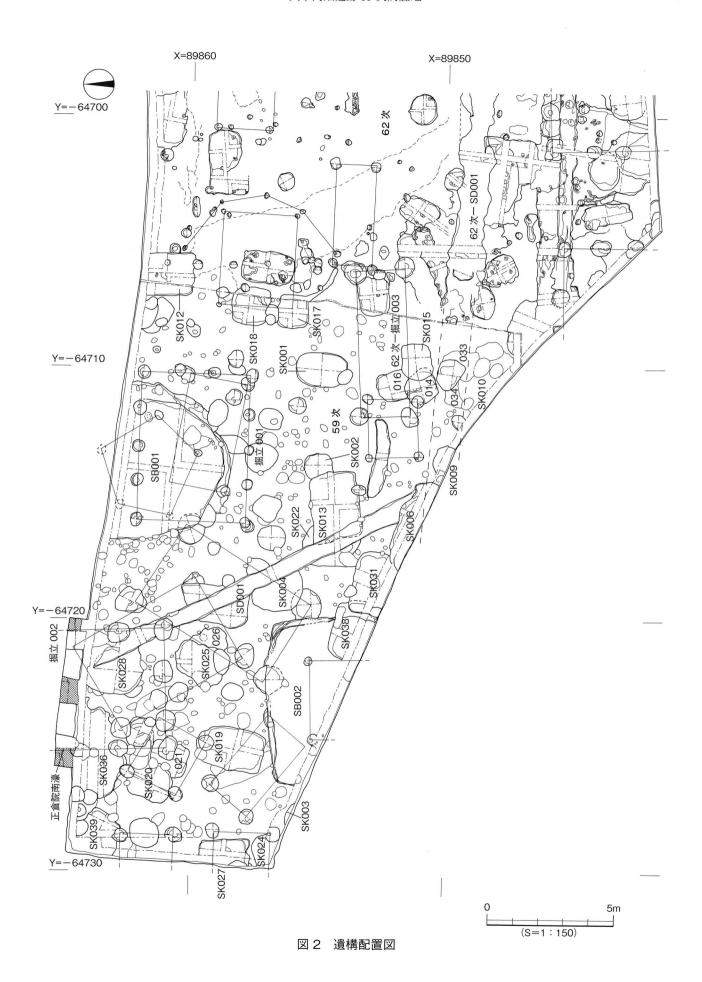
弥生前期末から中期頃の長方形の土坑が多数検出されている。これは、西隣の同 27 次調査地や、北に接する同 32 次調査地南西部における傾向と共通である。S K 001、017、018、019 などがこれにあたる。このうちS K 019 には、長軸線上に小ピット 1 基が伴っているが、62 次のS K 010 などと同様、上屋を伴った証拠と考えられる。なお、S K 001、020、028 については、土坑の壁が垂直もしくは袋状に掘り込まれている。なかでもS K 028 は、当遺跡群周辺においても例の無い特異な存在である。深さ約  $0.7 \, \mathrm{m}$ 、直径約  $2.3 \, \mathrm{m}$ 程度の円形の貯蔵のために掘られた穴蔵であると考えられるが、周辺の土坑等と比較して格段に深く掘られていることから、井戸跡である可能性も残されている。ただし、現状で湧水は認められない。

北部に立地するSB 001 は弥生後期の住居址であるが、多角形の平面形状の住居が2棟重複しているようである。床面を貼り直した痕跡が確認され、この面には炉跡と考えられる焼土の分布も認められた。柱穴の配置が四角形にならないことから、6本柱の円形住居である可能性も考えられる。下部の最初の住居からは後期ころ、上部の住居からは後期後半の土器が出土している。

このほか、南部に立地する SB 002 は、古墳時代前期ころの建物であると考えている。なお、北西部にて検出の掘立 002 については、正倉院が濠によって区画される以前の官衙を構成する建物であった可能性もある。桁行 2 間分(3.34 m)×梁行 3 間(4.83 m)、N - 1° - Wの南北棟である。また、掘立 001 は、弥生後期の SB 001 より後の段階の建物であることがわかっている。正確な時期は不明であるが、官衙施設の出現直前ころまでのものと考えている。

確実に官衙関連の遺構であると判断されるのは正倉院南濠のみである。用水路の際で、幅約2mの 濠本体の南辺を部分的に確認した。

小 結 掘立 002 は、正倉院の濠よりも先行する時期の建物であることが判明した。ただし、その規模と方位が、正倉院内の西濠沿いに建ち並ぶ建物(年報IX)に似ているだけでなく、柱筋も概ね揃っていることなどから、これらは正倉院の内部施設として考えてきた建物群に対する従来の解釈を再検討する必要があるのか、今後、慎重に検討すべき課題を生じている。(橋本)



- 85 -





写真 1 遺構検出状況 (北西より)

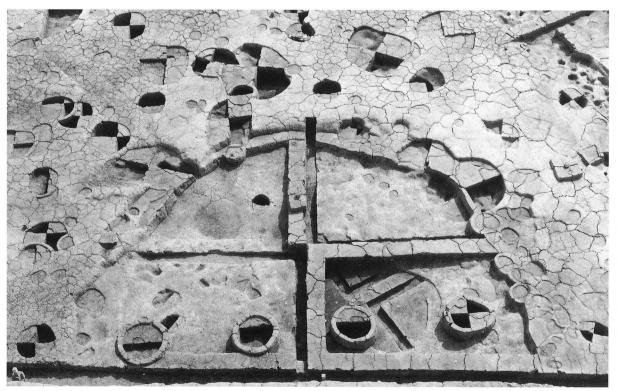


写真 2 SB 001・掘立 002 完掘状況 (北より)

# 久米高畑遺跡 61 次調査地

所在地 松山市来住町900-1の一部

期 間 平成16年4月20日~同年8月18日

面 積 約400 m

担 当 田内真由美・武田尊子(文化財課)



図1 調査地位置図

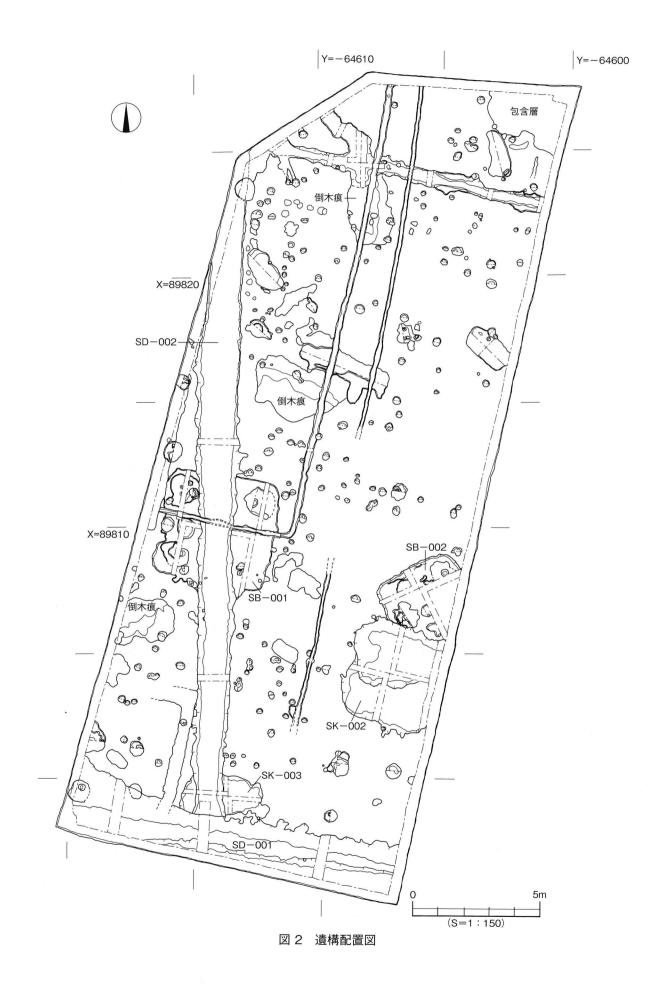
経 過 調査地は久米官衙遺跡群を構成する役所施設のひとつ、回廊北方官衙の西に位置する。調査地の東に位置する、久米高畑 52 次調査地では 8 世紀の地割を示すと考えられている東西方向に掘られた 2 条の平行な溝が見つかっている。しかし、52 次調査地より西は未調査の部分が多いため、古代の土地利用を明らかにするために、この地点で調査を行うことにした。排土置場のスペース確保等の関係から、該当地を東西にわけ、15 年度は東側(久米高畑遺跡 60 次調査地)を、16 年度は西側(同61 次調査地)を調査した。調査は国からの補助を受けて実施した。

遺構・遺物 調査地は標高 36.5m に位置し、調査以前は水田であった。基本層位は基盤層を含めて 3 層に大別される。 I 層は灰黄褐色粘質土(水田耕作土)、 II 層は黒褐色土(遺物包含層)、 II 層は明 黄褐色土(基盤層)である。遺構は II 層で検出した。竪穴式住居址 2 棟、溝 7 条、土坑 20 基、柱穴 184 基である。そのほか倒木痕も検出した。以下、主な遺構の概略について述べる。

SD001 は調査区の南端で検出した。東の久米高畑遺跡 60 次調査地から続く、東西方向の溝である。南辺は調査区外に広がっている。検出部の規模は長さ 13.8m、幅 1.8m~ 3m、検出面からの深さは 40cm~ 50cm を測る。60 次調査の結果と合わせると、溝幅は 4.5m 程度に復元できる。断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色土を主体とする。流水を示す痕跡はみられない。こぶし大の砂岩の半角礫を多く含む。埋土中には弥生土器、須恵器、瓦等の破片が散在していた。60 次調査では 12 世紀後半~ 13 世紀前半の龍泉窯系の青磁の破片が出土している。SD002 との切り合いからも考えて、SD001 の埋没時期は 8 世紀後半~ 13 世紀前半の間であろう。中世の屋敷地、あるいは館の周囲にめぐらされた濠の一部である可能性も十分考えられる。

SD002 は調査区の西で検出した。南北方向の溝である。南端は SD001 に切られ、北端は調査区外へ続いている。検出部の規模は長さ 27.8m、幅 1.2m~1.8m、検出面からの深さは 20cm~30cm を測る。断面形は皿状を呈する。埋土は暗褐色土ないし黒褐色土を主体とする。遺物は埋土中に破片が散在する。埋土中から鉄鏃 2 点、8 世紀後半の須恵器の坏蓋等が出土した。

SB001 は調査区西部に位置する。中央部を SD002 に切られる。平面形態は方形を呈し、規模は長さ 4.5m、幅 4.2m、検出面からの深さは 10cm ~ 20cm を測る。削平が激しく、残存状況は良くなかった。主柱穴は SP1 から SP4 の 4 本を検出した。各柱穴間隔は約 2.4m である。柱穴は方形の配置をとる。また、住居址の西壁中央付近で焼土を検出した。この位置につくりつけ竈があった可能性が高いが、その構造は失われている。周壁溝は検出されなかった。東壁沿いから 6 世紀の須恵器の坏蓋が出土した。



SB002 は調査区南東で検出した。SK002 に切られる。平面形態は方形を呈し、検出部の規模は長さ 3.4m、幅 3.2m、検出面からの深さは 5cm ~ 20cm を測る。住居址内からピットを数基検出したが、住居址に伴うものかは不明である。住居址の北西では周壁溝を確認した。規模は幅 12cm ~ 30cm、深さは 3cm を測る。埋土中から弥生時代後期の甕の口縁から胴部にかけての破片が出土した。

SK002 は調査区の南東で検出した。複数の土坑が集まっているが、切り合いは不明確であった。検出部の規模は長さ3.9m、幅3.4m、検出面からの深さは12cm~20cmを測る。埋土は黒褐色土ないし黒色土を主体とする。焼土の分布が確認された。埋土中から6世紀前半~後半の須恵器の坏が散在して10数点出土した。また鉄の破片が2点ほど出土している。SK002は、焼土の分布や鉄の破片の出土も確認できるものの、ここで鉄の加工が行われた可能性は低い。また遺物の出土状況から考えても何らかの祭祀が行われた可能性も低い。

#### 小 結 今回の調査では弥生~古墳の集落と古代の官衙の一端が明らかとなった。

東に接する 60 次調査地では、過去の来住台地上の調査成果とはやや異なる前期末~中期初頭の土 坑群を検出していたが、今回の 61 次調査ではこのような土坑の分布は見られなかった。また、当調 査地で注目すべき遺構としては SD002 が上げられる。正倉院東濠の南延長に位置し(P.106 図 1)、 8世紀後半の遺物が出土していることから、これと同時期の地割の溝ではないかと考えられる。(田内)



写真 1 調査区全景完掘状況 (北東より)

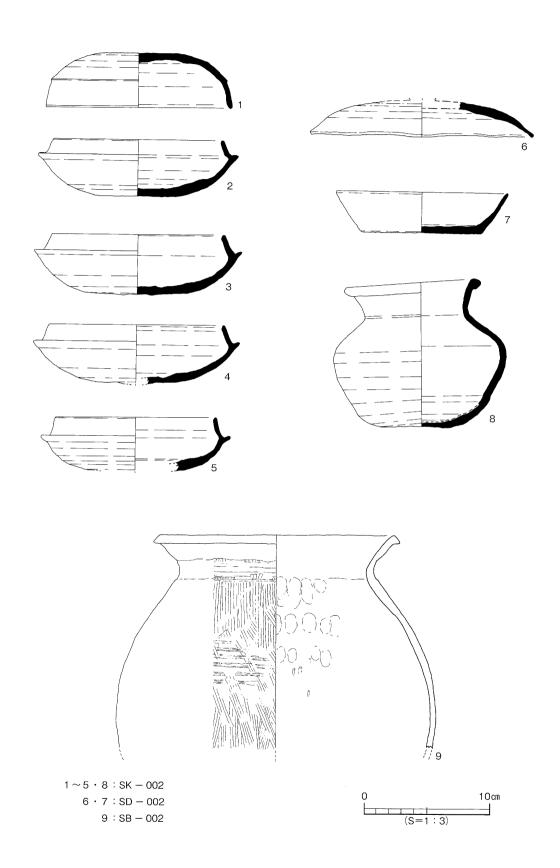


図 3 出土遺物実測図

# 人米高畑遺跡 62 次調査地

所在地 松山市来住町 1147 - 1の一部

期 間 平成16年4月20日~同年8月8日

面 積 約 445 m²

担 当 橋本雄一・大庭美鈴(文化財課)

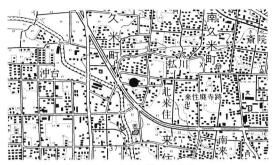


図 1 調査地位置図

経 過 久米官衙遺跡群の北西部、正倉院南濠の南に近接する水田において、国から補助を受けて発掘調査を実施した。調査地は、平成15年度に調査を行なった同59次(P.84)の敷地のうち、未調査であった東半分に該当する。なお、当該地に関しては、差し当たって開発を行う具体的計画が無いことから、水田に復旧している。

遺構・遺物 農道と水路を挟んだ北側に位置する同32次(1996年)や、西の同27次(1996年)、59次と同様、弥生時代前期末から中期頃と、古墳時代後期から奈良時代頃を中心とした時期の遺構が高い密度で分布する状況を確認した。

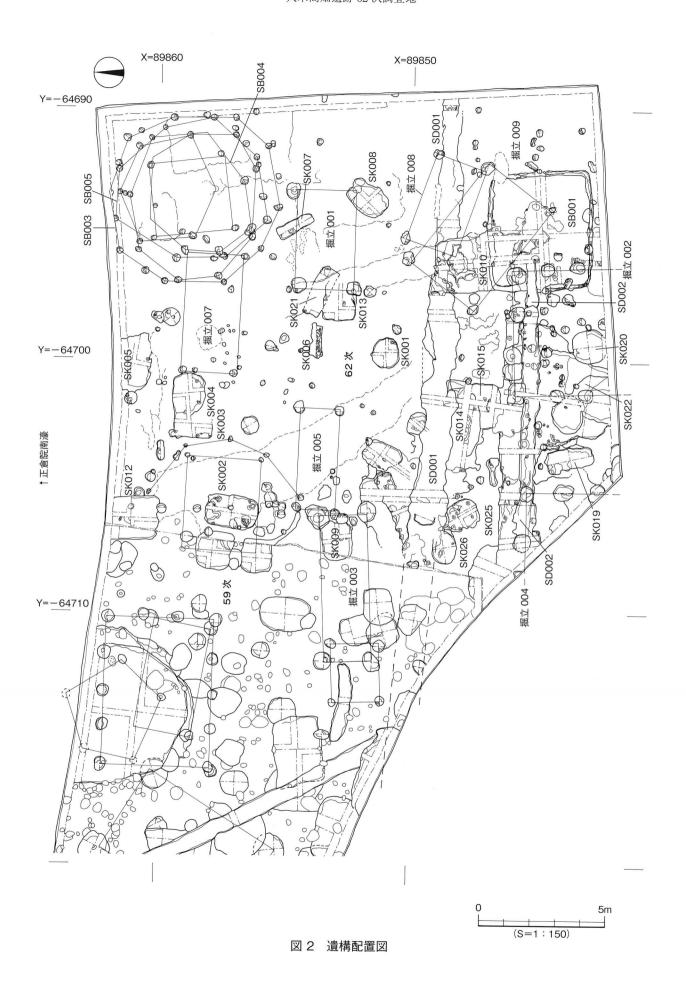
弥生時代に関する成果の中で特筆すべき事項として、SK 025 から出土した青銅製のノミをあげることができる。これは、北部九州で保持されていた弥生時代中期前半頃の銅戈の一部を切り取って、工具として再加工したものである。細形ないし中細形銅戈の基部に近い刃部から鎬にかけての部分を工具で切断の後、銅戈の刃部も含めて面取りしたうえで刃を付けている。基部についても斜めに面取りして、最終的に長さ 25mm、幅 12mm、厚さ 4.5mm、重さ 4.5g のノミに再加工されている。

この土坑からは、弥生時代中期後半から後期頃の土器片のほか、花崗岩の角礫と摩滅した砂岩各 1 点が出土している。土坑の形状は隅丸長方形で、規模は一辺  $1.5~\mathrm{m} \times 1.2~\mathrm{m}$ 、深さ  $0.1 \sim 0.2~\mathrm{m}$  を測る。前期末の穴蔵であると想定されている長方形の土坑( $5~\mathrm{K}$  010 ほか)と比較して底の凸凹が激しいことから、廃棄土坑である可能性が高いものと判断している。ノミを含むこれらの遺物は、祭祀後に一括投棄されたものと考えられる。

土坑の大半は、弥生時代前期末から中期頃の穴蔵であった可能性が想定されているものである。形状が明確なものとして、SK 010、002、009 などがある。このうち、最大のSK 010 は、南北 4 m×東西  $2.2\,\mathrm{m}$ 、深さ  $0.12\sim0.20\,\mathrm{m}$ を測る。南辺と北辺の中央付近に、直径約  $15\mathrm{cm}$  の小穴が 1 基ずつ付随するが、これは穴蔵の上部構造と関わりがあると推測されている(年報 $\mathrm{w}$ )。

掘立柱建物のうち、北部に多く分布する4本柱の長方形のものの多くは、弥生時代の建物である可能性が高いと判断してきた(年報15)。掘立006や007のように、柱穴の規模が小さいものについては他の時代のものである可能性も残されているが、掘立003や005のような形状の建物は、中期終り頃から後期にかけての高床式倉庫であろうと想定している。

弥生時代の竪穴式住居址の中で唯一、SB001のみが住居本体の掘り込みが確認されている。東西約4.8 m×南北約4.2 mの方形住居で、壁材の痕跡や貼り床が明瞭に観察された。叩きが施された土器の底部の破片が出土していることから、後期末の住居であると考えられる。東西主軸上に比較的小



さな柱穴が2基検出されているが、炉跡は確認されていない。このほか、北東部において、円形住居の柱穴だけが遺存している状況を確認している。最大で5棟の住居が重複して立地した可能性が考えられるが、このうち SB 003 は、外側の8本の柱と内側の4本柱が組み合わさって構成されていた可能性がある。

つづいて、官衙関連の遺構を中心に報告する。

西の 59 次において、その南辺が検出された正倉院の南濠については、今回の調査区では検出されていない。かわって、この濠に平行に掘られた 3 条の素掘りの直線溝を検出した。ともに官衙の区画溝と考えられる。このうち、南濠から約 15 mほど離れた S D 001 は、その底に径  $10 \sim 30$ mm 程度の小礫ならびに土器片が、びっしりと敷きつめられている。残存する深さは浅く、数 cm から 20cm ほどしかない。溝の底をかろうじて検出した状況であるが、溝幅は 1.2 m程度と復元している。埋土中に拳大の円礫が散見されるが、これは、正倉院に関する遺構において認められる 8 世紀以降の埋土の特徴である。 S D 002 は、 S D 001 の南約 3.5 mに位置している。小礫は敷きつめられていない。埋土の色調は S D 001 や 004 と比較してやや黒く、より古い時期の特徴を示す。拳大の円礫も認められない。 S D 004 は、 S D 002 の北辺に重複して掘り込まれた溝である。埋土の性質は S D 001 に近く、円礫が多く含まれているが、小礫は敷かれていない。

掘立柱建物のうち、南部に位置する掘立 002 と 004 については、官衙の出現前後の建物である可能性が考えられる。SD 002 と 004 に切られていること、柱穴が隅丸長方形に掘られていること、建物の方位が周辺の官衙施設と共通であることなどの理由から、正倉院が8世紀中頃に濠で囲われる以前の建物である可能性が高い。掘立 002 は、東西 3 間 (4.88 m) ×南北 3 間以上の南北棟である。掘立004 は、その北西角の柱穴が4基確認されたのみである。推定される建物北辺の柱筋は、東に隣接する掘立 002 に対して完全に一致しているわけではない。これは、隣り合う 2 棟の建物の間に時間差があったことを示すものかもしれない。

小 結 官衙の区画溝 3 条については、このうちの 2 条が一組となって道路側溝を形成する可能性は低いものと考える。埋土の性質や小礫の有無といった特徴が、溝ごとに若干異なっているからである。現時点では、南濠との方位の共通性から、正倉院南面の土地を区画する目的で掘られた区画溝であったと理解しておきたい。重要施設の南正面、しかも南北正中線に近い場所にあって、底に小礫を敷きつめることによって、視覚的効果を狙ったものかもしれない。 3 条の溝のうち、小礫が敷きつめられた S D 001 については、南濠との距離が概ね 50 尺と解釈可能であることからも、正倉院の外郭施設との密接なつながりを窺い知ることができる。同時に調査が行われた同 61 次検出の S D 002 (P.88)とあわせて、正倉院外周部における土地の使い方を知ることのできる重要な成果であったと評価される。(橋本)

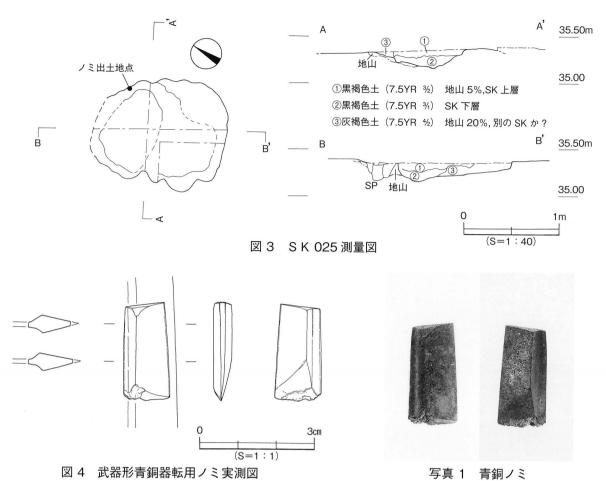




写真 2 SK 025 遺物出土状況(南西より)



写真3 南西部完掘状況 (北東より)



写真 4 南部完掘状況 (北より)



写真 5 完掘状況全景 (北東より)

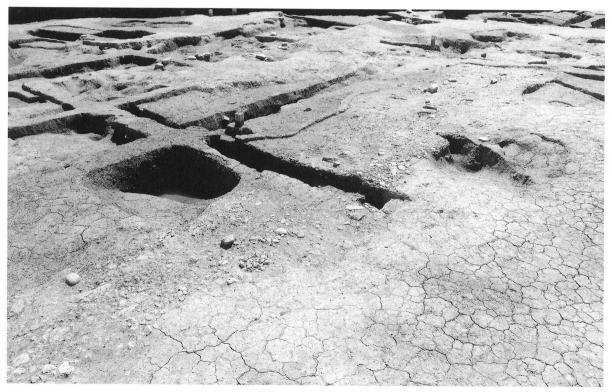


写真 6 SD 001 礫面検出状況 (北東より)

## 久米高畑遺跡 63 次調査地

所在地 松山市来住町 922

期 間 平成16年12月3日~平成17年3月31日

面 積 約850 m²

担 当 橋本雄一・山中菊乃(文化財課)



図1 調查地位置図

経 過 久米官衙遺跡群の主要施設である回廊状遺構の西約 100 m付近の水田において調査を実施した。調査地は、昨年度に調査が行われた同 58 次調査地(年報 16)の北東に隣接している。58 次調査地に比べて標高が一段高い水田に立地していることから、遺構の遺存状況がより良好であると期待された。調査は、重要遺跡の確認調査として、国から補助を受けて実施された。

遺構・遺物 調査の結果、官衙関連施設は確認されなかった。58次と同様、弥生時代から古墳時代にかけての土坑や建物跡を多数検出した。主な遺構としては、弥生前期末から中期頃の円形土坑4基、長方形土坑13基、中期から後期頃の掘立柱建物が数棟、後期終末から古墳時代初頭頃の方形竪穴式住居址2棟、古墳時代後期の掘立柱建物2棟などがあげられる。

弥生時代後半頃のものと考えられている4本柱の掘立柱建物としては、掘立004と018の2棟が規模も大きく確実な存在である。このほかにも多数の建物の候補をあげることができるが、所属時期だけでなく存在の可否も含めて検討の余地が残されている。

調査地北西部では、弥生時代終末以降と考えられる竪穴式住居址が2棟重複した状態で検出された。 このうちSB001は、周囲に幅1mほどのベッド状の高まりが造り付けられた住居で、中央部の床面 上において炭化物と焼土の塊が密に検出されたことから、焼失住居であると考えている。なお、この 遺跡群において焼失住居が確認されたのは、今回が初めてのことである。

古墳時代後期以降の掘立柱建物としては、北部に位置する掘立 001 と 002 の 2 棟があげられる。掘立 001 は、桁行 3 間以上(3 間分で約 5.3 m)×梁行 3 間(5.0 m)、方位は N -34° - Wの南北棟である。柱穴は直径 0.7 m程度の不整円形で、柱の痕跡ないし抜き取り跡が明瞭に確認された。この建物のように比較的大型で、方位が真北から大きくずれて建てられているものについては、多くの場合、官衙出現直前までの古墳時代後期に所属するものと考えている。一方、掘立 002 は、桁行 2 間(3.9 m)×梁行 2 間(3.2 m)、N -101° - Wの小規模な東西棟である。方位に関しては官衙施設に対応して

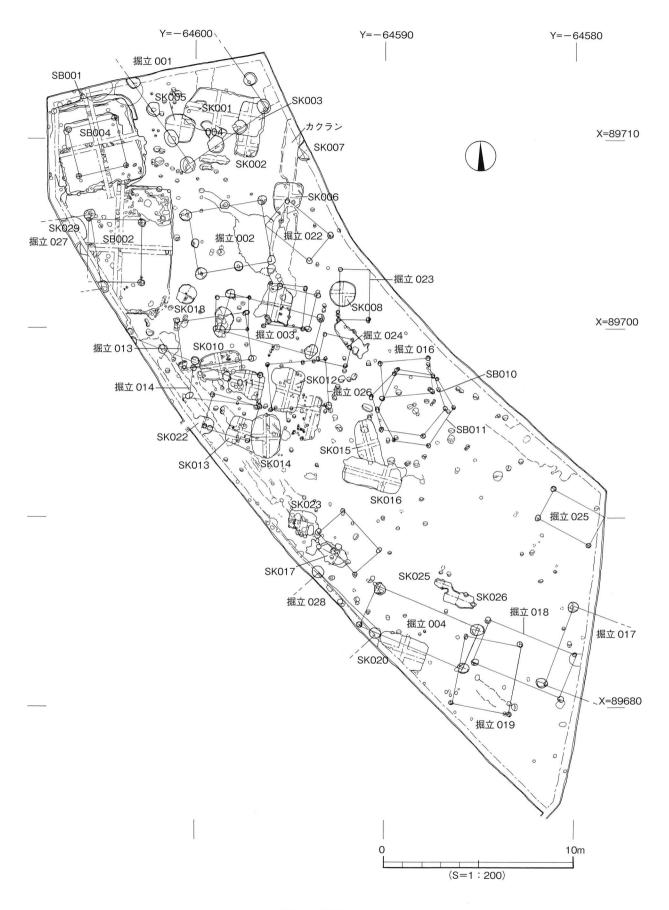


図 2 遺構配置図

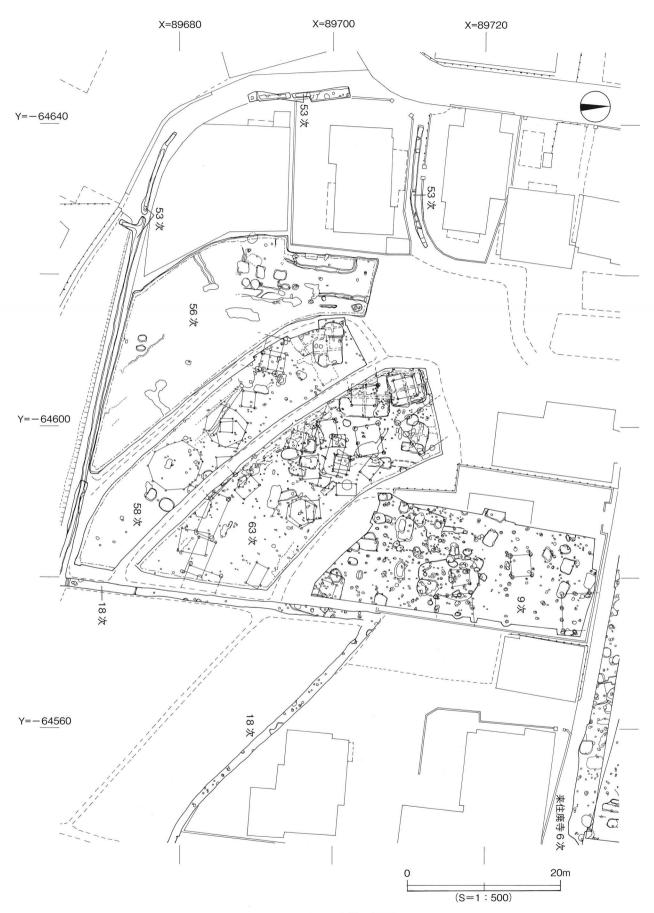


図3 周辺の遺構配置図

いるが、柱穴が円形で、埋土の色調も黒味が強く、より古い時期の特徴を示している。したがって、 官衙出現直前までの建物であると想定している。

小 結 久米高畑 18 次(平成元年度)と同 53 次(平成 14 年、年報 14. P 55)の際に確認されている 礫を敷きつめたように見える箇所が、当調査地の南東角に隣接していることから、回廊状遺構の西に も有力な官衙施設が立地するのではないかと考えられてきた。ただし、今次を含む 3 カ年にわたる調 査や、北に隣接する同 9 次ならびに 36 次(年報 X)等の成果を踏まえると、南西方向に向かって地 形が急激に下がるこの地点には、元々顕著な官衙施設は立地していなかったと考えるのが、より自然 な考え方のようである。(橋本)

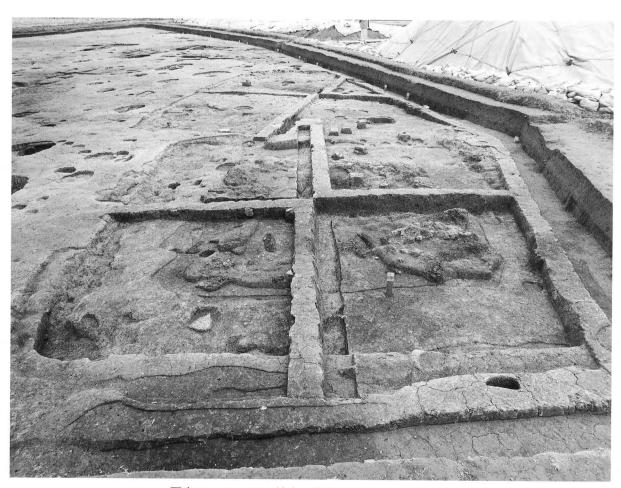


写真 1 SB 001 焼土と炭化物検出状況(北より)

## 久米高畑遺跡 64 次調査地

所在地 松山市来住町 895

期 間 平成17年2月14日~同年3月31日

面 積 約300 m

担 当 橋本雄一・山中菊乃(文化財課)

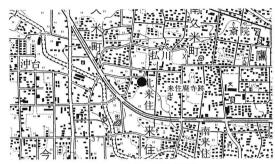


図 1 調査地位置図

経 過 久米官衙遺跡群の主要施設である回廊状遺構の北西角から北西に約50 m付近の水田において発掘調査を行った。調査地は、平成13年度に調査が行われた同52次調査地(年報14)の西に接していることから、その際に確認されている官衙の区画溝等の延長部分が検出されるものと期待された。調査は重要遺跡の確認のため、国から補助を受けて実施された。

遺構・遺物 官衙関連の遺構としては、東隣の52次で検出されていた2条平行に掘られた区画溝の 西延長部分を確認した。このほか、官衙出現以前の大型掘立柱建物の南西角付近の柱穴4基を検出し、 この建物の規模が確定した。地形的には、調査地中央部が弥生時代の低地にあたるため、弥生土器を 包含する黒色土が厚く堆積している。

官衙の地割の溝であるSD 001 と 002 は、約 4.5 m隔てて平行に掘られている。幅広の溝の底がわずかに遺存した状態であることから、一定ではないが、概ね溝幅は 1.5 m程度とみられる。底には部分的に工具の痕跡が遺存するなど、排水を考えて丁寧に仕上げられた様子は認められない。この状況は 52 次における所見と同様である。最下部には色調の暗い黒色土、その上に8世紀特有の礫混じりの褐灰色土が堆積する。試掘の際に、SD 002 から8世紀代の須恵器の蓋坏が出土したほか、52 次の際にもSD 001 から瓦片や8世紀後半の坏身等が出土している。

南部の低地南辺において検出された 4 基の柱穴は、52 次調査の際に確認済みの掘立 003 の南西角を構成するものである。この建物は、内部にも床束の柱穴が配置される高床の収納施設であることが判っているが、今回確認された柱穴は側柱のみである。桁行 4 間(7.1 m)×梁行 3 間(6.1 m)の南北棟に復元される。これとほぼ同様の形態の建物が、北東に約 30 m離れた位置(49 次、年報 13)に1棟存在するが、官衙関連施設に対して先行する時期のものであることが明らかにされている。よって、掘立 003 についても、同様の評価をしている。

このほか、北部で検出されたSB001は、一辺7mを超える大型の竪穴式住居址で、造り付けカマドの痕跡が確認されることから、古墳時代後期のものと考えられる。また、掘立001とした建物は、弥生時代後半期の高床式建物であると考えている。柱穴の深さが現況の地山面から約0.7mに達しており、他の時代の付近の遺構と比較して格段に深く掘られている。同様の形態の建物が、東に接する52次と49次調査地において少なくとも6棟認定されている。

小 結 2条平行の溝の起点は、東に隣接する49次調査地の西部に位置している。今次の調査によって、この場所から、本調査地西部の試掘トレンチ2に至る東西約46mにわたってこの溝が存在することが明らかにされた。なお、調査地西方約40mに位置する同60次、61次調査地においては、





図3 周辺の遺構配置図

これらの溝の延長部は検出されていない。したがって、全長は最大でも85 mは超えないものと想定されるが、水田ごとの削平の度合いの違い等の要素も考慮する必要があることから、一概には言えない。52 次の際にこれらの溝が掘られた理由として、南へ拡張された正倉院の南面を東西に結ぶ道路として設定された可能性を検討したが、60 次の結果に加えて、今次の調査においても、これらの溝を道路側溝であると断定できる証拠は確認されなかった。直線的な形状から、地割のための溝として理解することは可能であるが、7世紀後葉の来住廃寺や8世紀中頃の正倉院の成立以後の新しい段階の道路を区画する溝であるか否かについての評価については、今回も保留しておく。(橋本)

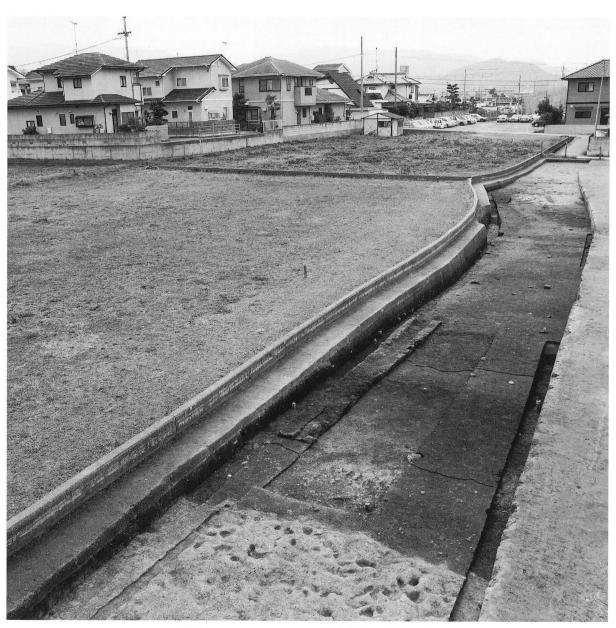


写真 1 SD 001・002 検出状況 (北より)

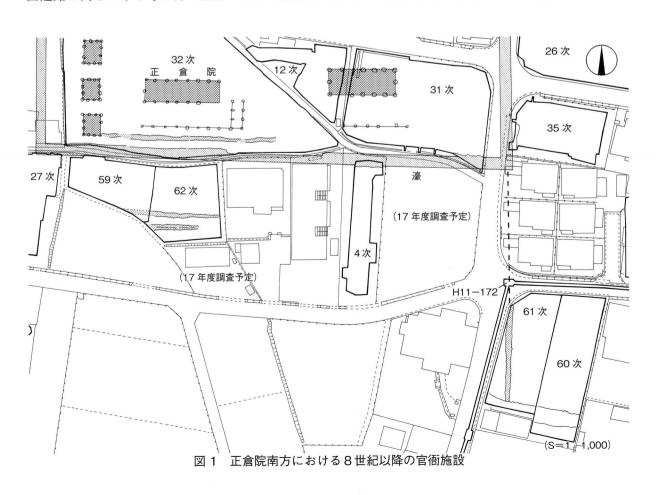
## 久米官衙遺跡群 ~平成16年度の成果と今後の展望~

#### 正倉院南方における8世紀以降の地割について

『年報 14』(2003 年)の「久米官衙遺跡群~13 年度調査の成果と今後の展望~」において、当遺跡群における8世紀代の土地の利用形態について報告したが、今年度行われた各調査によって得られた所見を踏まえて、簡単にまとめておく。

『年報 14』において、52 次調査の成果から、正倉院の南面を東西に貫く道路の存在を仮定したが、60 次ならびに 61 次調査地においては、該当する区画施設は検出されていない。したがって、現時点では当時の仮説を実証するには至っていない。

一方、61次のSD 002と62次のSD 001は、その位置、方向性、埋土の性質等の特徴から、正倉院南方における地割を示す遺構として評価可能であると考える。特に、61次のSD 002については、出土遺物から、8世紀以降に埋没したことが確実である。その方向性も、正倉院東濠の南延長線上に対応することから、この場所を南北に通る道路の側溝であった可能性が高い。当遺跡群の地割を示す溝としては幅が広いことから、この溝の西側には、有力な官衙施設が展開しているのかもしれない。これと関連して、62次のSD 001に関しては、底に小礫を敷きつめた特徴的なあり方から、正倉院の南北正中線に近いこの場所に特別な意識が働いた結果であると考える。濠の南側に設けられた広場のような空間を区画する目的の溝であったのかもしれない。場合によると、『年報 14』で指摘した東西道路と同じような考え方の施設である可能性も考えておく必要がありそうである。(橋本)





# Ⅱ 平成 16 年度 松山市埋蔵文化財調査関係資料

#### 松山市埋蔵文化財調査関係資料

#### 例言

- 1. 本編は、松山市教育委員会文化財課・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが実施した埋蔵文化財確認調査及び本格調査資料である。
- 2. 埋蔵文化財確認調査は平成 15 年度(申請番号 1 ~ 343 号)、16 年度(申請番号 1 号~ 364 号)、 平成 15 年 4 月 1 日~平成 17 年 3 月 31 日受付迄の資料を取り扱う。なお、平成 14 年度以前の資料については、『松山市文化財調査年報 I ~ X (昭和 60 ~ 平成 9 年度)、同年報 11 ~ 15(平成 10 ~ 14 年度)』を参照されたい。
- 3. 資料作成(一覧表・付録図)は、西尾幸則、田城武志、楠 寛輝、西村直人、高尾和長、小笠原善治、 武正良浩、政本和人、山口由浩、國田克彦、戸川安子が行った。
- 4. 表中の番号は、埋蔵文化財確認願いの申請番号に順するものである。また、本格調査については、 平成16年度に行った調査を取り扱う。
- 5. 付録図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図(三津浜・松山北部・郡中・松山南部)を使用し、 7万5千分の1の縮尺で記載した。
- 6. 一覧の略記について
  - ①標高:地表面、( )は調査地内平均値。②調査目的:公=施主公共団体、私=施主一般。
  - ③調査方法:空白は未調査等。
- (4)緊急:記録保存を目的とした調査。国補:国庫補助事業調査。

#### 埋蔵文化財の保護について

文化財は、わが国の歴史・文化等を正しく理解するために欠くことのできないものであり、かつ将来の文化の向上、発展の基礎をなすものです。それら文化財の保存・活用による国民の文化的向上を目的として昭和 25 年に制定された文化財保護法には、国民の心柄えとして、「政府及び地方公共団体がこの目的を達成するために行う措置に誠実に協力しなければならない」こと、「文化財が貴重な国民的財産であることを自覚し、これを公共のために大切に保存するとともに、その文化的活用に努めなければならない」ことが記されています。また同時に政府及び地方公共団体は、関係者の所有権その他の財産権を尊重しなければならないこととなっています。

#### ●周知の埋蔵文化財包蔵地内における土木工事等届出および確認調査について

埋蔵文化財包蔵地とは、貝づか、古墳、城跡等はもとより、土器片等の地表面での散布が認められる場所(散布地)、並びに土中での包含が認められる場所(包含地)をいいます。

埋蔵文化財は建造物等の他の文化財と違って主に地下に存在するため、土木工事等による破壊を免れない場合があります。そのため、この地図に示された「周知の埋蔵文化財包蔵地」内で土木工事等を行う場合は、60日前までに愛媛県教育委員会への届出が義務付けられています。また、その届出に伴い埋蔵文化財の有無を確認するための調査(踏査、試掘等)を行いますので、土木工事等の計画がある場合は事前に松山市教育委員会文化財課へご相談ください。(各包蔵地及び名称は、平成17年8月現在のものです)

#### 旧松山市域包蔵地

1 お稲荷さん古墳

2 天の神様古墳

3 じんうわ古墳

4 大池古墳

5 御手洗遺跡

6 赤子谷山古墳

7 坂波古墳

8 せいじ坊古墳

9 のぼりを山古墳

10 片廻遺跡(弥生時代)太山寺古墳群 片廻古墳群 素鵞神社

11 石風呂町弥生遺物包含地古墳群 岩木山古墳群

12 和気支所遺物包含地

13 高山遺跡

14 梅津寺古墳群

15 三光団地遺跡

16 船ヶ谷古墳群 北山古墳群 17 東山町古墳群

18 久万ノ台古墳群 久万ノ台弥生遺物包含地

19 衣山弥生遺跡 衣山古墳群B 東仙寺古墳群

20 永塚古墳

21 衣山古墳群 うまや古墳 弥生遺物包含地

25 生石八幡神社古墳群

22 山西遺物包含地

23 忽那山古墳群26 南斎院遺跡

24 弁天山古墳群 鯛崎遺物包含地

28 八反地遺跡

29 北斎院遺物包含地

27 津田古墳群 津田弥生遺物包含地

31 岩子山弥生遺跡 岩子山古墳群

30 - ① 御産所古墳群① 30 - ② 御産所古墳群②

-110 -

#### 松山市埋蔵文化財調査関係資料

32	大峰ヶ台弥生遺跡A 大嶋	冬上上	古墳群 A	22	大峰ヶ台弥生遺跡 B 大峰・	- 4士	· 情野 D
	朝美町遺跡(遺物包含地)				古照遺跡		正水遺跡
37	南江戸町遺跡		ロダイン 北谷・権現山 (弥生遺				ろうそく山古墳
40	堂ヶ谷古墳	41	潮見古墳群 遺物包含地			43	池ノ谷古墳
44	みのこし遺跡	45	極原古墳群 が展古墳群		長建寺古墳	47	横谷丸塚古墳
48	御幸寺山古墳群	49	長谷遺跡	50	祝谷古墳群	51	山田池(祝谷)遺物包含地
	瀬戸風峠古墳群	53	土居の段遺物包含地	54		55 55	北代遺物包含地
56	緑台遺物包含地	55 57	土居窪遺物包含地		<b>桜谷古墳群</b>	59	<b>松谷本尊古墳</b>
60	冠山遺跡	61	五后连通物包含地 義安寺遺物包含地		石手寺古墳群	63	石手寺古墳第1号
	石手寺古墳第2号		※安子園初己占地 ※室谷古墳群		<b>溝辺古墳群</b>	67	植又(元練兵場)遺物包含地(文京遺跡)
68	今市遺物包含地	69	水口遺跡 遺物包含地			71	土器堀(カワラケボリ)遺物包含地
72		73	掘ノ内遺物包含地		城ノ内古墳	75	
	持田町遺物包含地						寺山古墳
76	勝山古墳	77	鎧塚古墳		東野古墳群	79	お茶屋台古墳群
80	東野池古墳群	81			東本遺物包含地	83	枝松遺物包含地 畑寺古墳群
84	経石山古墳	85	三島神社古墳跡			87	77. • • • • • • • • • • • • • • • • • •
88	桑原古墳群	89	芝ヶ峠古墳群		権現山古墳群	91	久米山田池遺物包含地 山田池古墳群
	たんち山古墳		鷹ノ子古墳 五郎兵衛			94	大池古墳群
	大門遺物包含地 大門古坊		TE II AN LLEE IIV		桧山峠古墳群	97	今吉古墳群
98	かいなご古墳群		平井谷古墳群		牛馬塚古墳	100	eta dellad.a. Lette
101	観音山古墳群 観音山丘陵				默馬窯跡群 1.4% 1.4%		鳥越古墳
104			潮見山古墳群・愛宕山			106	明神ヶ鼻古墳群
107		108	中村町遺跡		朝生田遺物包含地	110	金ノ口遺跡 ロール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
111					枝松五丁目遺物包含地		松末遺物包含地
115				117	天山古墳群 天山遺物包含:		
118	東山縄文・弥生遺物包含				西石井遺物包含地	120	居相遺物包含地
121	井門遺物包含地	122	星ノ岡古墳群 縄文・	弥生:	遺物包含地	123	武勇神社古墳
124	北久米遺物包含地	125	今在家遺物包含地(弥	生・:	上師)	126	高畑遺物包含地
127	来住廃寺跡	128	鷹ノ子遺物包含地①	129	鷹ノ子遺物包含地②	130	軍ヶ森千人塚古墳
131	久米窪田遺物包含地	132	中ノ子廃寺及び遺物包	2含地		133	波賀部(前方後円)古墳
134	浮穴小学校遺物包含地	135	高尾田古墳群 弥生縄	【文遺	物包含地	136	ドンダ原坂古墳群 弥生・縄文遺物包含地
137	南ヶ丘縄文・弥生遺跡	有ケ」			八塚古墳群	139	西野古墳群 西野縄文·弥生遺物包含地
140	松ヶ谷古墳群 松ヶ谷弥	生遺物	勿包含地	141	荏原城跡	142	水泥遺物包含地
143	町組遺物包含地	144	矢谷古墳群 矢谷弥生	這遺物	包含地	145	長生池の上弥生遺物包含地
146	夫婦池の上弥生遺物包含:	地		147	津吉遺物包含地	148	津吉古墳群
149	津吉上古墳群	150	北谷窯跡	151	北谷遺物包含地	152	平井遺物包含地
153	道後公園遺物包含地	154	久枝遺物包含地	155	安城寺遺物包含地(縄文・引	が生・	土師)
156	北斎院遺物包含地(弥生)	5墳)		157	桑原遺物包含地(弥生古墳)	158	北土居墳墓
159	宮田町遺物包含地	160	山越遺物包含地(縄文	· 弥/	生)	161	中村二丁目遺物包含地
162	素鵞神社遺物包含地	163	南中学校遺物包含地(	古墳)	)		
164	土用部池の上包含地 (縄文	· 弥/	<ul><li>主) 新張池の上包含地</li></ul>	165	関屋遺物包含地	166	北梅本包含地(弥生)
167	久万ノ台包含地 ( 弥生後期	月・己	ī墳)	168	姫原包含地(縄文)	169	大畑遺跡(古墳)
170-	① 権現包含地(古墳)①	170-	② 権現包含地(古墳)	2 17	0-③ 権現包含地(古墳)③	171	上関屋包含地(縄文·弥生)
172	竹が谷遺跡	173	大渕遺跡	174	明沢城跡	175	葛籠葛城跡
176	土居城跡	177	花見山(福角)城跡	178	湊山(港山)城跡	179	医座山(白山)城跡
180	大友(大砥)城跡	181	奥の城(城山さん)	182	形山城跡	183	勝山(片山)城跡
184	菊ケ森城跡	185	葛掛城跡(城ヶ台)	186	重松城跡	187	勝賀山(梅子山)城跡

#### 松山市埋蔵文化財調査関係資料

18	88 新(真)城跡	189	高井城跡	190	高山城跡	191	縦渕(立渕)城跡
19	92 尉の(除の)城跡	193	新張(縫針)城跡	194	西之谷城跡	195	福角城跡
19	96 松船城跡	197	森の城(吉野森城)跡	198	義安寺砦跡	199	鳥津木城跡
20	00 鏡山城跡	201	観音山	202	松末館跡	203	二之森(ふたつ森)城跡
20	04 賀生(加名山)城跡	205	仙波館跡	206	横山城跡		

#### 北条地区包蔵地

名石古墳	2	丸山古墳	3	高山古墳	4	家の谷古墳	5	打越 A 古墳	6	打越B古墳
難波奥谷古墳(	県指	定文化財)	8	小坂古墳	9	小原古墳	10	岡の上古墳	11	萩尾古墳群
宮内馬場古墳	13	辻の内古墳群	14	才の谷古墳	15	櫛玉比売命神社古墳	16	新城古墳群	17	龍徳寺山古墳群
稗佐古遺跡	19	女夫池遺跡	20	柳が内遺跡	21	夏狩遺跡	22	池の奥遺跡	23	安養寺遺跡
垣の内遺跡	25	常竹大谷古墳群	¥ 26	蓮台寺経塚	27	天狗谷古墳群	28	南宮の戸貝塚(	市指	定文化財)
大遊寺古墳群	30	波田神田古墳群	<b>¥</b> 31	地蔵堂古墳群	32	別府遺物包蔵地	33	夏目古墳群	34	椋之原古墳群
明見神社古墳郡	∮36	センボ山古墳群	羊 37	宇佐八幡神社古墳	38	上難波古墳群	39	上難波箱式石村	墓	40 下難波古墳群
小山田古墳群	42	小山田遺跡	43	波田箱式石棺群	44	波田(烏谷池)遺跡	45	善応寺経塚	46	日浦経塚
マス池遺跡	48	前田池遺跡	49	恵良山遺跡	50	菖蒲谷遺跡	51	椋之原山遺跡	52	高山遺跡
片山池遺跡	54	常竹遺跡	55	老僧奧遺跡	56	西久保遺跡	57	平山池遺跡	58	三島ケ谷遺跡
大成遺跡	60	陣屋遺跡	61	平原遺跡	62	土居遺跡	63	観音堂遺跡	64	上竹遺跡
神田遺跡	66	八竹山遺跡	67	善応寺遺跡	68	東禅寺遺跡	69	河野館跡	70	来島一族宝篋印塔
福性寺跡	72 -	~77 「欠」	78	山の神古戦場跡	(市排	旨定文化財)	79	鎌大師境内(十	八八人	塚)〈市指定文化財〉
「欠」	81	茶臼権現遺跡	〈市指定	文化財〉	82	河原池遺跡	83	和田池遺跡	84	サオ池遺跡
阿部ケ谷池遺跡	ة 86	萩原遺跡	87	鹿島遺跡	88	腰折山東遺跡	89	上難波奥遺跡	90	上難波奥弥生墳墓
安養寺谷(辻新	池)遣	遺跡	92	「欠」	93	恵良城跡〈県指定	文化則	$ a\rangle$	94	鹿島城跡
十二台(神途)切	或跡 🤉	96 高穴城跡	97	宅並城跡	98	日高山城跡	99	横山城跡〈県持	旨定文	<b>C</b> 化財〉
浅海城跡	101	雄甲城跡	102	勝根山城跡	103	須保木城跡	104	十九地山城跡	105	萩尾城跡
雌甲城跡	107	丸山城跡	108	長正寺遺跡	109	新日高城跡	110	高手山城跡	111	能楽遺跡
高縄城跡	111	腰折山城跡	114	新城山城跡	115	神途城跡	116	新高手山城跡	117	萩ノ森城跡
名石城跡	119	柴尾城跡	120	兎ケ城跡	121	波妻城跡	122	小新城砦跡	123	八竹山城跡
粟井坂遺跡	125	古日高城跡	126	鹿島神社前遺跡		俵原池遺跡	128	エギ谷古墳	129	善応寺畔地遺跡
	難宮稗垣大明小マ片大神福ケの養二海町地では、大明小マ片大神福ケの養土で、大神田、大神田、大神田、大神田、大神・大神・大神・神田、大神田、大神・大神・神田、大神・神・神・神・神・神・神・神・神・神・神・神・神・神・神・神・神・神・神・	難波奥谷古墳(県指宮内馬場古墳 13 神佐古遺跡 19 垣の内遺跡 25 大遊寺古墳 30 明見神社古墳群 42 マス池遺跡 48 片山池遺跡 54 大成遺跡 60 神田遺跡 66 福性寺跡 72 「欠」 81 阿部ケ谷と遺跡 86 安養寺谷(辻新池) 遺十二台(神途) 城跡 51 浅海城跡 101 雌甲城跡 107 高縄城跡 111	難波奥谷古墳(県指定文化財) 宮内馬場古墳 13 辻の内古墳群 稗佐古遺跡 19 女夫池遺跡 垣の内遺跡 25 常竹大谷古墳郡 大遊寺古墳群 30 波田神田古墳郡 明見神社古墳群 42 小山田遺跡 小山田古墳群 42 小山田遺跡 片山池遺跡 54 常竹遺跡 大成遺跡 60 陣屋遺跡 神田遺跡 66 八竹山遺跡 福性寺跡 72~77「欠」 「欠」 81 茶臼権現遺跡 阿部ケ谷池遺跡 86 萩原遺跡 安養寺谷(辻新池)遺跡 十二台(神途)城跡 96 高穴城跡 浅海城跡 101 雄甲城跡 雌甲城跡 107 丸山城跡 高縄城跡 111 腰折山城跡 名石城跡 119 柴尾城跡	難波奥谷古墳 (県指定文化財) 8 8 宮内馬場古墳 13 辻の内古墳群 14 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	難波奥谷古墳 (県指定文化財) 8 小坂古墳 宮内馬場古墳 13 辻の内古墳群 14 才の谷古墳 神佐古遺跡 19 女夫池遺跡 20 柳が内遺跡 垣の内遺跡 25 常竹大谷古墳群 26 蓮台寺経塚 大遊寺古墳群 30 波田神田古墳群 31 地蔵堂古墳群 明見神社古墳群 36 センボ山古墳群 37 字佐八幡神社古墳 小山田古墳群 42 小山田遺跡 43 波田箱式石棺群 マス池遺跡 48 前田池遺跡 49 恵良山遺跡 54 常竹遺跡 55 老僧奥遺跡 7大成遺跡 60 陣屋遺跡 61 平原遺跡 67 善応寺遺跡 60 陣屋遺跡 67 善応寺遺跡 60 神田遺跡 66 八竹山遺跡 67 善応寺遺跡 67 本・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	難波奥谷古墳 (県指定文化財) 8 小坂古墳 9 宮内馬場古墳 13 辻の内古墳群 14 才の谷古墳 15 稗佐古遺跡 19 女夫池遺跡 20 柳が内遺跡 21 垣の内遺跡 25 常竹大谷古墳群 26 蓮台寺経塚 27 大遊寺古墳群 30 波田神田古墳群 31 地蔵堂古墳群 32 明見神社古墳群 36 センボ山古墳群 37 字佐八幡神社古墳 38 小山田古墳群 42 小山田遺跡 43 波田箱式石棺群 44 マス池遺跡 48 前田池遺跡 49 恵良山遺跡 50 片山池遺跡 54 常竹遺跡 55 老僧奥遺跡 56 大成遺跡 60 陣屋遺跡 61 平原遺跡 62 神田遺跡 66 八竹山遺跡 67 善応寺遺跡 68 福性寺跡 72~77「欠」 78 山の神古戦場跡(市持「欠」 81 茶臼権現遺跡〈市指定文化財〉 82 阿部ケ谷池遺跡 86 萩原遺跡 87 鹿島遺跡 88 安養寺谷(辻新池)遺跡 92 「欠」 93 十二台(神途)城跡 96 高穴城跡 97 宅並城跡 98 浅海城跡 101 雄甲城跡 102 勝根山城跡 103 雌甲城跡 101 雄甲城跡 102 勝根山城跡 103 雌甲城跡 101 雄甲城跡 108 長正寺遺跡 109 高縄城跡 111 腰折山城跡 114 新城山城跡 115 名石城跡 119 柴尾城跡 120 兎ケ城跡 121	難波奥谷古墳 (県指定文化財) 8 小坂古墳 9 小原古墳 宮内馬場古墳 13 辻の内古墳群 14 才の谷古墳 15 横正比売命神社古墳 理の内遺跡 25 常竹大谷古墳群 26 連台寺経塚 27 天狗谷古墳群 大遊寺古墳群 30 波田神田古墳群 31 地蔵堂古墳群 32 別府遺物包蔵地 明見神社古墳群 36 センボ山古墳群 37 字佐八幡神社古墳 38 上難波古墳群 小山田古墳群 42 小山田遺跡 43 波田箱式石棺群 44 波田 (烏谷池) 遺跡 マス池遺跡 48 前田池遺跡 49 恵良山遺跡 50 菖蒲谷遺跡 方の遺跡 56 西久保遺跡 56 西久保遺跡 60 陣屋遺跡 61 平原遺跡 62 土居遺跡 福性寺跡 72~77「欠」 78 山の神古戦場跡 (市指定文化財) 「欠」 81 茶臼権現遺跡 (市指定文化財) 82 河原池遺跡 安養寺谷(辻新池)遺跡 92 「欠」 93 恵良城跡 〈県指定・十二台(神途) 城跡 96 高穴城跡 97 宅並城跡 98 日高山城跡 浅海城跡 101 雄甲城跡 102 勝根山城跡 103 須保木城跡 雌甲城跡 107 丸山城跡 108 長正寺遺跡 109 新日高城跡 高縄城跡 111 腰折山城跡 114 新城山城跡 115 神途城跡 高縄城跡 111 腰折山城跡 114 新城山城跡 115 神途城跡 高縄城跡 111 腰折山城跡 114 新城山城跡 115 神途城跡 高縄城跡 111 腰折山城跡 120 兎ケ城跡 121 波妻城跡	難波奥谷古墳 (県指定文化財) 8 小坂古墳 9 小原古墳 10 宮内馬場古墳 13 辻の内古墳群 14 才の谷古墳 15 櫛玉比売命神社古墳 16 稗佐古遺跡 19 女夫池遺跡 20 柳が内遺跡 21 夏狩遺跡 22 垣の内遺跡 25 常竹大谷古墳群 26 連合寺経塚 27 天狗谷古墳群 28 大遊寺古墳群 30 波田神田古墳群 31 地蔵堂古墳群 32 別府遺物包蔵地 33 明見神社古墳群 36 センボ山古墳群 37 字佐八幡神社古墳 38 上難波古墳群 39 小山田古墳群 42 小山田遺跡 43 波田箱式石棺群 44 波田 (烏谷池)遺跡 45 マス池遺跡 48 前田池遺跡 49 恵良山遺跡 50 菖蒲谷遺跡 51 片山池遺跡 54 常竹遺跡 55 老僧奥遺跡 56 西久保遺跡 57 大成遺跡 60 陣屋遺跡 61 平原遺跡 62 土居遺跡 63 神田遺跡 66 八竹山遺跡 67 善応寺遺跡 68 東禅寺遺跡 69 福性寺跡 72 ~77 「欠」 78 山の神古戦場跡(市指定文化財) 79 「欠」 81 茶臼権現遺跡(市指定文化財) 82 河原池遺跡 83 阿部ケ谷池遺跡 86 萩原遺跡 87 鹿島遺跡 88 腰折山東遺跡 89 安養寺谷(辻新池)遺跡 92 「欠」 93 恵良城跡〈県指定文化財十二台(神途)城跡 96 高穴城跡 97 宅並城跡 98 目高山城跡 99 浅海城跡 101 雄甲城跡 102 勝根山城跡 103 須保木城跡 104 雌甲城跡 107 丸山城跡 108 長正寺遺跡 109 新日高城跡 110 高縄城跡 111 腰折山城跡 108 長正寺遺跡 109 新日高城跡 110 高縄城跡 111 腰折山城跡 114 新城山城跡 115 神途城跡 116	難波奥谷古墳 (県指定文化財) 8 小坂古墳 9 小原古墳 10 岡の上古墳 宮内馬場古墳 13 辻の内古墳群 14 才の谷古墳 15 櫛玉比売命神社古墳 16 新城古墳群 神佐古遺跡 19 女夫池遺跡 20 柳が内遺跡 21 夏狩遺跡 22 池の奥遺跡 垣の内遺跡 25 常竹大谷古墳群 26 連合寺経塚 27 天狗谷古墳群 28 南宮の戸貝塚 (大遊寺古墳群 30 波田神田古墳群 31 地蔵堂古墳群 32 別府遺物包蔵地 33 夏目古墳群 明見神社古墳群 36 センボ山古墳群 37 字佐八幡神社古墳 38 上難波古墳群 39 上難波箱式石材 小山田古墳群 42 小山田遺跡 43 波田箱式石棺群 44 波田 (烏谷也)遺跡 45 善応寺経塚 マス池遺跡 48 前田池遺跡 49 恵良山遺跡 50 菖蒲谷遺跡 51 椋之原山遺跡 片山池遺跡 54 常竹遺跡 55 老僧奥遺跡 56 西久保遺跡 57 平山池遺跡 大成遺跡 60 陣屋遺跡 61 平原遺跡 62 土居遺跡 63 観音堂遺跡 神田遺跡 66 八竹山遺跡 67 善応寺遺跡 68 東禅寺遺跡 69 河野館跡 福性寺跡 72 ~77 「欠」 78 山の神古戦場跡 (市指定文化財) 79 鎌大師境内(十下人」 81 茶臼権現遺跡 (市指定文化財) 82 河原池遺跡 83 和田池遺跡 阿部ケ谷池遺跡 86 萩原遺跡 87 鹿島遺跡 88 腰折山東遺跡 89 上難波奥遺跡 安養寺谷 (辻新池)遺跡 92 「欠」 93 恵良城跡 (県指定文化財) 十二台 (神途)城跡 96 高穴城跡 97 宅並城跡 98 日高山城跡 99 横山城跡 (県打境城跡 101 雄甲城跡 102 勝根山城跡 103 須保木城跡 104 十九地山城跡 雌甲城跡 107 丸山城跡 108 長正寺遺跡 109 新日高城跡 110 高手山城跡 高縄城跡 111 腰折山城跡 108 長正寺遺跡 109 新日高城跡 110 高手山城跡 111 腰折山城跡 114 新城山城跡 115 神途城跡 116 新高手山城跡 110 高手山城跡 111 腰折山城跡 111 腰折山城跡 112 次妻城跡 112 次妻城跡 112 小新城砦跡	難波奥谷古墳 (県指定文化財) 8 小坂古墳 9 小原古墳 10 岡の上古墳 11 宮内馬場古墳 13 辻の内古墳群 14 才の谷古墳 15 櫛玉比売命神社古墳 16 新城古墳群 17 神佐古遺跡 19 女夫池遺跡 20 柳が内遺跡 21 夏狩遺跡 22 池の奥遺跡 23 垣の内遺跡 25 常竹大谷古墳群 26 連合寺経塚 27 天狗谷古墳群 28 南宮の戸貝塚 (市指大遊寺古墳群 30 波田神田古墳群 31 地蔵堂古墳群 32 別府遺物包蔵地 33 夏目古墳群 34 明見神社古墳群 36 センボ山古墳群 37 字佐八幡神社古墳 38 上難波古墳群 39 上難波箱式石棺墓 7 小山田古墳群 42 小山田遺跡 43 波田箱式石棺群 44 波田 (烏谷池) 遺跡 45 善応寺経塚 46 マス池遺跡 48 前田池遺跡 49 恵良山遺跡 50 菖蒲谷遺跡 51 椋之原山遺跡 52 片山池遺跡 54 常竹遺跡 55 老僧奥遺跡 56 西久保遺跡 57 平山池遺跡 58 大成遺跡 60 陣屋遺跡 61 平原遺跡 62 土居遺跡 63 観音堂遺跡 64 神田遺跡 66 八竹山遺跡 67 善応寺遺跡 68 東禅寺遺跡 69 河野館跡 70 福性寺跡 72 ~77 「欠」 78 山の神古戦場跡 (市指定文化財) 79 鎌大師境内 (十八人下欠) 81 茶臼権現遺跡 (市指定文化財) 82 河原池遺跡 89 上難波異遺跡 90 安養寺谷 (辻新池) 遺跡 92 「欠」 93 恵良城跡 (県指定文化財) 94 十二台 (神途) 城跡 96 高穴城跡 97 宅並城跡 98 日高山城跡 99 横山城跡 (県指定文代財) 70 様甲城跡 101 雄甲城跡 102 勝根山城跡 103 須保木城跡 104 十九地山城跡 105 雌甲城跡 107 丸山城跡 108 長正寺遺跡 109 新日高城跡 110 高手山城跡 111 高縄城跡 111 腰折山城跡 114 新城山城跡 115 神途城跡 116 新高手山城跡 117 名石城跡 119 柴尾城跡 120 死ケ城跡 121 波妻城跡 122 小新城崇跡 123

#### 中島地区包蔵地

1	城の台砦跡	2	河野様積石遺構	3	野忽那立場墳墓群	4	丸山古墳	5	梅の子島砦跡	6	梅の子遺跡
7	梅の子本城跡	8	中島粟井坂遺跡	9	吉木遺跡	10	神浦神社遺跡	11	宮野神社遺跡	12	宮野権現山古墳
13	小長師古墳	14	大串遺跡	15	大浦油田遺跡	16	大浦さこの奥遺跡	17	泰山堂山遺跡	18	泰山城跡
19	むかい山遺跡	20	泊古墳跡	21	熊田城の山遺跡	22	大串古墳群	23	瀬木戸古墳	24	かがり山1号墳
25	かがり山2号墳	26	中山古墳	27	五本松遺跡	28	宮浦西遺跡	29	宮浦遺跡	30	竹の浦遺跡
31	竹の浦西遺跡	32	泊遺跡	33	二神家墓地遺跡	34	二神城の山砦跡	35	由利島遺跡	36	由利島大谷遺跡
37	由利島長者屋敷	遺跡	<b>T</b>	38	御場ヶ嶽城跡	39	長師遺跡	40	九多児城跡	41	本山城跡
42	竹の上城跡	43	黒岩城跡	44	高木佐渡守館跡	45	旗山城跡	46	泊城跡	47	能磯砦跡
48	元怒和寺の下遺	跡			【参	<b></b>	料 2000 『愛媛県埋流	號文	化財包蔵地一覧	長』	愛媛県教育委員会】

(1)

10	1次10十次 位	コリンエルスノ			見				(1)
No.	所 在 地	面積 (m²)	標高 (m)	包蔵地名	調査目的	調査	包含層・遺構	遺物	備考
1	内宮町	308, 80	60. 20	No.40	私	試掘			
2	岩崎町2丁目	511. 25	36. 60	包蔵地外	私	試掘	水田	須恵	
3	平井町	135. 09	78. 40	No.90	私	既済			H5-45 試掘済
4	山越1丁目	231. 41	17. 60	No.160	私	試掘			
5	東石井	5, 112. 28	23. 62	No.119	私	試掘	包含層・溝	弥生・須恵	
6	平井町甲546番1、546番2	53. 63	81. 20	No.90	公	試掘		***************************************	
7	東石井町	231. 73	25. 43	No.118	私	試掘			•
8	水泥町	354. 76	66. 50	No.142	私	試掘			
9	樽味4丁目12番27~11番1地先	158, 10	40. 07	No.81	公	試掘		100	
10	天山2丁目26番地先~ 福音寺町861番地2地先	294. 70	23. 60	No.112、115、117	公	試掘			
11	森松町	155. 98	34. 70	No.134	私	既済			H14-204 試掘済
12	朝美1丁目	501. 58	16.40	No.33	私	試掘			
13	道後北代	414.00	34. 40	No.55 • 56 • 57	私	試掘			H13-92 一部試掘
14	久米窪田町	158. 29	47.70	No.129	私	試掘	柱穴	土師	一部本格調査
15	北斎院町	183. 50	8. 01	No.29	私	既済			H14-285 試掘済
16	北梅本町甲2920番地先	7, 000. 00	128. 00	No.103	公	踏査			
17	北斎院町	500. 57	8. 01	No.29	私	既済			H14-285 試掘済
18	北斎院町	198. 36	8. 01	No.29	私	既済			H14-285 試掘済
19	北斎院町	190. 24	8. 01	No.29	私	既済			H14-285 試掘済
20	北斎院町	188, 75	8. 01	No.29	私	既済			H14-285 試掘済
21	宮西2丁目2番21	3, 124. 00	17. 40	包蔵地外	公	試掘			
22	南久米町	439. 49	39. 20	No.127	私	試掘		7.00	
23	枝松6丁目	347.00	27. 77	No.113	私	既済			H 7-76 試掘済
24	北梅本町2949番地先	4. 10	137. 00	No.103	公	試掘			
25	別府町	101. 38	(4.50)	No.30-1	私	既済		-1	H14-150 試掘済
26	北久米町	589. 82	(51. 19)	No.122	私	既済			H9-125 試掘済
27	樽味4丁目	1, 234. 00	39. 65	No.81	私	試掘	包含層・柱穴・土坑	土師・須恵	
28	高岡町、南吉田町	709. 02	4. 90	No.25	私	試掘			
29	古三津3丁目	165. 50	11. 75	No.19	私	既済			H6-67試掘済
30	平井町2180番地先	2, 000. 00	71.05	No.95	公	試掘			
31	南久米町	350. 14	37.80	No.127	私	試掘	柱穴・土坑	土師	
32	東石井町	254, 23	(22. 43)	No.119	私	既済			H8-77 試掘済
33	<b>久米窪田町</b>	219. 72	46. 20	No.129	私	既済		********	H14-246 試掘済
34	安城寺町	1, 056. 00	3. 30	No.173	私	試掘	包含層・柱穴	縄文	
35	清水町3丁目	511. 27	25. 10	No.67	私	試掘	包含層・竪穴住居	土師	
36	来住町	149. 76	(39. 02)	No.127	私	既済		- 111	H8-358 試掘済 来住町9・13次
37	来住町、南久米町	146. 12	(39. 02)	No.127	私	既済			H8-358 試掘済 来住町9・11次
38	北斎院町	182. 26	8. 01	No.29	私	既済	****	1000	H14-285 試掘済
39	水泥町464番1~ 南高井町173番2	17, 200. 00	50. 20	包蔵地外	公	試掘	柱穴・土坑	土師	水泥2・3次 高井遺跡
40	樽味4丁目	416. 83	41.30	No.81	私	試掘	柱穴・住居	土師・須恵	PHI / T AREPUT
41	北梅本町甲557番 外 北側	11, 174. 00	76. 00	包蔵地外	公	試掘	柱穴・土坑	土師・備前	南梅本長広1・2次 外2遺跡

(2)

衣 !	十八八十尺 位山	叫连戚人	. 10771		兄				
No.	所 在 地	面積 (m²)	標高 (m)	包蔵地名	調査目的	調査 方法	包含層・遺構	遺物	備考
41	南梅本町甲182番4 外 南側	2, 870. 00	76.00	包蔵地外	公	試掘			
42	今在家2丁目194-1、195-1 196-1、196-2、197	441.11	35. 00	No.125	公	試掘			
43	祝谷6丁目	349. 50	31.65	No.55 • 56 • 57	私	既済			H11-397 試掘済
44	松末2丁目	111.85	27. 70	No.114	私	既済			H8-403 試掘済
45	小坂4丁目	114. 30	24. 50	No.110	私	既済			H13-312 試掘済
46	桑原4丁目9番12~4一9地先	341.00	37. 00	No.85	公	試掘			
47	道後一万	339. 62	33. 30	No.68	私	試掘			
48	樽味4丁目180番地3外	6, 000. 00	45. 87	No.81	公	試掘	包含層・竪穴住居 土坑・柱穴	弥生・須恵 ・土師	樽味立添3次 外3遺跡
49	衣山2丁目	2, 575. 65	23. 90	No.20	私	試掘	包含層・土坑・柱穴	土師・須恵	
50	水泥町	58. 18	60.10	No.142	私	試掘			
51	愛光町	772. 93	14. 90	No.34	私	試掘			
52	鷹子町	271. 91	44. 69	No.129	私	試掘			
53	南江戸4丁目	809. 21	13. 01	No.35	私	試掘	包含層	土師	
54	山越3丁目	125. 62	20.80	No.168	私	試掘			
55	久米窪田町	114. 94	45. 43	No.129	私	既済			H13-272 試掘済
56	久米窪田町	180. 32	45, 43	No.129	私	既済			H13-272 試掘済
57	北斎院町	188. 27	7. 70	No.27	私	試掘			
58	久万ノ台	282. 62	19. 74	No.20	私	試掘			
59	東石井町	652. 29	21. 70	No.119	私	試掘			
60	道後北代	179. 38	32. 60	No.55 • 56 • 57	私	試掘			
61	南久米町	324. 37	37. 60	No.126	私	試掘			
62	北久米町	416. 11	34. 10	No.126	私	試掘			
63	道後湯之町875番9 外	800.00	39. 10	包蔵地外	公	試掘	包含層	弥生・土師 須恵・陶磁	道後湯之町遺跡
64	道後湯月町甲1656番1外	900.00	44. 35	包蔵地外	公	試掘	包含層・埋め甕	土師・瓦器	道後湯月町遺跡
65	北梅本町	243, 55	76. 10	No.107	私	試掘			
66	辻町	1, 236. 36	(14.70)	No.34	私	既済			H10-106 試掘済
67	北久米町	148. 91	32. 80	No.126	私	試掘			
68	北斎院町	192. 63	8. 01	No.29	私	既済			H14-285 試掘済
69	水泥町	181. 90	67. 50	No.142	私	既済			S62-0 試掘済
70	樽味4丁目	43. 98	38. 70	No.81	私	試掘			
71	平井町	136. 73	66. 80	No.90	私	試掘			
72	東野4丁目	137. 26	58. 85	No.79	私	試掘			
73	桑原4丁目	653. 62	39. 40	No.85	私	試掘	包含層・柱穴	弥生・土師 ・須恵	
74	別府町	115. 70	(4. 50)	No.30-1	私	既済			H14-150 試掘済
75	別府町	101.00	(4. 50)	No.30-1	私	既済			H14-150 試掘済
76	南梅本町	5, 127. 74	96. 57	No.107	私	試掘			
77	東本町1丁目	707. 54	34. 03	No.83	私	試掘	包含層・溝・柱穴	弥生	
78	南江戸5丁目	245. 35	(27. 92)	No.33	私	既済			H13-266 試掘済 辻遺跡5次
79	西石井5丁目	165. 18	20, 30	No.119	私	試掘			
80	南江戸5丁目	296. 34	13. 70	No.34	私	試掘	包含層・柱穴	土師・瓦器	
81	小坂4丁目	120. 05	24. 50	No.110	私	既済			H13-312 試掘済
82	鷹子町	440. 23	50. 25	No.129	私	試掘			
				-					

(3)

		- ·   · · / ->/ >	~ 10%		52				(3)
No.	所 在 地	面積 (㎡)	標高 (m)	包蔵地名	調査 目的	調査 方法	包含層・遺構	遺物	備考
83	南江戸5丁目	504. 24	13. 30	No.33	私	試掘			
84	福音寺町	132. 58	23. 40	No.112	私	試掘			
85	北斎院町	144. 11	7. 60	No.29	私	既済			H14-271 試掘済
86	枝松3丁目 外1か町	5, 600. 00	31. 20	No.83	公	試掘	包含層・竪穴住居 土坑・柱穴	弥生	枝松遺跡8~10次
87	平井町	498. 00	73. 30	No.90	私	試掘			
88	松末2丁目	119. 02	27. 10	No.114	私	試掘			
89	小坂3丁目	99. 13	26. 10	No.110	私	試掘			
90	久米窪田町	718. 70	43.70	No.128	私	既済			H5-89 試掘済
91	姫原2丁目	118. 13	20. 35	No.168	私	試掘			
92	清水町2丁目	57. 79	25. 30	No.67	私	試掘	包含層・柱穴	土師・須恵	
93	船ヶ谷237番1、3、238番6	162. 92		包蔵地外	公				申請取り下げ
94	土居町1083番2、1084番2、 1084-8	810.09	28. 50	包蔵地外	公	試掘			
95	衣山5丁目727番4	200.01		包蔵地外	公				申請取り下げ
96	平井町甲541番2	223. 20	81. 20	No.90	公	試掘			
97	来住町851番地 先	619.00	39. 50	No.127	公	試掘			
98	来住町	55. 95	40.60	No.127	私	試掘			
99	南久米町	132. 26	35. 10	No.126	私	試掘			
100	久万ノ台	10.98	24. 10	No.20	私	試掘			
101	鷹子町	225. 67	46. 70	No.129	私	既済			H14-153 試掘済
102	東石井町	234. 09	33. 10	No.118	私	試掘			
103	鷹子町	314. 18	43. 78	No.128	私	試掘			
104	南久米町	406. 79	40. 90	No.127	私	試掘			
105	姫原1丁目1681番1	316. 89	36. 38	No.45	公	試掘			
106	東方町	168, 33	60.30	No.143	私	既済			H14-281 試掘済
107	南久米町	944. 15	31. 40	No.126	私	試掘			
108	みどりヶ丘	1, 351. 98	7. 00	No.19	私	試掘			
109	朝美1丁目	639. 58	14. 70	No.34	私	試掘			
110	東石井町	418. 48	21.80	No.119	私	試掘			
111	南江戸2丁目	155. 27	15. 20	No.37	私	試掘			
112	朝美1丁目	212. 60	24. 00	No.33	私	試掘			
113	小坂4丁目	123. 21	24. 50	No.110	私	既済			H13-312 試掘済
114	山西町	178. 16	(13.00)	No.21	私	既済			H12-173 試掘済
115	来住町	366. 93	39. 80	No.127	私	試掘	包含層・溝	土師・須恵 ・石器	
116	東本1丁目	513. 36	34. 91	No.83	私	試掘	包含層・竪穴住居 溝・柱穴	弥生	束本遺跡7次
117	森松町	590. 69	34. 90	No.134	私	試掘	117 1±/\		
118	別府町	101.03	(4. 50)	No.30-1	私	既済			H14-150 試掘済
119	来住町	167.77	(39. 02)	No.127	私	既済			H8-358 試掘済 来住町9・11・13次
120	東垣生町	161. 67	4. 38	No.28	私	試掘			NET 101V
121	山越2丁目	175. 66	17. 50	No.160	私	試掘			
122	平井町	330. 59	59. 00	No.95	私	既済	74		H14-200 試掘済
123	安城寺町	597. 00	4. 12	No.173	私	試掘	包含層	縄文・石器	
124	今在家3丁目	579. 92	30. 70	No.125	私	既済			H13-267 試掘済

(4)

11	十八八十尺 石田				5-2				( ' /
No.	所 在 地	面積 (m²)	標高 (m)	包蔵地名	調査目的	調査	包含層・遺構	遺物	備考
125	松末2丁目	157. 76	(26.00)	No.114	私	既済			H9-327 試掘済
126	鷹ノ子町	297.01	58. 60	No.94	私	試掘			
127	北久米町	2, 806. 46	30. 30	No.124	私	試掘	包含層・溝 ・柱穴・土坑	弥生・土師	H8-158一部試掘済 北久米遺跡3次
128	東方町	168. 30	60. 30	No.143	私	既済			H14-281 試掘済
129	畑寺2丁目	337. 79	36. 17	No.85	私	試掘			
130	東野5丁目	322. 11	54. 67	No.79	私	試掘			
131	東野5丁目	237. 09	54. 67	No.79	私	試掘			
132	山越3丁目	172. 73	20. 80	No.168	私	試掘			
133	祝谷6丁目	137. 24	(57. 14)	No.55 • 56 • 57	私	既済			H11-397 試掘済
134	祝谷4丁目	116. 90	40. 92	No.55 • 56 • 57	私	既済			H14-113 試掘済
135	太山寺町	36.00	62. 77	No.10	私	試掘			
136	北久米町	840.60	31. 10	No.124	私	既済			H5-152 試掘済
137	畑寺3丁目	3, 072. 11	32. 42	No.85	私	試掘			
138	水泥町	116.89	63. 90	No.142	私	試掘			
139	北井門町	171. 25	24. 55	No.121	私	試掘			
140	桑原4丁目	260. 94	38. 20	No.85	私	既済			H14-241 試掘済
141	平井町	369. 75	72.69	No.90	私	試掘			
142	枝松6丁目	681.00	26. 20	No.113	私	試掘			
143	朝生田3丁目	170.72	18. 60	No.109	私	試掘			
144	太山寺町	9, 990. 29	30. 50	No.15	私	試掘			
145	東方町	166. 78	60.30	No.143	私	既済			H14-281 試掘済
146	北斎院町	136. 52	9. 50	No.29	私	試掘			
147	北井門町252番1~250番2地先	98. 40	24. 70	No.121	公	試掘			
148	東野5丁目711番5~ 713番7地先	25. 00	56. 45	No.79	公	試掘			
149	東石井町383番~440番地先	681. 26	29. 65	No.119	公	試掘			
150	祝谷2丁目	244. 30	42.83	No.55 • 56 • 57	私	試掘			
151	石風呂町	27, 376. 89	27. 50	No.11	私	既済			H5-47 試掘済
152	別府町	128. 49	35. 70	No.30-1	私	既済			H14-150 試掘済
153	小坂4丁目	155. 69	46. 70	No.110	私	既済			H13-312 試掘済
154	桑原4丁目	925. 79		No.85	私				未試掘
155	道後北代	207. 08	31.50	No.55 • 56 • 57	私	試掘			
156	水泥町	866. 00	63. 10	No.142	私	試掘			
157	北梅本町	1, 081. 18	8.00	No.107	私	試掘			
158	桑原2丁目	212. 52	47. 83	No.82	私	試掘			
159	北久米447番4~5番地先	26. 70	(35, 38)	No.126	公	試掘			
160	福角町	10, 867. 11	23. 90	No.38	私	既済			S57-12 試掘済 北谷王神ノ木古墳
161	桑原5丁目	331.06	34. 80	No.82	私	試掘			
162	東石井町	264. 77	25. 00	No.118	私	既済			H12-150 試掘済
163	山越1丁目	501. 12	18. 10	No.160	私	試掘			
164	船ヶ谷町	498. 73	14. 90	No.17	私	試掘			
165	1 北斎院町	155, 10	9. 25	No.156	私	試掘			
166	5 山越1丁目	495. 88	18. 40	No.160	私	試掘			

(5)

10	一一一个八八十岁 位正	コリン土所な。	~ IU XI	唯心问且	見				(3)
No.	所 在 地	面積 (㎡)	標高 (m)	包蔵地名	調査目的	調査	包含層・遺構	遺物	備考
167	清水町2丁目	129. 63	23. 61	No.67	私	試掘			
168	古三津5丁目	417. 93	3. 20	No.21	私	試掘			
169	桑原4丁目	177. 39	41.10	No.85	私	試掘			
170	中村2丁目	999. 17	27. 70	No.161	私	試掘			
171	西石井6丁目	127. 64	21.10	No.119	私	試掘			
172	南久米町	430. 32	36. 90	No.126	私	試掘			
173	今在家3丁目	273. 83	31. 10	No.125	私	試掘			
174	姫原2丁目	2, 998. 81	(19.00)	No.168	私	既済			H14-297 試掘済
175	北斎院町	996. 41	9. 10	No.156	私	試掘			
176	桑原2丁目	754. 38	37. 10	No.82	私	試掘			
177	桑原2丁目	411.73	37. 10	No.82	私	試掘			
178	平井町	395. 58	67. 17	No.152	私	試掘			
179	道後北代	300. 82	32. 60	No.55 • 56 • 57	私	試掘			
180	今在家2丁目	212. 97	31. 16	No.125	私	試掘			
181	鷹子町	165. 50	44. 55	No.129	私	試掘			
182	北久米町447番3地先	210.00	35. 30	No.126	公	試掘			
183	中村3丁目	717. 00	25. 53	No.110	私	試掘	溝	弥生	
184	西石井2丁目	992. 38	20.00	No.119	私	既済			H13-309 試掘済
185	北斎院町	116. 40	10. 25	No.31	私	既済			H13-253 試掘済
186	南久米町、来住町	349.00	38. 99	No.127	私	試掘	包含層・竪穴住居 溝・柱穴	土師・須恵	
187	北久米町	143. 29	(34. 15)	No.126	私	既済			H14-284 試掘済
188	樽味2丁目	207. 46	42.71	No.81	私	試掘			
189	東野5丁目	392.00	62. 85	No.79	私	試掘			
190	道後鷺谷町、祝谷1丁目	3, 638. 68	57. 58	No.53	私	試掘	包含層・柱穴	弥生・須恵	
191	別府町	291. 19	13. 01	No.30 — 2	私	試掘			
192	久米窪田町	999. 50	44. 70	No.131	私	既済			H14-243 試掘済
193	平井町	393, 33	68. 32	No.90	私	試掘			
194	桑原6丁目	1, 142. 00	34. 60	No.83	私	試掘			
195	緑町2丁目	111. 07	28. 25	No.69	私	試掘			
196	別府町	220. 05	(4.50)	No.30 — 1	私	既済			H14-150 試掘済
197	太山寺町	300.00	3. 40	No.173	私	試掘			
198	窪野町	290.00	143. 00	包蔵地外	私	踏查			
199	平井町	207. 96	72. 29	No.90	私	試掘			
200	天山3丁目	628. 22	21. 90	No.112	私	試掘			
201	鷹子町	125. 47	57. 20	No.152	私	既済			H元-135 試掘済
202	<b>久米窪田町</b>	236. 36	47. 50	No.131	私	試掘			
203	山越1丁目	530. 54	17. 10	No.160	私	試掘			
204	樽味4丁目	1, 071. 00	39. 00	No.81	私	試掘	竪穴住居・柱穴・土坑	弥生・土師 ・須恵	樽味高木10・12次
205	東本1丁目	424. 79	34. 08	No.83	私	試掘			
206	南江戸6丁目	1, 324. 17	19. 18	No.32	私	試掘			
207	桑原5丁目	460. 78	33. 60	No.82	私	試掘			
208	来住町	237. 18	42. 30	No.127 · 128	私	試掘		***************************************	

- (	c	١
(	U	1

210 福 211 平 212 愛 213 桑 214 山山 215 南 216 桑 217 北 218 祝 219 来 220 南 221 平 222 愛	所 在 地  岡町 音寺町 井町 光町 原5丁目 越2丁目 江戸4丁目1番1の一部 原6丁目 斎院町 谷5丁目 ・住町1139番1地先 江戸3丁目 ・井町 ・光町 ・吹4丁目180番地2、3の 各一部	面積 (㎡) 186. 94 112. 80 194. 76 141. 59 321. 25 970. 59 50. 00 132. 25 132. 23 101. 61 7. 80 709. 35 435. 32	25. 16 69. 51 15. 10 36. 36 17. 23 12. 10 (33. 80) 7. 60 42. 89 36. 00 12. 30	No.90 No.34 No.82 No.160 No.35 No.83 No.29 No.55 · 56 · 57	調目 私 私 私 私 私 私 私 私 公 私 私 公	調方試試既既試起既既與此就既既與此	包含層・遺構	遺物	備考 H14-379 試掘済 H10-233 試掘済 H14-66 試掘済
210 福音 211 平 212 愛 213 桑 214 山山 215 南 216 桑 217 北 218 祝 219 来 220 南 221 平 222 愛	音寺町 井町 光町 原5丁目 越2丁目 江戸4丁目1番1の一部 原6丁目 斎院町 谷5丁目 住町1139番1 地先 江戸3丁目 井町 光町	112. 80 194. 76 141. 59 321. 25 970. 59 50. 00 132. 25 132. 23 101. 61 7. 80 709. 35 435. 32	25. 16 69. 51 15. 10 36. 36 17. 23 12. 10 (33. 80) 7. 60 42. 89 36. 00 12. 30	No.116 No.90 No.34 No.82 No.160 No.35 No.83 No.29 No.55 · 56 · 57	私 私 私 私 私 私 私 私	<ul><li>試据</li><li>試据</li><li>既済</li><li>試据</li><li>試据</li><li>既済</li><li>既済</li></ul>			H10-233 試掘済
211 平元 212 愛之 213 桑加 214 山地 215 南部 216 桑加 217 北。 218 祝。 219 来。 220 南部 221 平。	井町 光町 原5丁目 越2丁目 江戸4丁目1番1の一部 原6丁目 斎院町 冷5丁目 注印1139番1 地先 i江戸3丁目 - 井町 :光町 「味4丁目180番地2、3の	194. 76 141. 59 321. 25 970. 59 50. 00 132. 25 132. 23 101. 61 7. 80 709. 35 435. 32	69. 51 15. 10 36. 36 17. 23 12. 10 (33. 80) 7. 60 42. 89 36. 00 12. 30	No.90 No.34 No.82 No.160 No.35 No.83 No.29 No.55 · 56 · 57	私 私 私 私 私 私 私 私	試掘 既済 試掘 試掘 既済 既済			H10-233 試掘済
212 愛之 213 桑加 214 山山 215 南河 216 桑加 217 北 218 祝 219 来 220 南 221 平 222 愛	光町 原5丁目 越2丁目 江戸4丁目1番1の一部 原6丁目 斎院町 谷5丁目 住町1139番1 地先 江戸3丁目 井町 光町 「米町	141. 59 321. 25 970. 59 50. 00 132. 25 132. 23 101. 61 7. 80 709. 35 435. 32	15. 10 36. 36 17. 23 12. 10 (33. 80) 7. 60 42. 89 36. 00 12. 30	No.34 No.82 No.160 No.35 No.83 No.29 No.55 · 56 · 57	私私公私私	<ul><li>既済</li><li>試掘</li><li>試掘</li><li>既済</li><li>既済</li></ul>			H10-233 試掘済
213 桑J 214 山地 215 南部 216 桑J 217 北 218 祝 219 来 220 南部 221 平 222 愛	原5丁目 越2丁目 江戸4丁目1番1の一部 原6丁目 斎院町 公5丁目 注印1139番1 地先 江戸3丁目 井町 光光町	321. 25 970. 59 50. 00 132. 25 132. 23 101. 61 7. 80 709. 35 435. 32	36. 36 17. 23 12. 10 (33. 80) 7. 60 42. 89 36. 00 12. 30	No.82 No.160 No.35 No.83 No.29 No.55 · 56 · 57 包藏地外	私 私 公 私 私	試掘 試掘 試掘 既済			H10-233 試掘済
214 山地 215 南; 216 桑 217 北; 218 祝; 219 来; 220 南; 221 平; 222 愛	越2丁目 「江戸4丁目1番1の一部 「原6丁目 「斎院町 「谷5丁目 「住町1139番1 地先 「江戸3丁目 「井町 「光町	970. 59 50. 00 132. 25 132. 23 101. 61 7. 80 709. 35 435. 32	17. 23 12. 10 (33. 80) 7. 60 42. 89 36. 00 12. 30	No.160 No.35 No.83 No.29 No.55・56・57 包蔵地外	私 公 私 私	試掘 試掘 既済 既済			
215 南i 216 桑 217 北: 218 祝: 219 来: 220 南: 221 平: 222 愛	江戸4丁目1番1の一部 原6丁目 斎院町 浴5丁目 注印1139番1地先 近戸3丁目 共町 送光町 近珠4丁目180番地2、3の	50. 00 132. 25 132. 23 101. 61 7. 80 709. 35 435. 32	12. 10 (33. 80) 7. 60 42. 89 36. 00 12. 30	No.35 No.83 No.29 No.55・56・57 包蔵地外	公 私 私	試掘 既済 既済			
216 桑 217 北: 218 祝: 219 来: 220 南: 221 平: 222 愛	原6丁目 斎院町 谷5丁目 :住町1139番1地先  江戸3丁目 :井町 :光町 「味4丁目180番地2、3の	132. 25 132. 23 101. 61 7. 80 709. 35 435. 32	(33. 80) 7. 60 42. 89 36. 00 12. 30	No.83 No.29 No.55・56・57 包蔵地外	私 私 私	既済			
217 北 218 祝 219 来 220 南 221 平 222 愛	斎院町 谷5丁目 住町1139番1地先 江戸3丁目 共町 光町 球4丁目180番地2、3の	132. 23 101. 61 7. 80 709. 35 435. 32	7. 60 42. 89 36. 00 12. 30	No.29 No.55・56・57 包蔵地外	私私	既済			
218 祝 219 来 220 南 221 平 222 愛	谷5丁目   住町1139番1地先   江戸3丁目   井町   光町   味4丁目180番地2、3の	101. 61 7. 80 709. 35 435. 32	42. 89 36. 00 12. 30	No.55・56・57 包蔵地外	私	-		ļ	LI14_66 對協攻
219 来 220 南 221 平 222 愛	注 注 注 注 注 注 注 形 で は と 注 形 で は に に に に に に に に に に に に に	7. 80 709. 35 435. 32	36. 00 12. 30	包蔵地外		試掘			
220 南 221 平 222 愛	江戸3丁目 :井町 :光町 「味4丁目180番地2、3の	709. 35 435. 32	12. 30		か				
221 平	光町 「味4丁目180番地2、3の	435. 32				試掘	包含層	土師・須恵	
222 愛	:光町 i味4丁目180番地2、3の		ı	No.35	私	既済		114 · · · ·	H9-97 試掘済
抽	1味4丁目180番地2、3の	004 10	65. 86	No.90	私	試掘	, HI		
223 樽		264. 18	14. 90	No.34	私	既済			H15-51 試掘済
	11 一印	9. 90	(41. 27)	No.81	公	既済			H15-40 試掘済
224 桑	原2丁目	337. 85	38. 92	No.82	私	試掘			
225 朝	美1丁目	264. 27	14. 20	No.34	私	試掘			
226 山	」越3丁目	645. 97	21. 79	No.168	私	試掘			
227 平	产井町2173番地先	2,500.00	19. 80	No.95	公	踏査			
228 北	<b>上斎院町</b>	136. 45	14. 98	No.31 • 156	私	試掘			
229 東	[本1丁目	165. 30	34. 91	No.83	私	既済			H15-116 試掘済
230 南	<b>万</b> 久米町	1, 101. 32	36. 90	No.127	私	試掘			
231 北	<b>上梅本町1653-1地先</b> 外	2, 505. 00	99. 18	包蔵地外	公	試掘			
232 南	5人米町、来住町	314. 65	38. 99	No.127	私	既済			H15-186 試掘済
233 天	三山1丁目	297. 53	21. 10	No.112	私	試掘			
234 道	1後樋又	119.00	27. 95	No.67	私	試掘			
235 小	、坂4丁目	113. 55	24. 50	No.110	私	既済			H13-312 試掘済
236 来	天住町230番3~226番地先	96. 00	42. 10	No.128	公	試掘			
237 山	」越2丁目	3. 00	17.70	No.160	私	試掘			
238 平	Z井町	245. 03	66.80	No.90	私	試掘			
239 北	比斎院町	132. 00	9. 54	No.157	私	試掘			
240 別	川府町	165. 29	(4. 50)	No.30-①	私	既済			H14-150 試掘済
241 祝	兄谷2丁目	108. 32	35. 20	No.55 • 56 • 57	私	試掘			
242 南	有久米町763番地4、5	20. 10	38. 40	No.127	公	試掘			
243 道	道後一万	114. 03	(31. 44)	No.68	私	既済			H7-2 試掘済
	山西町	194. 66	(14. 09)	No.21	私	既済			H12-379 試掘済
245 倖	有久米町183番、 184番、187番、188番	107.00	36. 15	No.126	公	試掘			
246 南	有久米町563番2	78. 00	32.30	No.126	公	試掘			
247 愛	<b></b>	132. 18	15. 10	No.34	私	既済			H14-379 試掘済
248 道	道後緑台	440. 61	37. 37	No.55 • 56 • 57	私	試掘			
249 Ц	山越 2 丁目	89. 50	17. 30	No.160	私	試掘			
250 水	<b>大泥町</b>	213. 13	49.40	No.131	私	試掘			

(7)

	177712  2				عر				(1)
No.	所 在 地	面積 (m²)	標高 (m)	包蔵地名	調査目的	調査 方法	包含層・遺構	遺物	備考
251	鷹子町1020番12地先	1, 100. 00	66. 40	No.91 • 92 • 93	公	試掘			
252	桑原4丁目	1, 471. 71	37. 50	No.82	私	試掘			
253	北久米町	1, 207. 75	30. 30	No.124	私	既済			H15-127・H8-158 試掘済
254	朝生田町3丁目	89. 85	19. 40	No.109	私	試掘			P 48MVI
255	朝日ヶ丘2丁目	409. 65	(33.00)	No.33	私	既済			H14-355 試掘済
256	北井門町	167. 85	23. 50	No.121	私	試掘			
257	桑原6丁目	124. 15	34. 93	No.83	私	試掘			****
258	東野5丁目	136. 12	64. 50	No.79	私	試掘			
259	北久米町	670.00	29. 90	No.124	私	試掘		***	
260	北久米町	271.00	31. 90	No.126	私	試掘			
261	道後喜多町	396. 76	34. 40	No.68	私	試掘			
262	枝松6丁目52番~53番地先	33. 80	27. 70	No.113	公	試掘			100
263	樽味4丁目	1,071.00	39.00	No.81	私	既済			H15-204 試掘済
264	東方町	62.46	57. 50	No.143	私	試掘			
265	南久米町・来住町	962, 00	36. 90	No.127	私	既済			H14-321 試掘済
266	北井門町	171. 41	23. 30	No.121	私	試掘			
267	桑原2丁目	131. 28	38. 92	No.82	私	既済			H15-224 試掘済
268	桜ヶ丘	217. 20	60. 40	No.17	私	踏査			
269	福音寺町733番地先~ 北久米町704番地先迄	200.00	31.60	No.124	公	試掘			
270	高砂町2丁目	65. 52	21.80	No.67	私	試掘			
271	束本1丁目	258. 17	34. 75	No.83	私	既済			H11-161 試掘済
272	石風呂町	419. 73	2. 60	No.11	私	試掘			
273	平井町	236. 96	42.80	No.131	私	試掘			
274	桑原4丁目408番、409番の一部	1, 150. 97	39. 00	No.85 • 84	公	試掘			
275	南久米町	187. 51	41. 30	No.127	私	試掘			
276	恵原町	1, 195. 00	120.00	No.140	私	踏査			
277	来住町	998. 37	(37. 43)	No.127	私	既済			久米高畑57次
278	平井町	106. 18	78. 40	No.90	私	既済			H5-45 試掘済
279	衣山5丁目	2, 458. 53	(27. 70)	No.30-2	私	踏査			
280	今在家1丁目	165. 49	30. 30	No.125	私	試掘		77	
281	桑原町字一里木	263. 79	36. 13	No.82	私	試掘			
282	枝松6丁目	2, 594. 00	26. 70	No.114	私	試掘		****	
283	平井町	48. 00	(72. 80)	No.90	私	既済			H10-386 試掘済
284	祝谷5丁目	638.00	45. 80	No.55 • 56 • 57	私	試掘			
285	桑原4丁目3番17~2番13地先	13.00	38. 45	No.85	公	試掘			
286	久米窪田町	1, 322. 82	44. 30	No.128	私	試掘			
287	小坂2丁目	151.69	28. 50	No.110	私	試掘			
288	中村3丁目	717.00	25, 53	No.110	私	既済			H15-183 試掘済
289	桑原6丁目	210. 02	(33. 80)	No.83	私	既済			H10-234 試掘済
290	辻町	173. 23	(13. 70)	No.34	私	既済			H14-356 試掘済
291	森松町	254. 00	34. 40	No.134	私	試掘			
292	鉄砲町	88. 09	25. 10	No.67	私	試掘			

(8)

12		面積	標高		調査	調査	力 A 同 、 事 排	遺物	備考
No.	所 在 地	(m²)	(m)	包蔵地名 	目的	方法	包含層・遺構	退物	加布
293	立花6丁目	568. 77	20.50	No.109	私	試掘		埴輪・土師	
294	東野4丁目	5, 882. 00	67. 71	No.79	私	試掘	溝	・須恵	東野お茶屋台6次
295	平井町	582. 72	58. 90	No.152	私	試掘			
296	西石井5丁目	556.00	20.40	包蔵地外	私	試掘	包含層	弥生・須恵	
297	西石井5丁目	855. 00	20. 20	包蔵地外	私	試掘	包含層	弥生・須恵	
298	南斎院町	142. 81	7. 90	No.27	私	試掘	A CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR		
299	平井町2360番~2480番地先迄	732. 00	61.74	No.152	公	試掘			
300	天山1丁目	139. 62	21.20	No.117	私	試掘			
301	北斎院町	150. 08	9. 90	No.156	私	試掘			H12-173·-379
302	山西町	156. 40	(13.55)	No.21	私	既済			計2-173・-379 試掘済
303	南江戸3丁目	1, 917. 00	13. 40	No.37	私	試掘			
304	道後今市	182. 18	32. 70	No.68	私	試掘			
305	別府町	101. 13	(4.50)	No.30-1	私	既済			H14-150 試掘済
306	北斎院町	157. 60	8. 00	No.27	私	試掘			
307	祝谷2丁目	159. 66	(47. 54)	No.55 • 56 • 57	私	既済			H10-105・-205 試掘済
308	東石井5丁目	128. 39	22. 00	No.119	私	試掘			
309	道後一万	174. 98	32. 00	No.68	私	試掘			
310	枝松6丁目	317.00	24. 73	No.113	私	試掘	溝・柱穴	須恵	
311	辻町	91.57	14. 10	No.34	私	試掘			
312	姫原2丁目	200. 79	20.70	No.168	私	試掘			
313	桑原6丁目	181. 41	33. 84	No.83	私	既済			H10-234 試掘済
314	水泥町	911. 65	64. 10	No.142	私	試掘			105 114 000
315	祝谷2丁目	7, 002. 43	(44, 25)	No.55 • 56 • 57	私	既済			H13-185 H14-262 試掘済
316	清水町2丁目	113. 36	23. 50	No.67	私	試掘			
317	道後北代	157. 18	32. 50	No.68	私	既済			H12-308 試掘済
318	北斎院町	1, 144. 00	7, 60	No.29	私	試掘			
319	<b>人米窪田町</b>	329. 20	46. 60	No.131	私	試掘			
320	溝辺町 二	231.84	112. 47	No.75	私	試掘			
321	南土居町	23. 94	39. 10	No.132	私	試掘			
322	南久米	391.07	42.40	No.127	私	試掘			
323	福音寺町	250. 75	23. 10	No.112	私	試掘			H15-284
324	4 祝谷5丁目	761. 23	46.60	No.55 • 56 • 57	私	試掘			一部試掘済
32	6 姫原1丁目	405.04	45. 21	No.45	私	試掘			The same ship is
320	5 東垣生町	231. 43	4. 40		私	既済			H11-101 試掘済
32	7 平井町	165. 30		No.95	私	既済			H14-200 試掘済
32	8 古三津3丁目	4, 071. 77		) No.19	私	既済			H13-162 試掘済
32		414. 46	80. 59	<u> </u>	私	試掘			
33	元辰旭小跆_	30.00	20.60		公	試掘			
33	1 鷹子町	3, 062. 47	45. 21		私	-			文 品 生産 301_939
33	2 水泥町	17. 95	57.00		私				S63-106 試掘済
33	3 北斎院町	121.64	8.00		私	_			H12-375 試掘済
33	4 福音寺町	123, 25	23.70	No.112	私	既済			H5-41 試掘済

(9)

No.	所 在 地	面積 (㎡)	標高 (m)	包蔵地名	調査 目的	調査 方法	包含層・遺構	遺物	備考
335	水泥町	199. 97	55. 30	No.142	私	試掘	:		
336	小坂5丁目	89. 46	24. 20	No.111	私	試掘			
337	東本1丁目	330. 90	34. 20	No.38	私	試掘	包含層・竪穴住居	弥生	
338	南久米町	201. 05	34. 60	No.127	私	試掘			
339	鷹子町	1, 316. 15	43.00	No.128	私	試掘			
340	平井町	848. 83	66. 28	No.152	私	試掘		***************************************	
341	鷹子町	357. 40	50.00	No.129	私	試掘			
342	鷹子町	834. 64	42. 79	No.128	私	試掘			
343	平井町	639.46	66. 28	No.152	私	試掘		***	

表 2	2 平成16年度 松山	」市埋蔵	文化財	確認調査-	- 覧				(1)
No.	所 在 地	面積 (m²)	標高 (m)	包蔵地名	調査目的	調査	包含層・遺構	遺物	備考
1	北斎院町	2, 268. 14	7. 74	No.29	私	試掘			
2	枝松 3 丁目	126. 68	33. 60	No.83	私	試掘		弥生	
3	枝松3丁目	221. 64	33. 74	No.83	私	試掘			
4	南江戸1丁目	603. 86	14. 40	No.34	私	試掘			
5	みどりヶ丘	146. 79		No.19	私	既済		71	H15-108 試掘済
6	平井町	325. 51	77. 00	No.90	私	試掘			
7	道後緑台	183. 41	34. 00	No.55 • 56 • 57	私	試掘			
8	上野町	191. 71	62. 40	No.135	私	試掘			
9	樽味2丁目	994. 00	(42. 30)	No.81	私	試掘	溝・土坑・柱穴	弥生	
10	桑原5丁目	245. 02		No.82	私	既済			H15-207 試掘済
11	祝谷6丁目	170. 17	53. 44	No.55 • 56 • 57	私	試掘			
12	東野1丁目51-1・3の一部	10.00	46.70	包蔵地外	公	試掘			
13	山越1丁目	210. 01	19. 50	No.160	私	試掘			
14	小坂4丁目	198. 34	24. 56	No.111	私	試掘			
15	安城寺町	123. 51	3. 60	No.12	私	試掘			
16	北久米町	3, 025. 00	(33. 94)	No.126	私	試掘	溝・土坑・柱穴	中世陶器	
17	北斎院町	888.00	7. 60	No.29	私	試掘		***************************************	
18	久万ノ台	1, 201. 00	(17. 84)	No.18	私	試掘			
19	別府町	168. 73		No.30-(1)	私	既済			H14-150 試掘済
	若草町6-1	2, 289. 60	(21.60)	包蔵地外	公	試掘	溝・包含層	弥生・土師 ・須恵	
	南久米町甲2-2の一部・ 2-3の一部・2-4の一部	33. 40	49. 80	No.91	公	試掘	*	2.1.	
22	南久米町	171. 91		No.127	私	既済			H15-31 試掘済
23	東野3丁目	8, 777. 70	(95. 50)	No.78	私	試掘	石室・周溝	須恵	東野古墳群
24	平井町	156. 19	59.80	No.95	私	試掘			
25	樽味4丁目	120. 30	42. 50	No.81	私	試掘	竪穴住居	弥生・土師	
26	北久米町477番地先~ 489番地先	約350	33. 10	No.126	公	試掘			
27	南江戸2丁目	968, 20	(13. 44)	No.37	私	試掘			
28	今在家2丁目	116. 47		No.125	私	既済			H7-30 試掘済
29	御幸2丁目	65. 70	22.00	No.46	私	試掘			
30	鷹子町	2, 836. 77		No.129	私	既済			H15-331 試掘済
31	山越2丁目	142. 12	18. 00	No.160	私	試掘			

(2)

12 2	一人以10十尺 日日	113-11-11-11-11-11-11-11-11-11-11-11-11-		·	JU I ama → I	-iz-1		T	
No.	所 在 地	面積 (m²)	標高 (m)	包蔵地名	調査 目的	調査 方法	包含層・遺構	遺物	備考
32	小坂4丁目	122. 15	25. 40	No.110	私	試掘			
33	北斎院町	224. 96	8. 70	No.29	私	試掘			
34	山西町	188. 44	3. 04	No.22	私	試掘			
35	平井町甲	805. 91	70. 20	No.90	私	試掘			
36	山西町	1, 553. 00	(2.83)	No.22	私	試掘			
37	久万ノ台	1, 597. 00	9. 42	No.18	私	試掘			
38	北井門町	2, 506. 96	(22. 96)	No.121	私	試掘	Apr		
39	南江戸3丁目	289. 00	13. 30	No.35	私	試掘			
40	南江戸2丁目	998. 53	13.62	No.37	私	試掘			
41	道後縁台	78. 81	35. 90	No.55, 56, 57	私	試掘			
	朝生田町2丁目	126. 24	18. 40	No.109	私	試掘			
43	祝谷2丁目2番地先~ 3番地先	219. 70	(47. 33)	No.55 • 56 • 57	公	試掘			
44	福音寺町	3, 419. 00	(23. 09)	No.116	私	試掘			
45	衣山2丁目	344. 88	29. 90	No.20	私	試掘			
46	平井町	420.00	(65. 03)	No.152	私	試掘			
47	鷹子町	320.00	(60.65)	No.94	私	試掘			
48	平井町明神ヶ鼻池	189. 00	98, 50	包蔵地外	公	踏査			
49	姫原1丁目	437. 43	22. 90	No.168	私	試掘			
50	北斎院町	401.06	7. 70	No.29	私	試掘			
51	別府町	273. 34		No.30-2	私	既済			H11-378 試掘済
52	別府町	125. 62		No.30-1	私	既済			H14-150 試掘済
53	東方町	421.97		No.143	私				申請取下げ
54	天山1丁目	509. 23	20.80	No.117	私	試掘			
55	拓川町	2, 543. 99	(19.94)	No.109	私	試掘			
56	西野町甲144-5、145	468. 52	61.90	包蔵地外	公	試掘			
57	北斎院町1004-3・1004-3地先	4. 30	8. 00	No.29	公	試掘			
58	清水町1丁目	156. 66	(24. 47)	No.67	私	試掘		弥生・須恵	
59	山越1丁目	625. 07	(18.00)	No.160	私	試掘			
60	道後緑台	430. 17	34. 50	No.55 • 56 • 57	私	試掘			H13-94 一部試掘済
61	道後緑台	741.04	34. 50	No.55 • 56 • 57	私	試掘			
62	北梅本町	232. 20	77. 20	No.107	私	試掘			
63	北斎院町	268. 40	7. 40	No.26	私	試掘			
64	来住町864-2・864-2地先	5. 80	37. 53	No.127	公	立会			
65	樽味4丁目	693. 00	38. 80	No.81	私	試掘	竪穴住居	弥生·須恵·土師質 中世陶器	
66	今在家1丁目	699. 4 の一音		0 No.125	私	試掘			
67	今在家1丁目	699.4	1 30.2	0 No.125	私	試掘			
68		676. 71		No.48	私	踏査			
69		238.00		No.55 • 56 • 57	私	試掘			
70		937. 80	+	No.82	私	試掘			
71		323. 63		No.134	私	試掘			
72		3, 988. 00			公	踏査			
73		4, 646. 40	+	No.30-2	私	+	<del> </del>		H14-378 試掘済

(3)

10.	2 一人以10十段 位日			唯認調宜一	見				(3)
No.	所 在 地	面積 (㎡)	標高 (m)	包蔵地名	調査目的		包含層・遺構	遺物	備考
74	山西町	2, 281. 84		No.30-2	私	既済			H14-378 試掘済
75	福角町	28. 35		No.38	私	既済			本格調査済
76	姫原1丁目	54. 19	28. 08	No.168	私	試掘	柱穴	弥生	北谷王神ノ木古墳
77	道後北代	216, 57	33. 70	No.55 • 56 • 57	私	試掘			
78	北斎院町	148. 85		No.29	私	既済			H16-50 試掘済
79	北久米町683~700-1、 886~893-3地先	147. 60	(32. 02)	No.124	公	試掘			
80	南久米792-2地先外	94. 60	(35. 57)	No.126	公	立会			
81	東野1丁目甲53 外	3, 000. 00	(43. 14)	No.81、包蔵地外	公	試掘	竪穴住居・土坑・柱穴	弥生・土師 ・須恵	樽味高木11次 外 4遺跡
82	古三津3丁目	175. 69	9. 10	No.19	私	試掘		<u> </u>	ノド 任夏功
83	枝松6丁目	169. 30	27. 00	No.113	私	既済		_	H15-142 試掘済
84	山越3丁目	150.86	19. 40	No.168	私	試掘		····	
85	小坂2丁目	991. 72	(29. 17)	No.110	私	試掘	包含層	弥生・土師	
86	清水町2丁目	113. 36		No.56	私	既済			H15-316 試掘済
87	束本1丁目	165. 30		No.83	私	既済			H15-116 試掘済
88	桑原5丁目	169.89		No.82	私	既済			H15-207 試掘済
89	道後湯月町162-3地先~ 1634-2地先	99.00	33. 50	No.58	公	試掘			
90	祝谷2丁目	678. 81	49.80	No.55 • 56 • 57	私	試掘		1	
91	道後北代	291. 28		No.55 • 56 • 57	私	既済			H15-179 試掘済
92	南白水1丁目	225. 17		No.52	私	既済			H5-26 本格調查済 瀬戸風峠遺跡
93	水泥町	592. 00	60. 20	No.142	私	試掘			(A)
94	祝谷5丁目	120.00	59. 80	No.55 • 56 • 57	私	試掘		· ·	
95	清水町3丁目	511. 27	25. 10	No.67	私	試掘			
96	拓川町	1, 270. 29		No.109	私	既済			H16-55 試掘済
97	拓川町	1, 273. 70		No.109	私	既済			H16-55 試掘済
98	樽味4丁目	382. 57		No.81	私	既済			H15-40 試掘済
99	道後緑台	6. 45		No.55 • 56 • 57	私	既済			H16-61 試掘済
	北久米町	404.00	33. 50	No.126	私	試掘			
101	桑原5丁目	109. 02	36. 80	No.82	私	試掘			
102	祝谷2丁目	166. 98		No.55 • 56 • 57	私	既済			H9-189 試掘済
103	山越2丁目	179, 55	17. 60	No.160	私	試掘			
104	山越1丁目	85. 22	18, 90	No.160	私	試掘			
	祝谷2丁目	259. 37		No.55 • 56 • 57	私	既済			H8-283 試掘済
	北斎院町	148. 83		No.31 • 156	私	既済			宅地県試掘済
	北久米町	379. 67	33. 50	No.126	私	試掘			
	北梅本町	232. 20		No.107	私	既済			H16-62 試掘済
	山越1丁目	85. 22		No.160	私	既済			H16-104 試掘済
	東石井2丁目	200. 22	26. 20	No.118	私	試掘			
	青葉台	192. 62			私	既済			H2-14 調査済 野津子山遺跡
112	祝谷5丁目	153. 49	45. 90	No.55 • 56 • 57	私	試掘			
113	東石井2丁目	180. 46	1	No.118	私	既済			S53~54年度 東山鳶ヶ森古墳群
114	南江戸5丁目	55. 45	21.35	Vo.33	私	試掘			2011年10以7 2011日代刊
115	<b></b> 有久米677-3 外	166. 60	(40. 98) I	√o.127	公	試掘			

(4)

表 2	平成10年度 松山	中埋限/	(10別1	唯祁调宜—	見				(4)
No.	所 在 地	面積 (㎡)	標高 (m)	包蔵地名	調査 目的	調査 方法	包含層・遺構	遺物	備考
116	西石井6丁目	682. 22		No.119	私	試掘			
117	北斎院町	185. 74		No.29	私	既済			H16-1 試掘済
118	北斎院町	216. 66		No.29	私	既済			H16-1 試掘済
119	北斎院町	179. 16		No.29	私	既済			H16-1 試掘済
120	北斎院町	180, 15		No.29	私	既済			H16-1 試掘済
121	<b>辻町</b>	324. 69	15. 40	No.34	私	試掘			
122	水泥町	148. 33	63. 20	No.142	私	試掘			
123	山越1丁目	210.01		No.160	私	既済			H16-13 試掘済
124	来住町593・594 西農道	28.00		No.127	公	立会			
125	来住町582-2・593	66.00		No.127	公	立会			
126	鷹子町	1, 790. 21		No.129	私	既済			H15-331 試掘済
127	南江戸3丁目	772. 00	14. 40	No.35	私	試掘			
128	吉藤4丁目甲	2, 333. 00	(17.60)	No.41	私	試掘	柱穴	弥生	
129	樽味2丁目	1, 084. 50		No.81	私	既済			H16-9 試掘済
130	久米窪田町	723. 00	44. 30	No.131	私	試掘			
131	平井町明神ヶ鼻池北側山林	50.00	101. 30	No.106	私	踏査			
132	北斎院町	134. 50	9. 20	No.29	私	試掘			
133	樽味2丁目	295.14	42. 80	No.81	私	試掘			
134	西石井1丁目	330.39	20. 50	No.119	私	試掘			
135	石風呂町	65.00	13. 70	No.11	私	試掘			
136	東石井2丁目	984. 01	22. 60	No.118	私	試掘	溝	土師	東石井遺跡2次
137	丸ノ内 外	1, 934. 40	(50.03)	No.74	公	試掘	石積遺構	瓦	
138	水泥町	181. 95	49.30	No.131	私	試掘			
139	山越1丁目	404.06	17.70	No.160	私	試掘			
140	南江戸3丁目	199.75	13. 10	No.35	私	試掘			
141	中村2丁目	127. 92	26. 90	No.161	私	試掘			
142	中村2丁目	2, 140. 01	27.80	No.110	私	試掘			
143	小坂2丁目	1, 816. 44	28. 30	No.110	私	再試掘			S60-27 立会済
144	枝松3丁目	13. 99	33. 10	No.83	私	試掘			
145	祝谷5丁目	231. 40	43. 62	No.55 • 56 • 57	私	試掘	包含層	縄文 ・土師(中世)	
146	平井町	249, 42	62. 60	No.152	私	試掘			
147	北斎院町	311.83	9. 70	No.156	私	試掘			
148	山越1丁目	100. 49	18. 50	No.160	私	試掘			
149	南久米町	131. 37	36. 60	No.127	私	試掘			
	北斎院町	163. 04	†	No.29	私	既済			H16-1 試掘済
<u> </u>	北斎院町	95. 54	1	No.29	私	既済			H16-1 試掘済
-	北斎院町	166. 48		No.29	私	既済			H16-1 試掘済
-	北斎院町	151. 57	1	No.29	私	既済			H16-1 試掘済
-	北斎院町	135. 24		No.29	私	既済			H16-1 試掘済
-	中村2丁目	168. 65	+	No.161	私	試掘			
-	別府町	101. 13	+	No.30-①	私	既済			H14-150 試掘済
-	朝美1丁目	137. 23	+	No.33	私	既済			H14-312 試掘済

(5)

20, 2		11117E/FX/	< 10 \v.1	VET HIGH HILLS TETT	5				(0)
No.	所 在 地	面積 (m²)	標高 (m)	包蔵地名	調査 目的	調査 方法	包含層・遺構	遺物	備考
158	来住町	333. 65		No.130	私	試掘			
159	中村2丁目	197. 08	26.80	No.161	私	試掘			
160	祝谷6丁目	57. 38		No.49 • 51	私	既済			H2-18 試掘済 祝谷アイリ遺跡
161	南高井町	381.02	35. 60	No.134	私	試掘			70 17 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7
162	辻町	135. 80	14. 70	No.34	私	試掘			
163	平井町	298. 49	47. 60	No.131	私	試掘			
164	北斎院町	18. 70	9. 70	No.29	私	試掘			
165	樽味4丁目	184. 31		No.81	私	既済			H14-117 試掘済
166	福音寺町	334. 19	28. 10	No.116	私	試掘			
167	谷町	325. 60	16. 60	No.41	私	試掘	柱穴・溝	弥生·土師·須恵	谷町遺跡2次
168	久米窪田町	186. 91	42. 20	No.128	私	試掘			
169	平井町	292. 27	74. 90	No.90	私	試掘			
170	山越1丁目	165. 30	18. 40	No.160	私	試掘			
171	道後緑台	664. 30	38. 60	No.55 • 56 • 57	私	試掘	竪穴住居・土坑 柱穴・溝	弥生	
172	今在家2丁目	157. 71		No.125	私	既済			H7-30 試掘済
173	福音寺町	234. 34		No.115	私	既済			H8-392 試掘済
174	別府町	125. 62		No.30-1	私	既済			H14-150 試掘済
175	別府町	185. 46		No.30-1	私	既済			H14-150 試掘済
176	古三津3丁目	305. 71		No.19	私	既済			H14-418 試掘済
177	古三津3丁目	425. 36		No.19	私	既済			H14-418 試掘済
178	南久米町527地外	92.00		No.126	公				未調査
179	安城寺町720-7地外	490.00		No.155	公				未調査
180	水泥町	16, 873. 51		No.142	私	既済			H6-221 試掘済
181	鷹子町	158. 52	43. 00	No.128	私	試掘			
182	古三津3丁目	2, 017. 00		No.19	私	既済			H14-418 試掘済
183	高岡町	304. 81	7.00	No.26	私	試掘			
	樽味4丁目	176. 99	39. 40	No.81	私	試掘	包含層・柱穴	弥生・土師	
185	高岡町	245. 59	6. 70	No.26	私	試掘			
186	高岡町	267. 22	6. 80	No.26	私	試掘			
187	今在家2丁目	231. 40	30. 90	No.125	私	試掘			
188	北斎院町	167. 28		No.29	私	既済			H16-1 試掘済
189	高砂町2丁目	42.00	21.80	No.67	私	試掘			H15-270 一部試掘済
190	樽味4丁目	163. 48		No.81	私	既済			H15-27 試掘済
191	東方町	740.00	57. 40	No.143	私	試掘			
192	東野3丁目、畑寺町	264. 90	(82. 38)	No.78	私	試掘			
193	下伊台町	182.00	142.50	No.62. 65	私	試掘			
194	朝生田町3丁目	399. 55	18.80	No.109	私	試掘			
195	正円寺3丁目	180. 35	48. 70	No.79	私	試掘			
196	鷹子町	177. 57		No.128	私	既済			H15-342 試掘済
197	鷹子町	177. 19		No.128	私	既済			H15-342 試掘済
198	祝谷2丁目	327. 55		No.55 • 56 • 57	私	既済			H8-283 試掘済
199	平井町	332. 09	60, 30	No.95	私	試掘			

(6)

衣∠	干成10千度 松山	ロル生成ノ		11年5057月1月	見				(0)
No.	所 在 地	面積 (㎡)	標高 (m)	包蔵地名	調査目的	調査 方法	包含層・遺構	遺物	備考
200	山越1丁目	129. 49	19. 00	No.160	私	試掘			
201	古三津3丁目	171. 88		No.19	私	既済			H10-217 試掘済
202	平井町	932.00	63. 30	No.152	私	試掘			
203	谷町	163. 59	13. 10	No.41	私	試掘			
204	枝松4丁目	469. 72	31. 20	No.83	私	試掘			
205	持田町3丁目250-1外	986. 24	35. 10	包蔵地外	公	試掘	土坑・柱穴	須恵・土器	持田町遺跡3次
206	高岡町	140. 00	16.80	No.26	私	試掘			
207	来住町	619. 70	36. 10	No.127	私	試掘	溝		
208	山越1丁目	314. 96	18. 20	No.160	私	試掘			
209	水泥町	806. 61	63. 10	No.142	私	試掘			
210	高岡町	512. 81		No.29	私	既済			H16-185·186 試掘済
211	今在家3丁目	227. 00	31. 74	No.125	私	試掘			
212	北斎院町	110.66	9. 50	No.29	私	試掘			
213	平井町	124. 35	83. 00	No.90	私	試掘			
214	枝松6丁目	125. 62		No.114	私	既済			H15-282 試掘済
215	東方町	1, 420. 97	(19.93)	No.143	私	試掘			
216	朝生田	262. 96	19. 90	No.109	私	試掘			
217	南久米町	342. 99	40.70	No.127	私	試掘			
218	平井町	182. 00	67. 60	No.90	私	試掘			
219	西石井6丁目	21. 20	21.60	No.119	私	試掘			
220	北斎院町	218. 18	9. 70	No.156	私	試掘			
221	水泥町	170.60	49. 90	No.131	私	試掘			
222	道後今市	578, 51	31. 50	No.68	私	試掘			H5-144 試掘済 一部未調査
223	姫原2丁目	150. 32		No.168	私	既済			H14-228 試掘済
224	樽味4丁目	165. 53		No.81	私	既済			H15-27 試掘済
225	小坂5丁目	183. 99	24. 10	No.111	私	試掘			
226	清水町1丁目8-10~8-44	60.30	(24. 45)	No.67	公	試掘			
227	太山寺町	349.09	27. 50	No.10	私	試掘			
228	祝谷2丁目	492. 96		No.55 • 56 • 57	私	既済			H13-185・H14-262 試掘済
229	来住町927-2 南側地先水路	108. 14	35. 50	No.127	私	試掘			POLITION
230	衣山2丁目	456. 19	30. 30	No.20	私	試掘			
231	樽味4丁目	1,090.00		No.81	私	既済			樽味重要遺跡確認 調査で遺跡確認済
232	北梅本町	381. 99	78.00	No.107	私	試掘			<u> </u>
233	桑原2丁目	277. 50		No.157	私	試掘		土師・須恵	
234	北土居町	965. 00	23, 50		私	試掘			
	北久米町	1, 343. 00	(34. 08)		私	試掘			
236	姫原2丁目	136. 92	(01.00)	No.168	私	既済			H9-337 試掘済
237	東石井2丁目	978. 00		No.118	私	既済			H16-136 試掘済
<u></u>	南土居町435~437番地先				-	かいけ			東石井遺跡2次 未調査
		100.00	67 50	No.132	公	脉术			/下7月1日.
239	水泥町水泥古池	300.00	67.50	No.142	公	踏査			
	平井町谷ノ内	200.00	(152, 20)		公	試掘			<b>→</b> ∃m <b>→</b> -
241	北久米町515~517番地先	200, 00		No.132	公				未調査

(7)

12 2		ロリンエルスノ	~ IOM1		元				(7)
No.	所 在 地	面積 (㎡)	標高 (m)	包蔵地名	調査 目的		包含層・遺構	遺物	備考
242	畑寺2丁目4一43番地先	50.00		No.85	公				未調査
243	畑寺 3 丁目342-345番地先	300.00		No.85	公				未調査
244	東垣生町628番2外の一部	15. 40	4. 20	包蔵地外	公	試掘			
245	樽味4丁目	128. 66		No.81	私	既済			H15-27 試掘済
246	二番町4丁目7番4、7番5	1, 669. 58	22. 70	包蔵地外	公	試掘			
247	立花6丁目	117. 14	20.70	No.109	私	試掘			
248	南白水1丁目	198. 35		No.52	私	既済			H5-26 試掘済 瀬戸風峠遺跡
249	石風呂町	442. 73		No.11	私	既済			
250	青葉台	165. 25		No.19	私	既済			H2-14 試掘済
251	来住町	1, 107. 00	37. 60	No.127	私	試掘	溝・土坑・柱穴	弥生・須恵	
252	南久米町	201. 96	32. 40	No.126	私	試掘			
253	祝谷2丁目	447. 61		No.55 • 56 • 57	私	既済			H13-185 試掘済
254	久米窪田町	301. 12		No.131	私	既済			
255	北土居町	207. 13	24. 30	No.120	私	試掘			
256	北久米町	69. 22	43.00	No.91	私	再試掘			S63-60 試掘済
257	北斎院町	212. 68		No.156	私	既済			H16-220 試掘済
258	南斎院町	296. 00	48. 20	No.30-2	私	踏査			
259	南江戸5丁目	43. 26		No.33	私				申請取り下げ
260	西石井6丁目	578. 03	21. 10	No.119	私	試掘			
261	西石井6丁目	578. 03	21.10	No.119	私	試掘			
262	平井町	338. 85	69. 70	No.90	私	試掘			
263	南白水1丁目	204. 60		No.52	私	既済			H5-26 試掘済 瀬戸風峠遺跡
264	久米窪田町	462. 23	45. 20	No.131	私	試掘			
265	桑原4丁目	661.20		No.82	私	既済			H15-252 試掘済
266	枝松4丁目	140.02		No.83	私	既済			H16-204 試掘済
267	別府町419~527地先	150. 50	4.40	No.30-1	公	試掘			
268	西石井2丁目251地先	2. 50		No.119	公				未調査
269	朝生田町3丁目	174. 19	17.80	No.109	私	試掘			
270	衣山5丁目	130. 56		No.33	私	既済			H12-281 試掘済
271	北斎院町1022-1地先	640.00		No.29	公				未調査
272	安城寺町	476. 14	2.80	No.12	私	試掘			
273	青葉台	1, 224. 24		No.19	私	既済			H2-14 調査済 野津子山遺跡
274	東石井6丁目	671.67	22. 50	No.119	私	試掘			1311 3 1 102273
275	中村4丁目13-32先	45. 80	24. 80	包蔵地外	公	試掘			
276	越知町	133. 96	24. 20	No.120	私	試掘			
277	南久米町527-1地先	25. 88	31.00	No.126	公	試掘			
278	西石井町	68. 18	20.60	No.119	私	試掘			
279	道後湯月町甲1651番地 外	300.00		包蔵地外	公				申請取り下げ後 H17-27に差し替え
280	東方町乙725付近~714付近	135. 30	(83, 90)	No.144	公	試掘			III SIGEOTA
281	辻町	1, 502. 09		No.34	私	既済			H10-106 試掘済
282	北斎院町	413. 81	8.50	No.29	私	試掘			
283	谷町	341.12	22. 20	No.41	私	試掘			

(8)

表 2	平成10年度 松田	川垤戚ノ		推認調宜一	見				(0)
No.	所 在 地	面積 (m²)	標高 (m)	包蔵地名	調査目的	調査	包含層・遺構	遺物	備考
284	平井町288地先	490.00		No.106	公	未調査			
285	今在家1丁目	826. 55	30. 10	No.125	私	試掘			
286	今在家2丁目	94. 38		No.125	私	既済			H5-179 試掘済
287	天山2丁目	337. 18	20. 20	No.117	私	試掘			
288	福音寺町	1, 935. 47		No.116	私	既済			H16-44 試掘済
289	平井町	341.86		No.95	私	既済			H16-199 試掘済
290	北井門町	498. 40	22. 80	No.121	私	試掘			
291	中村2丁目	681. 79		No.110	私	既済			S60-27 参照
292	清水町2丁目	115. 37	23, 20	No.67	私	試掘			
293	山越1丁目	231.88	19.00	No.160	私	試掘			
294	桑原5丁目	348. 64	(33. 62)	No.82	私	試掘			
295	文京町	1, 234. 80	25, 60	No.67	私	試掘	溝・包含層	弥生・須恵 ・土師	松山大学構内 遺跡6次調査
296	青葉台	165. 02	:	No.19	私	既済			H2-14 調査済 野津子山遺跡
297	別府町	102.08		No.30-1	私	既済			H14-150 試掘済
298	北斎院町	988. 00	8. 20	No.29	私	試掘			
299	高岡町	178. 19	6. 10	No.25	私	試掘			
300	山西町879-3、878-2 他1筆	2, 087. 00	(2.48)	No.22	私	試掘			
301	北久米町	236. 82	38. 40	No.127	私	試掘	柱穴・包含層	弥生	
302	鷹子町	764. 03	49. 30	No.129	私	試掘			
303	南江戸4丁目	1, 446. 00	10.70	No.35	私	試掘			
304	別府町	203. 55		No.30-2	私	既済			H12-156 試掘済
305	山越2丁目	434. 00	17. 20	No.160	私	試掘			
306	来住町851地先	21.00	39.00	No.127	公	試掘			
307	祝谷6丁目	142. 15	58. 70	No.55 • 56 • 57	私	試掘			
308	水泥町	418.08	63. 30	No.142	私	試掘	土坑	土師	
309	来住町	14.00		No.127	私	既済			H8-404 試掘済
310	末町甲6-1、21-1、30-1、 27、23-2	1, 124. 13	(83. 41)	包蔵地外	公	試掘			
311	文京町3	3. 00	27. 20	No.67	公	試掘			
	北久米町	1, 362. 13	28. 70	No.124	私	試掘			
313	和田字井ノ元 栗井河原字早 稲地 和田字寺内安岡字養開	6, 121. 04	(13. 50)	No.82	私	踏査			
314	平井町	380. 00	68. 60	No.90	私	試掘			
315	祝谷東町	188. 00	73. 00	No.55 • 56 • 57	私	試掘			
316	谷町184地先~230地先	65. 76	(12, 77)	No.41	公	試掘			
317	谷町221番地24先~245地先	95. 14	12.90	No.41	公	試掘			
318	祝谷2丁目	678. 81		No.55 • 56 • 57	私	既済			H16-90 試掘済
319	平井町	702. 00	80, 50	No.90	*私	試掘	柱穴	土師	
320	西石井6丁目	229. 93	21.50	No.119	私	試掘			
321	姫原1丁目	781. 11	38, 50	No.45	私	試掘	溝・柱穴	土師	
322	高岡町	192. 67	7. 16	No.27	私	試掘			
323	立花6丁目	149. 00		No.109	私	既済			H15-293 試掘済
324	南江戸2丁目	1, 293. 50	13. 40	No.37	私	試掘			
325	平井町	309. 36	68. 10	No.90	私	試掘			

(9)

12 2		4 113 7± 15% 2		11年110日11日	見				(9)
No.	所 在 地	面積 (m²)	標高 (m)	包蔵地名	調査目的		包含層・遺構	遺物	備考
326	道後北代	1, 272. 48		No.55 • 56 • 57	私				申請取り下げ後 H17-3に差し替え
327	朝美2丁目	421. 12	19. 50	No.34	私	試掘			1117 5に足じ甘え
328	南江戸5丁目	441.00	27. 40	No.33	私	試掘	-		
329	安城寺町	165. 38	9. 10	No.154	私	試掘			
330	立花6丁目	656. 23	21. 10	No.109	私	試掘			
331	畑寺3丁目	198. 43	34. 00	No.85	私	試掘			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
332	辻町	298.71	14. 10	No.34	私	試掘	-	11-11-1	
333	南斎院町	254. 36	8. 20	No.27	私	試掘		*****	
334	東石井6丁目	151.66	22.60	No.119	私	試掘			
335	南江戸5丁目	166. 04	16. 10	No.33	私	試掘			
336	南土居町	189. 79	40. 40	No.132	私	試掘			
337	北斎院町	160. 98	8. 00	No.27	私	試掘			
338	南江戸4丁目	130. 39		No.35	私	既済			H15-53 試掘済
339	樽味叮4丁目223−1	6.00		No.81	公	既済			重要遺跡確認調査 試掘済
340	鷹子町	157. 51		No.128	私	既済			H16-181 試掘済
341	北井門町	256. 42	24. 40	No.120	私	試掘			
342	鷹子町	105. 22	42. 90	No.128	私	試掘			
343	愛光町	264. 46	14. 50	No.34	私	試掘			
344	青葉台	165. 38		No.19	私	既済			H2-14 調査済 野津子山遺跡
345	衣山4丁目	146. 74	34. 30	No.20	私	試掘			
346	平井町乙11-1	3, 020. 00	78. 10	No.95	公	踏査			
347	来住町	137. 63	40.00	No.127	私	試掘	溝・土坑・柱穴	土師・須恵	
348	中村2丁目	311. 31	26. 20	No.162	私	試掘			
349	道後緑台	237. 82	35, 80	No.55 • 56 • 57	私	試掘			
350	みどりヶ丘	136. 42		No.19	私	既済			H15-108 試掘済
351	来住町	839.63	38. 70	No.127	私	試掘			
352	来住町	119. 55	38. 10	No.127	私	試掘	溝・柱穴		
353	西石井4丁目	255. 00	18. 50	包蔵地外	私	試掘	土坑・柱穴	弥生	
354	道後一万	211.57	31. 90	No.68	私	試掘			
355	姫原2丁目	191.83	23. 20	No.168	私	試掘			
356	祝谷4丁目	101.99		No.55 • 56 • 57	私				意見書
357	姫原1丁目	188. 41		No.168	私				申請取り下げ後 H17-24に差し替え
358	平井町	196. 57	79. 90	No.90	私	試掘			
359	天山1丁目	149. 87	21. 10	No.117	私	試掘			
360	平井町	250. 20		No.131	私				意見書
361	道後緑台	165. 28	35. 20	No.55 • 56 • 57	私	試掘			
362	別府町394-12	100. 01		No.30-1	私	既済			H14-150 試掘済
363	来住町	283. 97	38. 80	No.127	私	試掘			
364	東垣生町	161. 22	3. 90	No. 2 8	私	試掘			

遺跡番号	職際外	名所在地	調査目的	時代	主な遺構・遺物等	本格対象面積(元)	屋外調查期間	遺跡番号
4 0 4 3—B	「松山市道樽味溝辺線関連遺跡」梅中 ウボ 海味っか 調本 中	模味2丁目15番外	额	縄文~古墳	土坑・竪穴式住居址、大溝・柱穴/縄文土器・埼生土器・須恵器・石器	1,889.42	H15.10. 1 ~ H16. 7.30	4043—B
4 0 4 3—C	作「本山市道棒味溝辺線関連遺跡」	模珠 4 丁目 179 番 1 外	歌和	弥生~古墳	整穴式住居扯,土坑,握立柱建物址/弥生土器,须恵器,石庖丁	1,041.00	H16. 2. 2 ~ H16. 7.31	4043-C
1 8	で ない は で は が は が は が は か は か は か は か は か は か は か	東野1丁目甲43番1外	級	- - - - - - - - - - - - - -	整个式住居址,捆立柱建物址,讲,土坑/	1,618.57	H16. 3.22 ~ H16. 9.30	4043-D
4 0 4 4—A	本 計 株 イ 不 週 鄭 「 松 山 市 道 樽 吹 溝 辺 線 関 連 遺 跡 」 市 町 本 7 士 海 와 つ か 盟 本 站	東野1丁目甲53番外	総	弥生	整穴式住居址/袋状铁洋,勾玉,旁生土器	794.46	H16. 8. 2 ~ H17. 1.31	4044—A
4 0 4 4—B	米町 株/木 場断/4 (公両 里、畑   松山市道榕味溝辺線関連遺跡   梅叶田   田田   田田   田田   田田   七 米田   1 米田	<b>樟味4丁目228番3外</b>	縣	中海	竪穴式住居址/土師器・須惠器	543.37	H16. 8. 2 ~ H17. 2.28	4044—B
4 0 4 4—C	存水回火電点型 ラ ハ 町 玉 地	樽味2丁目85番6外	崇	弥生~古墳	整个式住居址/ 游生土器,土師器,須惠器	1,278.00	H17. 2. 1 ~ H17. 7.29	4 0 4 4—C
4 0 4 4—D	中水周水温場 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	東野1丁目甲45番1	縣	古墳~中世	漆·土坑/土師器·須恵器	233.98	H17. 3. 1 ~ H17. 11.30	4 0 4 4—D
4044—E	「松山市道梅味溝辺線関連遺跡」 棒味四反地遺跡11次調査地	棒味4丁目226番1外	級	弥生~古墳	请·士坑/弥生-路·主師器·須惠器	37.25	H17. 3. 1 ~ H17. 11.30	4044-E
4044—F	「松山市道梅味溝辺線関連遺跡」 東野森ノ木遺跡4次調査地	東野 1 丁目甲 55-6 外	器等	縄文~中世	整欠式住居址, 土坑/縄文土器, 动生土器, 土師器, 須恵器, 勾玉	1,693.94	H17. 3. 1 ~ H17. 11.30	4044—F
4052—A	「松山市道中村桑原線関連遺跡」 枝松遺跡 8 次調査地	枝松3丁目7-14外	器	弥生·中世	竪穴式住居址,土坑,溝,柱穴/皮袋形土製品,環状石斧	1,688.00	H16. 2. 2 $\sim$ H16. 8.12	4052—A
4 0 5 2—B	「松山市道中村桑原線関連遺跡」 枝松遺跡 9 次調査地	枝松3丁目5-40 外	歌	申	捆立在建物址,讲	1,600.00	H16. $3.22 \sim H16. 9.30$	4052—B
4 0 5 3—A	「松山市道中村桑原線関連遺跡」 枝松遺跡 10次調査地	枝松3丁目6-40 外	縣	弥生	禁	1,500.00	H16. 8. 2 $\sim$ H16.12.27	4053—A
4 0 8 2—B	「松山市道南高井線関連遺跡」 高井 遺跡	南高井町 466 外	號	古代~中世	攝立柱建物址 2 棟,石笔 1 巷,漭 17 条,自然流路 1条,畝状遠疇 37 条,瓣跡 1条,土坑 8 基/土師器,須恵器,耳環,石器	6,429.60	H16. 3. 1 $\sim$ H17. 1.31	4082—B
4 0 8 3—A	「松山市道南高井線関連遺跡」 水泥遺跡 3 次調査地	水泥町 405 外	器等	申	<b>勍状遗構7条,劉跡11条,纂1基/士師器·須恵器</b>	1,275.20	H17. 1.20 $\sim$ H17. 9.30	4083—A
417	番町遺跡	一番町3丁目20番	歌	近世	近世武家屋敷、國池遺構/陶磁器・土師器・瓦・須恵器・埴輪・弥生土器	1,017.50	H15. 8. 1 $\sim$ H16. 6.30	417
4192—A	「松山市道南北梅本線関連遊跡」 南梅本長広遺跡	南梅本町甲 544 番地 2 外	緊急	中世~近市	土坑 38 基、澤 15 条,柱次多数,性格不明遺構 5 基/須恵器,弥生土器,陶磁器,石器	586.13	H16.10.18 $\sim$ H17. 3.31	4192—A
4192—B	「松山市道南北梅本線関連遺跡」 南梅本上方遺跡2次調査地	南梅本町甲385番地2外	緊急	中	<b>娟立柱建物址 1 棟・礫群 1 基/土師器・石器</b>	577.56	H16.10.18 ~ H17. 3.31	4192—B
427	久米高畑遺跡62次調査地	来住町 1147 番1の一部	舞	弥生~古代	柱穴 6 棟、溝 5 条・土坑 35 基・竪穴式住居址 6 棟・柱穴約 150 基/須惠器・強生土器・石器・武器形青銅器転用ノミ	445.00	H16. 4.20 $\sim$ H16. 8. 8	427
4 2 8	久米高畑遺跡61次調査地	来住町 900 番 1 の一部	舞	弥生~中世	娶穴式住居址 2 棟、溝7条・土坑20 基・柱穴多数/弥生土器・土鰤器・須惠器・石器・鉄器・瓦	400.00	H16. $4.20 \sim$ H16. $8.18$	428
429	東野お茶屋台遺跡6次調査地	東野4丁目222番2·3 223番の一部	緊急	古墳	古墳 6 基/ 弥生土器,須恵器・土師器・土師皿・石器・鉄器	835.00	H16. 7.16 $\sim$ H16.10.15	429
430	棒味高木遺跡10次調査地	棒味4丁目247番の一部	国補	弥生~古代	竪穴式住居址 18 棟・土坑 23 基・掘立柱建物址 7 棟・溝 6 条・柱穴多数 / 須恵器・土師器・弥生土器・鉄滓	約 500	H16. 7.20 $\sim$ H16.12.27	430
4 3 1	松山城三之丸跡 3 次調査地	堀之内	国補	型型	道路・溝・土坑	約 340	H16. 7.27 $\sim$ H17. 2. 3	431
432	来住廃寺31次調査地	来住町 818 番 1	興	弥生・近世	握立柱建物址1基·溝2条·方形木棺墓3基·円形桶棺墓4基·柱穴6基/須惠路·土師器·石器·陶磁器·瓦	約 800	H16. 8.17 ~ H16.12. 3	432
433	松山城三之丸跡 4 次調査地	掘之内	舞	中点	道路(石組織)	約 540	H16.10. 1 $\sim$	433
434	谷町遺跡2次調査地	谷町甲 375 番6の一部	国	古代~近世	柱穴7 基·土坑1基·溝2条/土師器·須惠器·陶磁器	45.00	H16.11.16 ~ H16.12. 3	434
435	久米高畑遺跡 63次調査地	来住町 922 番	舞	弥生~古墳	竪穴式住居址,掘立柱建物址,土坑,柱穴/弥生土器,土師器,須恵器,石器	850.00	H16.12. 3 ~ H17. 3.31	435
436	持田町遺跡 3 次調査地	特田町3丁目250番1の一部	聚	古墳	柱穴・土坑	25.00	$H16.12.15 \sim H16.12.16$	436
437	東石井遺跡2次調査地	東石井2丁目355番1の一部	総	縄文~古墳	遗物包含層,溝9条/縄文土器・石器・弥生土器・須恵器	112.75	H17. 1. 5 ~ H17. 1.31	437
438-1	「松山市道道後線関連遺跡」 道後湯月町遺跡	道後湯月町 1656-1 外	整部	古代~近世	池址1基・炉址1基・埋甕1基~埋甕1基/縄支土器・弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・国産陶磁器・中国産陶磁器・鉄器・動物遺体・植物遺体・種子・木	83.00	H17. 2. 1 $\sim$ H17. 3.31	4 3 8—1
439	東野古墳群	東野3丁目乙1番1~5.2番 1~3.199番1	緊急	古墳	古墳2基/須惠器	740.00	H17. 2. 7 ~ H17. 7. 6	439
4 4 0	久米高畑遺跡64次調査地	来住町 895 の一部	興	弥生~古代	捌立柱建物址·竪穴式住居址·土坑·溝	323.52	H17. 2.14 ~ H17. 3.31	4 4 0
441	棒味四反地遺跡10次調査地	棒味4丁目223番1の一部	鯉	弥生	祖立柱建物址,漭・土坑	119.25	H17. $2.21 \sim H17. 3.5$	441
4 4 2	松山城槻門跡	丸之内	舞	近世	<b>档跡(礎石及び東石)</b>	約 220	H17. 2.21 ~ H17. 3.30	442
443	松山大学構内遺跡 6 次調査地	文京町4番10の一部	器	古代・弥生	捆立柱建物址·土坑·溝·自然流路/石带·古鉄·土師器坏·皿·分銅形土製品·鏡形土製品	1,234.80	H17. 3. 1 ~ H17. 6.30   4 4 3	443



図 1 平成 16 年度 松山市埋蔵文化財本格調査位置図 (S=1:75,000)

# Ⅲ 平成 16 年度保存処理及び出土遺物整理

## 1. 平成16年度出土遺物整理の概要

当埋蔵文化財センターでは、近年の発掘調査の整理作業と並行して、過去約20年間の調査資料の整理作業をも行っている。今年度は昨年度に引き続き、膨大になってきた収蔵品の再整理と、保存処理を必要とする資料への対応を重点項目とした。

#### 1. 遺物

青銅製品:保存処理および復元・科学分析を外部委託しているが、本年度は該当資料がない。

鉄製品:収蔵品目録の製作を重点的に行う。保存処理は当センターで行うが、特殊な資料やX線撮影は外部委託している。今年度の重要資料の外部委託は鉄斧1点、鉄鏃7点、馬具(轡)5点を株式会社京都科学に依頼する。

植物遺体:木製品や種実は品種同定を外部委託し、そのうえで当センターで保存処理をしている。 今年度は品種同定の外部委託がない。

動物遺体:洗浄や保護の作業を行う。今年度は、人骨 15 体分の鑑定・保存処理を土井ヶ浜遺跡人類学ミュージアム人類学研究室に委託した。

土器・石器:収蔵庫整理では、報告書の刊行された遺跡資料を主体に選別作業をし、収納を行う。特に、展示室や類例調査等で使用頻度の高い資料については、収蔵一覧を作成し、特別収蔵庫に一括保存した。今年度は勾玉の整理を進め、台帳作成後に、館外貸し出しを念頭に入れた保管をした。

#### 2. 写 真

ネ ガ:35 mm判と6×7 判は、注記や台帳作成作業が終わり次第、写真整理室の所定の場所で収納する。4×5 判は写真担当者が整理する。

プリント:報告書刊行後に、ファイルをコンテナに収納し、収蔵庫に保管する。

#### 3. 実測図・日誌・報告書原図

遺構測量図・遺物実測図・日誌・報告書原図は収蔵庫の所定の場所で保管する。

(山本・梅木)

# 2. 保存処理

保存処理室では主に木製品の保存処理 (PEG含浸処理)、金属製品の保存処理 (減圧樹脂含浸)を行っており、必要に応じて現場に出向き、遺構・遺物の取り上げ、土層の剥ぎ取り作業も行っている。 (山本)

#### 1. 木製品の保存処理

当センターでは、木製品の保存処理はPEG(ポリエチレングリコール)含浸処理を行っている。このPEG含浸法は、木製品中の水分をPEGに置き換える方法で、20%の水溶液に木製品を浸し、漸次、濃度を高めていき最終段階では100%濃度のPEG溶液をしみこませることになる。この処理は $1\sim1.5$ 年位を要する。平成16年度は木製品の保管数が少なく保存処理は行っていない。

#### 2. 金属製品の保存処理 (写真 1 ~ 7)

前処理(脱水・脱塩・安定化処理)を行っていた金属製品は、順次クリーニング(付着しているゴミ・土壌・サビ等の除去)、減圧樹脂含浸を行っている。また、処理の終了した遺物は、収納システム(三菱ガス科学・RPシステム)により収納後、特別収蔵庫に保管している。以下、処理を行った遺跡名と遺物点数を下表に記す。

表1 平成16年度 金属製品保存処理遺跡名一覧

(1)

		T		
NO	遺跡名	点数	作業工程	刊行物
14	中村2丁目遺跡	3	脱塩中	未報告
68	文京遺跡3次調査地	1	脱塩中	松山市文化財調査報告書第28集
102	大峰ヶ台遺跡3次調査地	1	脱塩中	未報告(松山市埋蔵文化財調査年報I)
107	船ヶ谷向山古墳	4	脱塩中	未報告(松山市埋蔵文化財調査年報II)
110	北斎院地内遺跡1次調査地	5	脱塩中	松山市文化財調査報告書第43集
111	南江戸桑田遺跡	1	処理中	未報告(松山市埋蔵文化財調査年報II)
151	大峰ヶ台遺跡7次調査地	2	脱塩中	松山市文化財調查報告書第40集
182	東山古墳群3次調査地	2	脱塩中	松山市文化財調査報告書第97集
203	来住廃寺14次調査地	1	脱塩中	松山市文化財調查報告書第23集
266	大峰ヶ台遺跡9次調査地	2	脱塩中	松山市文化財調查報告書第62集
288	乃万の裏遺跡2次調査地	26	含浸処理中	松山市文化財調査報告書第72集
386	来住町遺跡12次調査地	3	脱塩中	未報告(松山市埋蔵文化財調査年報14)
404 3-A	樽味高木遺跡8次調査地	6	脱塩中	未報告
404 4—A	東野森ノ木遺跡2次調査地	1	脱塩中	未報告
405 2-B	枝松遺跡9次調査地	1	脱塩中	未報告
413	来住廃寺29次調査地	1	脱塩中	未報告
416	来住廃寺30次調査地	3	脱塩中	未報告
420	北久米遺跡3次調査地	3	脱塩中	松山市文化財調查報告書第98集

NO	遺跡名	点数	作業工程	刊行物
424	束本遺跡7次調査地	3	脱塩中	未報告
428	久米高畑遺跡6次調査地	2	脱塩中	未報告
	試掘	1	脱塩中	未報告

#### 3. 人骨・獣骨(動物遺骸体)の保存処理

処理室へは人骨、獣骨とも大部分のものが、土とともに出土した状態で搬入される。処理室ではこの余分な土を、竹べら・竹串・針先・ピンセットなどを用いて、徐々に取り除いて骨の取り出しを行っている。脆い状態のものはアクリル系合成樹脂を塗布し、乾燥、硬化させてから少しずつ土を取り除き、現れた部分にまた樹脂を塗る。この繰り返しを行って取り出した骨は、最後に樹脂溶液に浸し漬けして全体(内部まで)を強化し保護する。また、収蔵遺物の再整理を行い収蔵台帳の作成も行っている。平成16年度は保護処理は行っていない。

#### 4. 遺構・遺物の取り上げ

発掘調査で検出される遺物には、腐食したり脆弱化しているため、そのまま取り上げることが困難なものがある。また、ほとんどの調査の場合、発掘した遺構を現場で保存できない。このような場合に遺構・遺物の取り上げを行う。遺物が小さい場合は簡易な方法で行い(骨を土ごと取り上げること、年報 11, 保存処理事業 I-3参照)、遺物が大きく重量が増す場合は発泡ウレタン樹脂を用いて対象物全体を固めて取り上げる(年報 X, 保存処理事業 I-3参照)。この発泡ウレタン樹脂での梱包は従来使用していた石膏やコンクリートでの梱包より軽く仕上がり、搬出、運搬の作業が軽減される。また、室内に搬入した後、時間をかけて精査することによって、発掘期間中に屋外で調査する以上の成果を期待できることも多い。平成 16 年度は枝松遺跡 9 次調査地にて鉄製鋤先、番町遺跡にて池遺構の水溜め部の桶の取り上げを、ともに簡易な方法で行った。

#### 5. 土層の剥ぎ取り転写

土層の剥ぎ取り転写は、転写面にエポキシ系樹脂を塗り、樹脂の補強のためガーゼなどで裏打ちを行い、樹脂が硬化後転写面より剥ぎ取る。剥ぎ取った土層はパネル仕上げにして展示、保管する。また、この土層の剥ぎ取りは、発掘後も室内で実物をあらゆる角度から精査できる効果的な記録保存法ともなる。平成16年度は土層の剥ぎ取り作業は行っていない。

参考文献 1~5 奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター『埋蔵文化財ニース 16・24・28・31』

#### 6. その他の作業

平成16年度は、考古館企画展『北条平野の古墳文化』に展示する(新城3号墳)の石室右側壁の実物大(山之内志郎発案)のパネルを学芸係と共同製作した。コルク板に側壁の石材の輪郭を書き込み、そのコルク板をパネルに貼り付けた簡易的なものであったが、実物大(高さ27m、長さ6.9m)であったため展示には臨場感を与えることができた。なお、企画展終了後は松山市北条ふるさと館へ

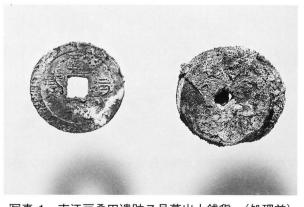
移動、展示している。

#### 7. 出土木製遺物、金属製遺物、動・植物遺体一覧

以下の表に平成16年度調査により出土した遺跡名、種類、点数を記す。

表2 平成16年度 調査出土木製遺物、金属製遺物、動・植物遺体一覧

NO	遺跡名	種類	点数	内 訳
404 3-D	東野森ノ木遺跡	金属製品	22	鉄製鏃・鉇など
404 4-A	東野森ノ木遺跡2次調査地	金属製品	2	鉄製斧·鑿
408 2-B	高井遺跡	金属製品	6	銅製耳環など
413	来住廃寺29次調査地	金属製品	1	鉄製釘
440		金属製品	5	鉄製釘·刀、銅製煙管
416	来住廃寺30次調査地	木製遺物	2	木片
423	久米高畑遺跡60次調査地	木製遺物	1	
427	久米高畑遺跡62次調査地	金属製品	1	青銅製品
428	久米高畑遺跡61次調査地	金属製品	7	鉄製釘・鏃など
429	東野お茶屋台遺跡6次調査地	金属製品	15	鉄製釘など
		金属製品	11	鉄滓
430	<b>樽</b> 味高木遺跡10次調査地	木製遺物	7	炭化材
430	得外向小夏财 I U 人间且地	動物遺骸体	5	獣骨(歯など)
		植物遺体	2	種子
		金属製品	5	鉄製鍋·銅製銭貨
438	道後湯月町遺跡	木製遺物	33	杭・流木など
		動物遺骸体	17	獣骨(歯など)



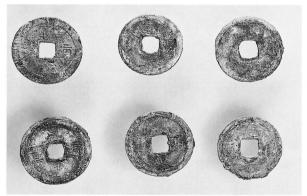


写真 1 南江戸桑田遺跡 7 号墓出土銭貨 (処理前) 写真 2 南江戸桑田遺跡 7 号墓出土銭貨 (クリーニング後)



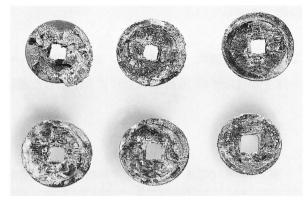


写真 3 南江戸桑田遺跡 9 号墓出土銭貨 (処理前) 写真 4 南江戸桑田遺跡 9 号墓出土銭貨 (クリーニング後)

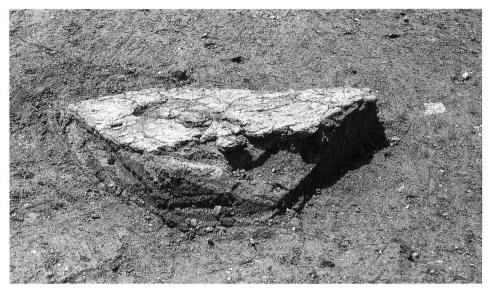
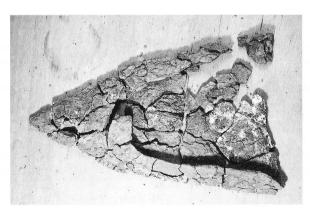


写真 5 枝松遺跡 9 次調査地出土鋤先 (出土状況)







## 3. 出土遺物整理

#### 勾 玉 一 覧

#### 1. 調査の概要

掲載資料は、報告書に掲載している遺物を基本にし、現在整理中の遺物も許される限り取り上げ、 未整理の遺跡出土資料は除外した。

調査は、まず報告書や文献で調べ、つぎに各調査員に対象資料の有無や所属時期の確認等をした。つづいて資料と実測図を一括管理し、未実測品は極力実測を作成し、法量の数量化に努めた。(梅木)

#### 2. 掲載文献

森 光晴 1975 『かいなご・松ヶ谷古墳』松山市文化財調査報告書第6集

森 光晴·大山正風 1976 『古照遺跡Ⅱ』松山市文化財調査報告書第 10 集

田辺昭三・西尾幸則・池田 学 1981 『東山鳶が森古墳群調査報告書』松山市文化財調査報告書第 15 集

梅木謙一 1991 『松山大学構内遺跡 - 第 2 次調査 - 』 松山市文化財調査報告書第 20 集

栗田茂敏 1991 『北谷王神ノ木古墳・塚本古墳』松山市文化財調査報告書第21集

梅木謙一 1992 『桑原地区の遺跡』松山市文化財調査報告書第26集

宮崎泰好 1991 『祝谷六丁場遺跡』松山市文化財調査報告書第24集

梅木謙一 1994 『大峰ヶ台丘陵の遺跡』松山市文化財調査報告書第 40 集

田城武志・髙尾和長 1994 『東山古墳群-4・5次調査-』松山市文化財調査報告書第41集

梅木謙一・宮内慎一 1994 『桑原地区の遺跡Ⅱ』松山市文化財調査報告書第46集

栗田茂敏 1995 『大峰ヶ台遺跡 - 第4次調査 - 』 松山市文化財調査報告書第48集

宮内慎一 1995 『松山大学構内遺跡Ⅱ-第3次調査-』松山市文化財調査報告書第49集

河野史知·相原浩二 1995 『辻町遺跡-2次調査地-』松山市文化財調査報告書第51集

梅木謙一 1996 『福音寺地区の遺跡』松山市文化財調査報告書第52集

高尾和長 1996 『東本遺跡 4 次調査・枝松遺跡 4 次調査』松山市文化財調査報告書第 54 集

髙尾和長 1997 『釜ノ口遺跡Ⅱ-6・7・8次調査-』松山市文化財調査報告書第60集

相原浩二 1998 『瀬戸風峠遺跡』松山市文化財調査報告書第69集

加島次郎 1999 『乃万の裏遺跡 - 2次調査地 - 』松山市文化財調査報告書第72集

武正良浩 2003 『福音小学校構内遺跡Ⅱ-古墳時代以降編-』松山市文化財調査報告書第91集

高尾和長 2002 『船ヶ谷遺跡-4次調査- 遺構・遺物編』松山市文化財調査報告書第 88 集

髙尾和長 2004 『東山古墳群Ⅱ-3次調査・6次調査-』松山市文化財調査報告書第 97 集

小玉亜紀子·梅木謙一 2005 『樽味四反地遺跡Ⅱ-6次調査-(古墳時代中期~中世編)』松山市文 化財調査報告書第 106 集

梅木謙一 2005 『宮前川流域の遺跡 - 本文編 - 』松山市文化財調査報告書第102集

相原浩二 2005 『東本遺跡 6 次調査地·桑原遺跡 2 次調査地·桑原遺跡 4 次調査地』松山市文化財調査報告書第 105 集

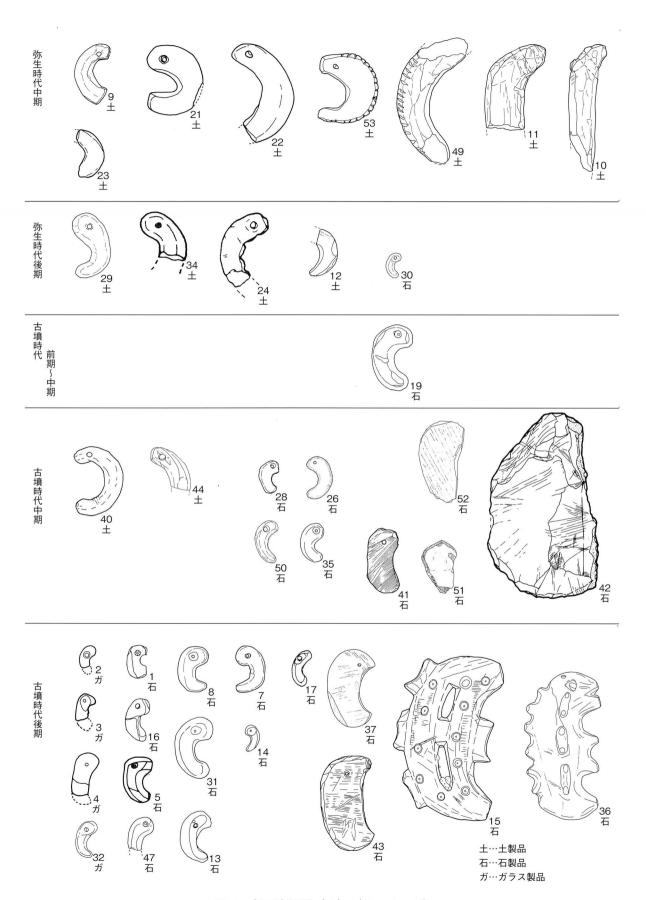


図 1 勾玉実測図(1)(S=1:2)

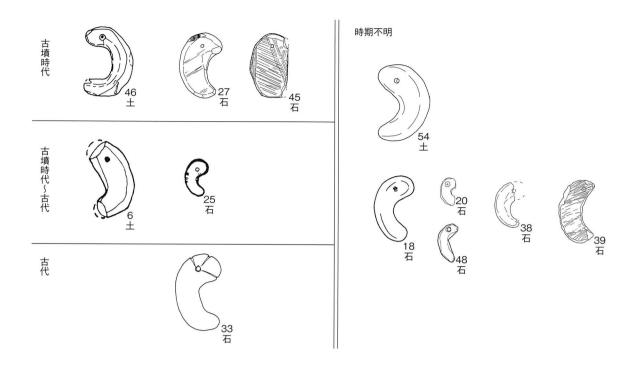


図 2 勾玉実測図(2)(S=1:2)

表 1	勾 玉 一	<b>覧</b>								(1)
番号	遺跡名	出土地	材質	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	時 期	文 献	備考
1	かいなご古墳	2号墳	硬玉 (ヒスイ)	1.8	0.9	0.7	1.3	古墳後期後半	報第6集 図 11 - 5	
2	忽那山古墳	主体部	ガラス	(1.2)	0.6	0.5	(0.7)	古墳後期後半	報第 10 集 第 16 図- 13	
3	久万ノ台古墳	3号墳	ガラス	(1.3)	0.8	0.8	(1.0)	古墳後期後半	報第 10 集 第 21 図- 22	
4	久万 A ノ台古墳	3号墳	ガラス	(2.5)	1.0	0.8	(3.0)	古墳後期後半	報第 10 集 第 21 図- 23	
5	東山鳶ヶ森古墳	2号墳	水晶	2.5	1.2	1.0	4.6	古墳後期後半	報第 15 集 図版 56 - 1	
6	松山大学構内2次	第Ⅴ層	土製	(4.1)	1.8	1.4	(11.0)	古墳~古代か?	報第20集第59図-253	
7	北谷王神ノ木古墳	1号墳	硬玉	2.5	0.8	0.6		古墳後期末	報第 21 集 図 15 - 42	
8	樽味立添	C 10 区皿下層	めのう	2.4	0.8	0.7	3.2	古墳後期	報第 26 集 未報告	
9	祝谷六丁場	1区N6E1	土製	(3.1)	0.8	0.5	(3.2)	弥生中期	報第 24 集 未報告	
10	祝谷六丁場	1区N6E5	土製	(6.7)	2.0	1.5	(21.2)	弥生中期	報第 24 集 未報告	頭部突帯
11	祝谷六丁場	不明	土製	(4.6)	2.1	1.6	(23.5)	弥生中期	報第 24 集 未報告	
12	朝美澤 1 次	土器棺墓(SK1)	土製	(2.5)	0.9	0.9	(2.4)	弥生後期	報第 40 集 第 16 図- 56	
13	大峰ヶ台5次	8号墳(旧1号墳)	硬玉	2.6	1.2	0.8	3.8	古墳後期後半~末	報第 40 集 第 38 図 - 22	(旧客谷B地区)
14	大峰ヶ台5次	8号墳(旧1号墳)	硬玉	1.4	0.6	0.4	0.5	古墳後期後半~末	報第 40 集 第 38 図 - 23	(旧客谷B地区)
15	大峰ヶ台5次	8号墳周溝	蛇紋岩?	8.6	3.6	2.8	150.5	古墳後期	報第 40 集 第 41 図- 97	子持勾玉 (旧客谷B地区)
16	大峰ヶ台5次	9号墳A石室(旧2号墳)	硬玉(ヒスイ)	2.3	0.9	0.5	2.6	古墳後期後半	報 第 40 集 第 49 図 - 108	(旧客谷B地区)
17	東山古墳群5次	19 号墳	滑石?	1.9	0.6	0.3	1.0	古墳後期後半	報 第 41 集 第 55 図 - 218	
18	東山古墳群5次	T 2	めのう	3.4	1.1	1.0	7.4	3 <del></del>	報 第 41 集 第 77 図 - 253	

(2)

<i>A</i> J	工 見									(८)
番号	遺 跡 名	出 土 地	材 質	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	時 期	文献	備考
19	樽味四反地2·3· 4次	S B 4	めのう	3.6	1.3	0.9	9.0	古墳前期~中期	報第 46 集 第 74 図- 35	
20	樽味高木 2 次	A区2号塚	硬玉(ヒスイ)	1.5	0.6	0.5	1.4		報第 46 集 第 29 図- 68	
21	大峰ヶ台4次	SB 18	土製	3.7	1.6	1.0	(9.4)	弥生中期中葉	報第 48 集 図 43 - 138	
22	大峰ヶ台4次	包含層	土製	(5.0)	1.5	0.8	(13.8)	弥生中期中葉	報第 48 集 図 70 - 196	
23	大峰ヶ台4次	包含層	土製	(2.4)	0.8	0.8	(2.3)	弥生中期中葉	報第 48 集 図 70 - 197	
24	松山大学構内3次	SR2(⑧区)	土製	(4.1)	1.5	1.2	(8.4)	弥生後期	報第 49 集 第 144 図- 893	
25	松山大学構内3次	第Ⅳ層	滑石?	1.4	0.7	0.4	0.5	古墳~古代	報第 49 集 第 282 図ー 2176	
26	辻町2次	第Ⅸ層	滑石?	2.2	0.7	0.5	2.4	古墳中期後半	報第 51 集 第 56 図- 250	
27	筋違H	掘立2(SP430)	滑石	3.3	2.3	0.5	5.2	古墳時代	報第 52 集 第 163 図- 66	
28	筋違H	S K 3	硬玉(ヒスイ)	1.7	1.1	0.6	1.7	古墳中期後半	報第 52 集 第 174 図- 88	
29	東本4次	4⊠SB 404	土製	3.4	1.3	1.5	7.4	弥生後期末	報第 54 集 第 102 図- 473	
30	釜ノ口6次	S B 1	硬玉?	1.3	0.4	0.4	0.5	弥生後期後葉	報第 60 集 第 8 図- 15	
31	瀬戸風峠	D区 4 号墳石室内	めのう	3.8	1.1	1.0	8.7	古墳後期末	報第 69 集 第 59 図- 183	
32	瀬戸風峠	F区5号墳石室内	ガラス	1.9	0.6	0.5	1.1	古墳後期末	報第 69 集 第 78 図- 263	
33	乃万の裏2次	SD 11	硬玉 (ヒスイ?)	4.0	1.5	1.2	13.7	古代	報第 72 集 第 47 図- 344	丁字頭勾玉
34	松山大学構内2次	SB3	土製	(3.2)	1.5	1.6	(8.6)	弥生後期前葉	報第 20 集 第 12 図 - 8	
35	福音小学校構内	1区西SB7	滑石	2.0	1.1	0.7	2.2	古墳中期前半	報第 91 集 第 15 図- 84	
36	福音小学校構内	S B 121	蛇紋岩	7.7	3.8	2.6	76.8	古墳後期後半	報第 91 集 第 118 図- 531	子持勾玉
37	福音小学校構内	S B 121	滑石	4.1	2.2	0.4	6.5	古墳後期後半	報第 91 集 第 118 図- 532	
38	福音小学校構内	表採	滑石?	2.3	0.8	0.4	1.3		報第 91 集 第 209 図- 898	
39	福音小学校構内	2区表採	滑石?	3.4	1.2	0.3	3.6		報第 91 集 第 209 図- 899	
40	船ヶ谷4次	SR1②層	土製	3.6	1.1	1.2	8.1	古墳中期中葉	報第 88 集 第 32 図- 267	
41	船ヶ谷4次	SR1②層	滑石?	3.4	1.3	0.5	4.2	古墳中期中葉	報第 88 集 第 102 図- 1081	
42	船ヶ谷4次	SR1②層	滑石	9.6	5.8	1.9	116.3	古墳中期中葉	報第 88 集 第 103 図- 1082	未製品
43	船ヶ谷4次	SR1①層	滑石	4.9	2.8	0.9	17.4	古墳後期後半	報第 88 集 第 117 図 1222	
44	船ヶ谷4次	S K 24	土製	(3.0)	0.9	1.6	(5.1)	古墳中期後半	報第 88 集 第 169 図- 1509	
45	船ヶ谷4次	G 8区第VII層	滑石?	3.3	2.0	0.6	6.3	古墳時代	報第 88 集 第 206 図- 1741	
46	船ヶ谷4次	不明	土製	3.7	1.1	1.4	8.6	古墳時代	報第 88 集 第 207 図- 1756	
47	東山古墳群6次調査	24 号墳石室内	水晶	(1.8)	0.8	0.9	(2.8)	古墳後期後半	報第 97 集 第 20 図- 55	
48	久米高畑 32 次	包含層上部	ヒスイ	2.0	0.5	0.5	1.0		整理中	
49	大峰ヶ台山頂	T2南裾落込	土製	(6.7)	1.7	2.0	(31.3)	弥生中期中葉	未報告	
50	樽味四反地6次	S B 016	めのう	2.2	0.7	0.6	1.8	古墳中期後半	報第 106 集 第 21 図- 92	
51	樽味四反地6次	SB 016 貼床	めのう	2.8	1.8	1.2	8.0	古墳中期後半	報第 106 集 第 22 図- 150	未製品
52	樽味四反地6次	S B 016	緑色片岩	4.3	2.4	0.3	5.9	古墳中期後半	報第 106 集 第 24 図- 213	未製品
53	大峰ヶ台6次	B2区第9層	土製	3.7	1.8	1.6	14.5	弥生中期中葉	報第 102 集 第 31 図- 586	
54	東本6次	SR 201 3層	土製	4.0	1.7	1.8	16.4		報第 105 集 第 26 図- 120	
55	松山大学構内3次	地点不明	硬玉	1.2	0.7	0.4	0.4		報第 49 集 第 285 図- 2203	

# IV 平成 16 年度 普及 啓発 事業

# 平成 16 年度普及啓発事業

当埋蔵文化財センターは、松山市内における遺跡の発掘調査を行うとともに、出土遺物や記録資料 などを整理・保管している。発掘調査終了後は、随時現地説明会を開催するとともに発掘調査報告書 を刊行することにより、広く一般に公開している。

また附属の考古館は、地域文化の発展・向上並びに調査研究活動の振興を図ることを目的として設 置されたものであり、展示会や遺跡めぐり・講演会・体験学習セミナーを開催するなど、市民一人ひ とりの生涯学習を支援しながら、埋蔵文化財保護思想の普及啓発に努めている。平成16年度は下記 の各種事業を実施した。

- 1. 展示活動
- 2. 教育普及活動
- 3. 収集・保管活動
- 4. 広報・出版活動

- 5. 施設の利用
- 6. 資料の貸出・調査 7. 職員研修・会議

一方、埋蔵文化財センターに隣接して設置されている文化財情報館は、松山市内で出土した文化財 資料を整理・保管し、その活用を図るとともに市民に開かれた歴史学習の場としての充実を図り、埋 蔵文化財センター及び考古館と一体となって埋蔵文化財保護施設として有機的な活用を図ることを目 的としている。

#### 1. 展示活動

常設展示室は、「海を媒介とした文化交流の中継地点としての伊予文化の独自性と、そこに生きた 人々の姿」を解明し、「見る」「聞く」「触れる」「考える」を展示の基本コンセプトとした立体的な展 示を心がけている。展示品は松山平野で出土した考古資料約8.000点である。

また常設展示室に隣接した特別展示室では、期間を限定して開催する展示会として(1)発掘へん ろ展(3)発掘調査速報展(4)特別展(5)企画展を開催するとともに、(2)発掘調査写真展を松山 城二之丸史跡庭園・松山市役所・いよてつ髙島屋の3ヶ所で開催した。

# (1) 第1回 四国・埋蔵文化財センター巡回展 「発掘へんろー遺跡でめぐる伊豫・土佐・ 讃岐・阿波-|(写真1・表1-①)

この展示会は、四国内の埋蔵文化財センター 5団体が合同で開催する巡回展である。5団体が 近年、発掘調査して出土した遺物を持ち寄り、今 までに蓄積された情報を提供・交換することによ って、観覧者の方々に埋蔵文化財の重要性を認識 していただこうというものである。



#### (2) 発掘調査写真展「むかし・昔のまつやまを撮る」(表1-②)

この展示会は、後述する(3)発掘調査速報展「むかし・昔のまつやまを掘る」の予告を兼ねて前 年度に発掘調査された遺跡や遺物の写真パネルを速報的に紹介するものである。当年度は松山城二之 丸史跡庭園・松山市役所本館1階ロビー・いよてつ髙島屋ふれあいギャラリーの3ヶ所において22 遺跡の写真パネルと解説パネル計20枚を設置し、PRに努めた。

#### (3) 発掘調査速報展「むかし・昔のまつやまを掘る」(写真2・表1-③)

この展示会は、前年度に松山市内で相次いで発見された重要な遺跡・遺物を速報的に紹介し、また新たに発掘調査報告書が刊行された遺跡について、写真やイラスト・図面を交えながら紹介するものである。当年度は、前年度に発掘調査された松山城本丸跡3次調査地や番町遺跡を含む22遺跡を取り上げ、その出土遺物約100点を展示した。

#### (4) 特別展「首長の大型建物をみる」(写真3・表1-4)

この展示会は、考古館最大の事業であり、県内外の博物館等から貴重な遺物を借用し、系統的に展示を展開するものである。当年度は、樽味四反地遺跡の大型建物2棟を中心に、西日本地域の弥生時代から古墳時代までの大型建物に関する資料を展示した。展示点数は約100点である。

#### (5) 松山市・北条市・中島町合併記念企画展

#### 「北条平野の古墳文化~横穴式石室や遺物から探る古墳時代像~」(表1-⑤)

この展示会は、松山市・北条市・中島町の合併を記念し、北条平野の古墳時代にスポットをあて、 北条平野の特徴や独自性を広めるために開催した。展示点数は約100点である。

表1 展示活動一覧

No.	展示会名	会 期	会 場	観覧者数
1	第1回四国・埋蔵文化財センター巡回展 「発掘へんろー遺跡でめぐる伊豫・土佐・ 讃岐・阿波ー」	平成16年4月24日(土)~6月27日(日)	特別展示室	(4県の展示会を合わせて 6,069人)内、考古館 2,222人
2	発掘調査写真展 「むかし・昔のまつやまを撮る」	①平成16年5月19日(水)~30日(日) ②平成16年6月2日(水)~11日(金) ③平成16年6月16日(水)~21日(月)	①二之丸史跡庭園 ②松山市役所本館 ③いよてつ髙島屋	一般市民 対象
3	発掘調査速報展 「むかし・昔のまつやまを掘る」	平成16年7月17日(土)~8月29日(日)	特別展示室	971 人
4	特別展「首長の大型建物をみる」	平成16年10月2日(土)~11月23日(火・祝)	特別展示室	1,079 人
(5)	松山市・北条市・中島町合併記念企画展「北 条平野の古墳文化〜横穴式石室や遺物から探る古墳時代像〜」	平成17年1月22日(土)~3月13日(日)	特別展示室	1,519 人



写真 2



写真 3

#### 2. 教育普及活動

教育普及活動としては、職員の資質向上を目的とした調査研究会と、一般市民を対象に埋蔵文化財保護思想の普及啓発を目的とした講演会・体験学習セミナー・考古学講座などがある。

#### (1) 調査研究会

発掘現場における調査方法や報告書作成のための各分野での第一人者を招聘し、助言をいただき、 職員の資質向上をめざしている。

#### (2) 講演会・展示解説会

当年度は発掘へんろ展展示解説会・発掘調査報告会・特別展記念講演会・企画展記念講演会を行った。

- ①発掘へんろ展展示解説会は、発掘へんろ展の開催を記念して当館講堂にて当埋蔵文化財センター 調査員が調査概要と遺物の解説を行い、他の埋蔵文化財センター(愛媛県、高知県、香川県、徳島県) 分はビデオ上映で解説を行った(表2-①)。
- ②発掘調査報告会「むかし・昔のまつやまを語る」は、前述の発掘調査速報展の開催初日に総括報告及び調査研究報告を行った(表2-②)。
- ③特別展記念講演会は、特別展開催を記念して当館講堂にて東北芸術工科大学教授宮本長二郎先生による樽味四反地遺跡の大型建物や日本全国、さらに東アジアの大型建物について実例を挙げながらご講演いただいた(写真4・表2-③)。
- ④企画展記念講演会は、企画展を記念して当館講堂にて岡山県古代吉備文化財センター所長正岡睦夫先生による『北条平野の古墳』について講演いただいた(写真5・表2-④)。



写真 4



写真 5

#### 表2 教育普及活動一覧 (講演会・展示解説会)

(敬称略) (1)

No.	事 業 名	日 時	会場	講師・報告者	聴講者数
1	「発掘へんろ展」展示解説会	平成16年4月24日(土)	講堂	当センター 調査員 加島次郎	72 人
2	発掘調査報告会 「むかし・昔のまつやまを語る」	平成 15 年 7 月 17 日 (土)	講堂	当センター 次長兼調査係長 西尾幸則 の 調査員 栗田茂敏 の 調査員 加島次郎	105 人

#### 教育普及活動一覧(講演会・展示解説会)

(敬称略) (2)

No.	事 業 名	日 時	会場	講師・報告者	聴講者数
3	特別展記念講演会 「弥生・古墳時代の大型建築」	平成 16 年 10 月 11 日 (月・祝日)	講堂	東北芸術工科大学教授宮本長二郎	75 人
4	企画展記念講演会 「北条平野の古墳」	平成17年1月22日(土)	講堂	岡山県古代吉備文化財センター所長 正岡睦夫	160 人
	初心者のための考古学講座 「とことん考古学IV」5回連続				
	第1回「青銅鏡」	平成16年5月15日(土)	講堂	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター 主任調査員 柴田昌児	37 人
(5)	第2回「埴 輪」	平成16年5月22日(土)	"	〃 調査員 山内英樹	33 人
3	第3回「樟味立添遺跡発掘現場の見学」	平成 16 年 6 月 12 日 (土)	現場	当センター調査員 高尾和長・加島次郎	31 人
	第4回「須恵器」	平成 16 年 6 月 19 日 (土)	講堂	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター 調査第一係長 岡田敏彦	34 人
	第5回「古墳時代~古代の土師器」	平成16年6月26日(土)	"	当センター調査員 宮内慎一	30 人

#### (3) 初心者のための考古学講座「とことん考古学Ⅳ」(写真6・表2-⑤)

当年度は『生産遺跡から古代の流通を考える』をテーマに計5回で弥生時代から古代までを取り扱い、遺物などから古代の人々の交流や物流のあり方について理解が深められるように内容を工夫した。また、第3回は発掘調査の現場見学(樽味立添遺跡)とし、よりグローバルな展開を図っている。

#### (4) 夏休み親子体験学習セミナー「古代のアクセサリー・勾玉を作ろう! Ⅳ」(写真7・表3-①)

当セミナーは、小学5年生から中学生とその保護者を対象に、子供たちの自由な発想で滑石製勾玉を製作することで古代人の苦労や知恵を学ぶことを目的とした。また、子供たちの社会科学習の一助とするだけではなく、自主性と創造力を養うことをねらいとしている。



写真 6



写真 7

#### (5) 大人のための体験学習セミナー

「ガラス勾玉を作ろう!V」(写真8・表3-2)

当セミナーは、18歳以上の市民を対象にしたもので、古代風ガラス勾玉を製作することにより、古代人の苦労や知恵を学ぶことを目的に実施したものである。



写真 8

表3 教育普及活動一覧(体験学習セミナー)

No.	事 業 名	日時	会 場	参加者数
1)	夏休み親子体験学習セミナー 「古代のアクセサリー・勾玉を作ろう!IV」	平成 16 年 8 月 7 日 (土)	講堂	40 人
2	大人のための体験学習セミナー 「ガラス勾玉を作ろう! V 」	① 平成16年11月20日(土) ② 平成16年12月11日(土)	講堂 松山市考古館屋外	23 人 21 人

#### (6) 遺跡めぐり「~古代浪漫の旅~伊予のまほろば探訪 Ⅳ」(写真9)

当事業は、地域に所在する史跡や埋蔵文化財を参加者に身近に感じていただくことを目的として開催するものである。当年度は、平成16年10月10日(日)に38名の参加者とともに市内の遺跡の古照遺跡、宮前川遺跡、松山市考古館、文京遺跡(愛媛大学構内遺跡)を見学した。文京遺跡では愛媛大学の教官に遺跡について解説していただき、出土遺物を実際に触ってもらった。

#### (7) 現地説明会(写真10・表4)

遺跡の見学を通して、より一層一般市民に埋蔵文化財に対する興味や関心を持ってもらうため開催するものである。当年度は、5ヶ所の遺跡において現地説明会を開催した。



写真 9



写真 10

表 4 教育普及活動一覧 (現地説明会)

No.	遺跡名	日時	遺跡の主な概要	見学者数
1	樽味立添遺跡3次調査地	平成 16 年 6 月 12 日 (土) 10:30~11:30	(棒味立添3次)縄文時代晩期の土坑。弥生時代前期末 ~中期の大溝(環濠)、後期後葉~末の竪穴式住居群 (棒味高木9次)弥生時代中期後葉の掘立柱建物、土坑。 古墳時代中~後期の竪穴式住居。 (東野森ノ木)弥生時代後期、中世の集落。中世掘立柱 建物真地近に埋納状態の白磁四耳壺。	200人
2	久米高畑遺跡 61 次調査地 久米高畑遺跡 62 次調査地	平成 16 年 7 月 10 日 (土) 10:00~11:00	(久米高畑61次)古墳時代の竪穴式住居。官衙関連の溝。 (久米高畑62次) 弥生時代前期末~後期の集落跡。 遺物:弥生時代中~後期の土坑より武器形青銅器の一部を再加工した工具「ノミ」出土。	50 人
3	橡味高木遺跡 10 次調査地	平成 16 年 12 月 11 日(土) 10:00 ~ 11:00	弥生時代~古墳時代の集落跡。 遺物:弥生土器、石器、武器形石製品、ガラス小玉、獣骨、 土師器、須恵器、臼玉、石製模造品。	120人
4	樟味四反地遺跡 9 次調査地 東野森ノ木遺跡 2 次調査地	平成 17 年 1 月 29 日 (土) 10:00 ~ 11:00	弥生~古墳時代の集落跡。弥生時代中~後期の竪穴式 住居等。古墳時代中~後期の竪穴式住居群。住居廃絶 に伴う祭祀痕跡。 遺物:弥生土器、石器、土師器、須恵器、鉄斧、勾玉。	160人
5	来住廃寺 31 次調查地 久米高畑遺跡 63 次調查地 久米高畑遺跡 64 次調查地	平成 17 年 3 月 26 日 (土) 10:00 ~ 11:30	(来住廃寺 31 次)弥生時代の掘立柱建物。江戸時代の墓。 (久米高畑 63 次) 弥生~古墳時代の集落跡。古墳時代 の焼失竪穴式住居跡 2 棟検出。 (久米高畑 64 次) 古墳時代後期の竪穴式住居跡。 官衙関連の溝。	80 人

#### (8) 博物館学芸員実習

平成6年度から博物館学芸員資格の取得を希望する学生に対するのための実習を実施している。当年度は、9月1~6日(屋外実習)と9月12~17日(屋内実習)の日程で、広島大学生1名、愛媛大学生4名、松山東雲女子大学2名を受け入れた。展示実習(展示解説や来館者案内)、写真実習(機材の取り扱いや撮影技術)、保存処理(技術や工程)などのカリキュラムを実施した。

#### (9) 職場体験(写真 11·表5)

当センターでは、中・高校生教育の一環として実施されている「職場体験学習」を受託している。 当年度は3校の生徒を受け入れ、埋蔵文化財の発掘調査業務や屋内整理業務等を体験していただいた。

#### 表5 教育普及活動一覧(職場体験)

No.	学校名・学年	日	時	内容	参加者数
1	松山北高等学校	平成 16 年 10 月 平成 16 年 10 月		博物館学芸員資格の取得を目指す生徒に取得するうえ でのアドバイス	4 人 6 人
2	松山市立桑原中学校	平成 16 年 11 / 平成 16 年 11 /		東野森ノ木遺跡での発掘体験と出土した土器の整理作 業	2人
3	松山市立勝山中学校	平成 16 年 12	月3日(金)	博物館の仕事と出土した土器の整理作業の体験	9人

#### (10) 出前考古学教室(写真12:表6)

「総合的な学習の時間」、「選択教科社会科の授業」、「文化祭」等の利用により、各学校からの要請を受けて学校や発掘現場に赴き出前考古学教室を実施した。当年度は12回実施した。



写真 11



写真 12

#### 表 6 教育普及活動一覧(出前考古学教室)

(1)

26 (	) 积月日及加劫 克(四	10.01.3027		
No.	学校名・学年及び団体名	期間	内容	参加者数
1	松山市立久米中学校	①平成 16 年 5 月 26 日(水) ②平成 16 年 6 月 1 日(水)	選択授業・地域調べ	60 人
2	松山市立城西中学校	平成 16 年 7 月 7日 (水)	選択教科社会科の授業の一環・地域調べ	40 人
3	松山市立津田中学校	平成 16 年 10 月 1 日 (金)	総合的な学習の時間の一環・勾玉作り	31 人
4	松山市立桑原中学校	平成 16 年 10 月29 日 (金)	総合的な学習の時間の一環として・地域調べ	34 人
(5)	松山市立桑原中学校	平成 16 年 11 月 3 日 (水・祝日)	文化の日参加体験活動の一環・土器作り	27 人

#### 教育普及活動一覧(出前考古学教室)

(2)

				(2)
No.	学校名・学年及び団体名	期間	内 容	参加者数
6	松山市立津田中学校	平成 16 年 11 月 5 日 (金)	文化の日 勾玉作り	21 人
7	松山市立城西中学校	平成 16 年 11 月 5 日 (金) ~ 11 月 25 日 (木)	文化祭・校区内の遺跡の展示	全校生徒対象
8	松山市立雄新中学校	平成16年11月7日(日)	文化祭 勾玉作り	20人
9	松山市立北中学校	平成16年11月7日(日)	文化祭 勾玉作り	32 人
10	松山市立城西中学校	平成 17 年 1 月 15 日(土)	選択教科社会科の授業の一環・土器を焼成	15 人
(1)	松山市立城西中学校	平成 17 年 1 月 23 日 (日)	選択教科社会科の授業の一環・ガラス勾玉の鋳型を焼成	4人
12	松山市立城西中学校	平成17年3月16日(水)	選択教科社会科の授業の一環・ガラス勾玉を焼成	36 人

#### 3. 収集・保管活動

#### (1) 埋蔵文化財関連

当年度は、松山市教育委員会に対し1名の篤志家から考古資料の寄贈を受けた。今後も継続して整理・研究を実施する。

#### (2) 大連古代ハス (写真 13)

平成10年4月に松山市農業指導センターから古代ハスの株を分けていただいた。この古代ハスは、平成8年1月に中国大連市の観光訪問団が表敬訪問で松山を訪れた際に、大連市観光局局長の張宏安氏から大連市で出土した1千年前のハスの種子を松山市に寄贈していただいたもので、その後、農業指導センターで育成していたものである。当年度は、昨年度より多い23輪が開花した。



写真 13

#### 4. 広報・出版活動 (表7・8)

当センターでは、考古館主催の展示会・講演会などを開催するに先立ち、多くの観覧者を募るためにポスターやリーフレットを発刊したり、発掘調査が行われた遺跡について発掘調査報告書を刊行している。研究者はもとより市民の方々においても、これらの出版物を大いに活用していただくことで埋蔵文化財保護の普及啓発に役立つものと思われる。

#### 普及啓発事業

表7 出版物一覧(教育普及活動)

表 7	出版物一覧(教育普及活動)_				
No.	出 版 物 名	発 行 日	対 象	版型・頁	部数
1	発掘へんろ展 ポスター 〃 チラシ 〃 はがき	平成 16 年 4 月	一般	B 2 A 4 2 頁 はがき	1,100 枚 5,000 枚 500 枚
2	考古学講座 (1) レジュメ  (2) (4) (4) (5) (7)	平成 16 年 5 ~ 6 月	聴講者	A 3 2頁 A 3 4頁 A 3 2頁 A 3 11頁·A 4 1頁 A 3 3頁	50 部 50 部 50 部 50 部 50 部
3	遺跡めぐり 旅のしおり	平成 16 年 5 月	参加者	A 4 16 頁	50 部
4	発掘調査速報展 ポスター ク パンフレット ク はがき	平成 16 年 7 月	一般	A 2 A 4 27 頁 はがき	500 枚 3,000 枚 3,000 枚
5	発掘調査報告会 レジュメ	平成 16 年 7 月	聴講者	A 3 16 頁 A 4 2 頁	150 部
6	夏休み体験学習セミナー パンフレット	平成 16 年 8 月	参加者	A3 2頁	40 部
1	特別展 ポスター 〃 パンフレット 〃 チラシ 〃 図録	平成 16 年 10 月	一般	B2 A4 4頁 A4 2頁 A4 32頁	500 枚 1,000 部 5,000 枚 500 冊
8	特別展 記念講演会 レジュメ	平成 16 年 10 月	聴講者	A3 6頁	150 部
9	大人のための体験学習セミナー パンフレット	平成 16 年 11 月	参加者	A 4 10 頁	40 部
10	企画展 ポスター 〃 チラシ 〃 はがき	平成 17 年 2 月	一般	A 2 A 4 2頁 はがき	500 枚 4,000 枚 350 枚
11)	企画展 記念講演会レジュメ	平成 17 年 2 月	聴講者	A3 6頁	200 部

#### 表8 出版物一覧(調査報告書)

(1)

No.	報告書名	発 行 日	対象	版型・頁	冊数
1	松山市文化財調査報告書 第 102 集 『-宮前川流域の遺跡 - 南江戸桑田、大峰ヶ台 6 次・8 次、北斎院』	平成 17 年 3 月 31 日	一般	A 4 186 頁	1,000 ₩
2	松山市文化財調查報告書 第 103 集 『-松山市道小野 3 号線関連遺跡-古市遺跡 2 次調査、五楽遺跡 1 次・3 次調査』	平成 17 年 3 月 31 日	一般	A 4 326 頁	1,000 冊

#### 出版物一覧 (調査報告書)

(2)

No.	報告 書名	発 行 日	対象	版型· 頁	冊数
3	松山市文化財調査報告書 第 104 集 『-松山市道小野 158 号線関連遺跡-上苅屋遺跡第 3 次·4 次調査』	平成 17 年 3 月 31 日	一般	A 4 240 頁	1,000 冊
4	松山市文化財調査報告書 第 105 集 『-松山市道小野 158 号線関連遺跡 - 上苅屋遺跡第 3 次・4 次調査』	平成 17 年 3 月 31 日	一般	A 4 344 頁	1,000 冊
(5)	松山市文化財調査報告書 第 106 集 『棒味四反地遺跡Ⅱ - 6 次調査 - 古墳時代中期~中世編』	平成 17 年 3 月 31 日	一般	A 4 168 頁	300 冊
6	松山市文化財調査報告書 第 107 集 『宮前川流域の遺跡Ⅱ - 分析・写真図版編 - 南江戸桑田・大峰ヶ台 6 次・ 8 次・北斎院』	平成 17 年 3 月 31 日	一般	A 4 112 頁	1,000 冊
7	松山市文化財調査報告書 第 108 集 『来住・久米地区の遺跡 VI』	平成 17 年 3 月 31 日	一般	A 4 162 頁	1,000 冊
8	松山市埋蔵文化財調査年報 16(平成 15 年度)	平成 16 年 12 月 31 日	一般	A 4 148 頁	1,000 ∰

#### 5. 施設の利用(表9)

当センターは、考古館主催事業だけではなく、考古学関連団体主催の研究会会場としても利用してもらい、広く一般市民にも積極的に参加を呼びかけている。

#### 表 9 施設利用一覧

(敬称略)

				(別人小小四日)
No.	団体名・テーマ	日 時	会場	代表・発表者
1	瀬戸内海考古学研究会 第82回 「地方窯初期須恵器研究の現状と展望 ~市場南組窯系須恵器を中心として~」	平成 16 年 6 月 12 日(土) 14:00 ~ 16:00	講堂	愛媛大学 三吉秀充
2	瀬戸内海考古学研究会 第84回「中・西部せとうちの高地性集落と山住みのムラ」	平成 16 年 9 月 25 日(土) 14:00 ~ 16:00	講堂	財団法人愛媛県埋蔵文化 財調査センター 柴田昌児
3	瀬戸内海考古学研究会 第 86 回 「弥生時代における西南四国型土器の様相」	平成 17 年 1 月 29 日 (土) 14:00 ~ 16:00	講堂	松山市教育委員会武田尊子
4	瀬戸内海考古学研究会 第 87 回 「伊予の武器形石器 ~打製・磨製石剣を中心として~」	平成 17 年 3 月 26 日 (土) 14:00 ~ 16:00	講堂	財団法人愛媛県埋蔵文化 財調査センター 池尻伸吾

#### 6. 資料の貸出・調査 (表 10・11)

当センターでは、各博物館や教育委員会主催事業の出展や、研究者の資料調査などの要望に応えるべく、可能な限りの資料の貸出や調査を行っている。

(敬称略) (1) 表 10 資料の貸出一覧 貸出・利用目的 貸出·利用期間 貸出・利用者 貸出資料名 点数 朝日谷二号墳出土 土師器壺 4点 朝日谷二号墳出土朝日谷二号墳出土 土師器高坏 1点 二禽二獣鏡 1点 朝日谷二号墳出土朝日谷二号墳出土 斜縁二神二獣鏡 1点 滋賀県立安 特別展「日は人作り、夜は神 平成16年4月7日 鉄大刀 1点 作る-前方後円墳の出現と展 土城考古博 1 朝日谷二号墳出土 5点 ~6月25日 鉄剣 物館 開-|に展示・写真掲載 朝日谷二号墳出土 44 点 编絲 朝日谷二号墳出土 鉄鏃 朝日谷二号墳出土 鉄斧 21 点 1点 朝日谷二号墳出土 ガラス玉 4点 第16回全国生涯学習フェステ イバルまなびピア愛媛 2004in 愛媛大学「文京遺跡発 弥生 土器からのメッセージ」に展 1点 祝谷六丁場遺跡出土 弥生土器(壺) 爱媛大学埋 平成 16年 10月 5日 祝谷六丁場遺跡出土 弥生土器 (甕) 祝谷六町場遺跡出土 弥生土器 (高坏) 1点 蔵文化財調 (2) ~10月12日 1点 杏宝 示・講演会での実物資料とし 1点 大峰ヶ台遺跡4次調査出土 弥生土器 (壺) 四国中央市 久米高畑遺跡7次調查地「久米評」銘須恵器 1点 企画展『「馬評」と、「宇摩郡」 平成 16年 10月 28日 (3) と、』に展示・写真掲載 ~平成17年1月28日 教育委員会 来住廃寺 5 次調査地 久米官衙出土 円面硯 1点 企画展『「馬評」と、「宇摩郡」 平成 16 年 10 月 28 日 四国中央市 (4) 駄場姥ヶ懐窪址出土 須恵器 6点 ~平成17年3月31日 教育委員会 と、』に展示・写真掲載 五郎兵衛谷1号增出十 三累環頭大刀 1点 播磨塚天神山古墳出土 銀製空玉 10点 播磨塚天神山古墳出土 装身付耳飾 2点 1点 播磨塚天神山古墳出土 金銅製辻金具 播磨塚天神山古墳出土 金銅製剣菱形杏葉 3点 刀子 1点 播磨塚天神山古墳出土 播磨塚天神山古墳出土 刀子飾金具 2点 須恵器 壺 1点 播磨塚天神山古墳出土 溝辺2号墳出土 須恵器 広口壺 1点 船ヶ谷遺跡第4次調査地 SR1 出土 陶質土器小型器台 2点 2点 船ヶ谷遺跡第4次調査地 SR1 出土 須恵器 甕 2点 船ヶ谷遺跡第4次調査地 SR1 出土 須恵器 壺 5点 船ヶ谷遺跡第4次調査地 SR1 出土 須恵器 把手付鍋 1点 船ヶ谷遺跡第4次調査地 SR1 出土 須恵器 把手付埦 1点 1点 船ヶ谷遺跡第4次調査地 SK2 出土 陶質土器 蓋 船ヶ谷遺跡第2次調査地 SR1 出土 軟質土器 1点 特別企画展「古墳時代の渡来 1点 平成17年2月1日 徳島市教育 東山古墳群 9 号墳出土 須恵器 高坏 文化~受容と展開~」に展示・ 東山古墳群 5 次調査地出土 須恵器 壺東山古墳群 5 次調査地出土 須恵器 壺桑原田中遺跡 SD05 出土 須恵器横瓶 1点 ~3月30日 委員会 写直掲載 1点 下苅屋遺跡第3次調査出土 陶質土器 把手付埦 小野周辺出土 陶質土器 長頸壺 1点 1点 1点 1点 1点 辻町遺跡第2次調査地第区層出土 軟質土器 甕 1点 2点 辻町遺跡第2次調査地第IX層出土 軟質土器 鉢 溝辺1号墳出土 須恵器 高坏 溝辺1号墳出土 須恵器 脚台付子持壺 1点 1点 斎院茶臼山古墳出土 須恵器 蓋付身 斎院茶臼山古墳出土 須恵器 蓋付蓋 1点 葉佐池古墳2号石室出土 金環 2点 鉄製心葉形杏葉 葉佐池古墳2号石室出土 1点 葉佐池古墳2号石室出土 青銅製馬鈴 1点 葉佐池古墳 2 号石室出土 鉸具 1点 葉佐池古墳 2 号石室出土 須恵器 子持器台 1点 葉佐池古墳2号石室出土 須恵器 子持壺 1点 葉佐池古墳2号石室出土 須恵器 筒形器台 1点 1点 朝日谷二号墳 松山平野北西部写真 朝日谷二号墳朝日谷二号墳 滋賀県立安 1点 特別展「日は人作り、夜は神 A主体部遺物出土状況写真 平成 15年11月14日 作る-前方後円墳の出現と展 1点 十城 A主体部出土遺物写真 (6) ~平成16年4月30日 考古博物館 朝日谷二号墳 二禽二獸鏡·斜縁二神二獸鏡写真 1点 開一」に展示 朝日谷二号墳 出土土器写真 1点 株式会社小 学館 「考古資料大観」に 祝谷六丁場遺跡出土 平形銅剣 1点 平成16年7月9日 代表取締役 7 祝谷六丁場遺跡出土 平形銅剣出土状況 1点 掲載するため 社長 相賀昌宏

資料の貸出一覧

(敬称略) (2)

	(4) 食出一覧				(敬称略) (2
No.	貸 出 資 料 名	点数	貸出・利用目的	貸出・利用期間	貸出・利用者
8	航空写真(松山市平井町周辺)	1点	「遺跡」第42号に掲載するため	平成 16 年 8 月 2 日 ~ 8 月 31 日	岡山県古代吉備文 化財センター 正岡睦夫
9	枝松遺跡 5 次調査地 SB1・周溝 1 姫原遺跡 SD17	1点 1点	金峰町歴史資料館 原始・古代の金峰町展 示室に展示するため	平成 16 年 11 月 8 日 ~ 12 月 17 日	金峰町教育長山元克典
(9)	若草町遺跡出土 異体字銘帯鏡 束本遺跡 4 次調査出土 破鏡 釜ノ口遺跡 8 次調査出土 破鏡 朝日谷 2 号墳出土二禽二獸鏡 天山 1 号墳出土環状乳神獸鏡	1点 1点点 1点点 1点点 1点点	平成 16 年度インター ネット博物館講座 考古講座「県内出土 遺物を探る①青銅鏡」 での掲載及び放映の ため	平成 16 年 11 月 12 日	愛媛県歴史文化 博物館 館長事務取扱 野本俊二
11)	棄佐池古墳石室写真 出土木棺復元写真	1点 1点	「季刊考古学」第 90 号に掲載するため	平成 16 年 12 月 21 日 ~平成 17 年 1 月 28 日	株式会社雄山閣 代表者 宮田哲男
12	五郎兵衛谷1号墳 三累環頭大刀の出土状況 塚本1号墳 金銅装圭頭大刀出土状況 播磨塚天神山古墳 装飾付耳飾等の出土状況 葉佐池古墳2号石室 2号石室出土の装身具 葉佐池古墳2号石室 2号石室出土の馬具 葉佐池古墳2号石室 玄門部の遺物出土状況 葉佐池古墳2号石室 2号石室の副葬須恵器 葉佐池古墳2号石室 石室内の遺物出土状況	一式	特別展「古墳時代の 渡来文化〜受容と展 開」に展示	平成 17 年 1 月 11 日 ~ 2 月 10 日	德島市教育委員会 教育長 柏木雅雄
(13)	松山市文化財調查年報 I 松山市文化財調查年報 I 松山市文化財調查年報 I 松山市文化財調查年報 I 松山市文化財調查年報 V 松山市文化財調查年報 W 松山市文化財調查年報 W 松山市文化財調查年報 I 松山市文化財調查年報 I 松山市文化財調查年報 12 松山市文化財調查年報 13 松山市文化財調查年報 14 松山市文化財調查年報 14 松山市文化財調查年報 15 松山市文化財調查年報 15 松山市文化財調查年報 15 松山市文化財調查報告書 20 松山市文化財調查報告書 20 松山市文化財調查報告書 25 松山市文化財調查報告書 25 松山市文化財調查報告書 25 松山市文化財調查報告書 26 松山市文化財調查報告書 30 道後城北遺跡群 I 松山市文化財調查報告書 37 粒山市文化財調查報告書 37 松山市文化財調查報告書 37 松山市文化財調查報告書 37 松山市文化財調查報告書 37 松山市文化財調查報告書 38 松山广文化財調查報告書 38 松山市文化財調查報告書 39 松山市文化財調查報告書 31 松山市文化財調查報告書 32 松山市文化財調查報告書 33 紅大学構內遺跡 II 松山市文化財調查報告書 31 松山市文化財調查報告書 32 松山市文化財調查報告書 33 紅大学構內遺跡 I 松山市文化財調查報告書 35 東雲神社遺跡	一式	愛媛大学ホームペー ジ上に掲載するため	平成 17 年 2 月	愛媛大学 埋蔵文化財調査室 室長 下條信行
14)	考古館外観(春)の写真	1点	JR九州パンフレット 「ほのほの物語〜山陰・ 山陽・四国の湯〜」05 上期春〜夏に掲載の ため	平成 17 年 2~3月	有限会社サンアクト 富永貴恵
15	来住廃寺出土軒丸瓦写真	1点	企画展「聖徳太子と国 宝法隆寺展」チラシ等 に掲載のため	平成 17 年 3~4月	愛媛新聞社 事務局長 烏谷照雄
16	大渕遺跡-1・2次調査-の報告書掲載図版	2点	「先史日本を復元する」 4 『稲作伝来』に掲載 のため	平成 17 年 3 月	株式会社 岩波書店 常務取締役編集担当 宮部信明
17	考古館外観写真	1点	トヨタ車純正カーナビ ゲーション上で考古館 を紹介するため	平成 17 年 3 月	株式会社ラムゼス 田渕寿海

表 11 資料の調査一覧

(敬称略) (1)

	1 英小砂網鱼 晃	1. 407		307 -L	and the second test the
No.	調査資料名	点数	調査・利用目的	調査・利用期間	調査・利用者
1	巡回展「発掘へんろ」展示品	100 点	歴史資料とするた めの写真撮影	平成 16 年 4 月 24 日	真木捷太郎
2	巡回展「発掘へんろ」展示品	10 点	VTR、スライド製 作のための写真撮 影	平成 16 年 4 月 25 日	高岡洋三
3	白磁四耳壺 銅印(「倉正私印」) 展示室全景	4点 4点 3点	「教育情報」本紙、 及びホームページ 掲載のための写真 撮影	平成 16 年 4 月 27 日	教育情報新聞社 篠永共加
4	橡味四反地 6 次調査地出土 甕形土器	45 点	研究のための実見	平成 16 年 5 月 26 日	愛媛大学法文学部 下篠信行
(5)	古照遺跡 6 次調査地出土 硯	1点	博士の論文作成の ため実測及び写真 撮影	平成 16 年 5 月 28 日	広島大学大学院 文学研究科 原田倫子
6	巡回展「発掘へんろ」展示品	12点	歴史研究会の資料のための写真撮影	平成 16 年 5 月 30 日	長野邦計
7	出土地不明 内行花文鏡	1点	郷土の鑑鏡の研究 のための実測及び 写真撮影	平成 16 年 6 月 5 日	眞鍋修身
8	柳原氏旧蔵 内行花文鏡	1点	舶載内行花文鏡細 部観察のための実 測及び写真撮影	平成 16 年 6 月 13 日	名本二六雄
9	福音小学校構內遺跡出土 土師器 石井幼稚園遺跡出土 土師器・須恵器 来住廃寺遺跡 15 次調査地出土 土師器 来住廃寺遺跡 18 次調査地出土 土師器 古照遺跡 8 次調査地出土 土師器	92 点	修士論文作成のた め実測・写真撮影	平成 16 年 6 月 17 日	愛媛大学考古学研究室 中村昌博
10	「むかし・昔のまつやまを掘る」展示品	100 点	歴史資料として残すための写真撮影	平成 16 年 7 月 17 日	真木捷太郎
11)	常設展示室の展示品 「松山平野の遺跡」 「平形銅剣の分布」 「松山の首長墓」	4点 1点 1点	古墳研究のための 写真撮影	平成 16 年 7月 17日	柏俣行郎
12	常設展示室の展示品 久米高畑遺跡 7 次調査地「久米評」銘須恵器 来住廃寺 5 次調査地久米官衙出土 円面硯	1点	研究のための写真 撮影	平成 17 年 7 月 18 日	愛媛大学 越智淳平
13	常設展示室の展示品 「前方後円墳の展開」	3点	宿題のための写真 撮影	平成 16 年 7月 19 日	東中学校1年 宮田岳
14	久米高畑遺跡 10 次調査地出土 陶仏台座 常設展示室の展示品	2点 14点	宿題のための写真 撮影	平成 16 年 7月 21 日	南中学校1年 長岡俊夫
15	来住廃寺遺跡出土 須恵器・土師器・瓦	一式	資料調査のための 実測・写真撮影	平成 16 年 7月 27 日	愛媛大学 越智淳平
16	考古館エントランス展示品 「瀬戸風峠 4 号墳」 「土器のうつりかわり」 常設展展示品 「古照遺跡」 「平形銅剣の埋納坑」	2点 2点 3点 3点	宿題のための写真 撮影	平成 16 年 7 月 30 日	平松輝泰

資料の調査一覧

(敬称略) (2)

7411	♥ノ帥且 ̄見				(敬称略) (2)
No.	調査資料名	点数	調査・利用目的	調査・利用期間	調査・利用者
17	常設展示品三島神社古墳	6点	宿題のための写真撮影	平成16年8月3日	東中学校1年 大野拓哉
18	若草町遺跡出土 重圏文日光鏡 溝辺横谷古墳出土 五鈴鏡	1点	平成 16 年度歴史文化講座に伴う資料調査のための写真撮影	平成16年8月4日	愛媛県歴史 文化博物館 富田尚夫
19	船ヶ谷遺跡 2 次出土 軟性土器・軟質土器船ヶ谷遺跡 4 次出土 軟性土器・軟質土器 计可遺跡 2 次出土 軟性土器・軟質土器 棒味高木遺跡 3 次出土 軟性土器・軟質土器棒味四反地遺跡 5 次出土 軟性土器・軟質土器筋 追上遺跡出土 軟性土器・軟質土器筋 追上遺跡出土 軟性土器・軟質土器 川附遺跡 軟性土器・軟質土器	2 点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点	自身の課題研究進行のための写真撮影	平成 16 年 8 月 6 日	大阪市文化財協会 寺井誠
20	常設展示室展示品 「はぎとり地層」 「前方後円墳の展開」 「運ばれた箱式石棺」	2点 4点 2点	宿題のための写真撮影	平成 16 年 8 月 8 日	東雲小学校 原由季
21	常設展示室展示品 「土器のうつりかわり」 「弥生土器」 「農具・工具」 「埴輪の世界」	1点 1点 1点 1点	宿題のための写真撮影	平成 16 年 8 月 8 日	青木ハルミ
22	常設展示室展示品 「前方後円墳の展開」 「埴輪の世界」 「運ばれた箱式石棺」	4点 3点 3点	夏休みの自由研究資料 作成のための写真撮影	平成 16 年 8 月 14 日	平田さつき
23	常設展示室展示品 「前方後円墳の展開」 「くらしの変遷」 「竪穴式住居での石器製作」	5点 4点 4点	宿題のための写真撮影	平成 16 年 8 月 18 日	泉山涼
24	常設展示室展示品 「大陸文化の伝播」 松山市大渕遺跡出土 縄文土器	3点	土器のスケッチを個人 的ホームページに掲載	平成 16 年 10 月 1 日	奥田健二
25	播磨塚天神山遺跡出土 盾形埴輪・蓋形埴輪 大池東3号墳出土 盾形埴輪・蓋形埴輪 大池東4号墳出土 盾形埴輪・蓋形埴輪	9点 3点 5点	卒業論文「古墳時代に おける瀬戸内地方の交 流」作成のための実測・ 写真撮影	平成16年9月3日	岡 山 大 学 大野由美子
26	文京遺跡出土 土器 久米高畑遺跡出土 土器 朝美澤遺跡出土 土器	一式	修士論文作成のための 実測及び写真撮影	平成16年9月9日	京都大学 文学研究科 松尾奈緒子
27	松山城関係出土 瓦	一式	卒業論文用資料として の実測及び写真撮影	平成 16 年 10 月 15 日	愛媛大学 法文学部 平田一格
28	宮前川遺跡津田 I 地区 古式土師器 古照遺跡 古式土師器 古照遺跡 8 次調査 古式土師器・弥生土器	一式	修士論文作成のための 実測及び写真撮影	平成 16 年 10 月 23 日 ~ 31 日	立命館大学 大学院 田中元浩

資料の調査一覧

(敬称略) (3)

No.	調査資料名	点数	調査・利用目的	調査・利用期間	調査・利用者
29	福音小学校構内遺跡出土 石器	3点	修士論文作成のための実測 及び写真撮影	平成 16 年 11 月 5 日	大阪大学大学院 石井智大
30	常設展示室展示品	一式	研究のためのビデオ撮影	平成 16 年 11 月 13 日	中村成男
31	常設展示室展示品 「埴輪の世界」 「城北の弥生社会」 「三島神社古墳」 エントランス展示 「土器をさわってみよう」	5 点 5 点 5 点	組合員向け広報誌 「だいち」1月号掲載のた めの写真撮影	平成 16 年 12 月 8 日	松山市農業 協同組合 土居亜希子
32	船ヶ谷遺跡 4 次調査地出土 須恵器	4点	資料収集 (研究紀要作成) のため	平成 17 年 1 月 25 日	山内英樹
33	企画展「北条平野の古墳」展示会写真	3点	学習用のため	平成 17 年 1 月 22 日	山野芳幸
34	企画展「北条平野の古墳」展示会写真	100 点	デジタル写真データとして 保存するため	平成 17 年 1 月 22 日	真木捷太郎
35	大渕遺跡出土 石器 岩崎遺跡出土 石器 祝谷六丁場遺跡出土 石器	一式 一式 一式	授業に活用するため	平成 17 年 1 月 24 日	愛媛大学 考古学研究室 下篠信行
36	大渕遺跡出土 石器 船ヶ谷遺跡出土 石器 三島神社古墳出土 埴輪	一式 一式 一式	論文及び埋蔵文化財発掘調 査報告書作成のため	平成 17 年 3 月 28 日	寺前直人

#### 7. 職員研修・会議(表 12)

当センターでは、独立行政法人奈良文化財研究所で実施されている発掘技術者研修をはじめとして、 各種研修や会議に参加している。こうした研修や会議に積極的に参加することにより、職員の資質向 上と業務の円滑な推進を図っている。

表 12 職員研修・会議一覧

No.	研修 · 会議名	日時	開催地	参加者数
1	第 25 回全国埋蔵文化財法人連絡協議会	平成 16 年 6 月 10・11 日 (木・金)	福岡県西白河郡	1名
2	四国埋蔵文化財法人担当者会	平成 16 年 7 月 20・21 日 (火・水)	高知県南国市	2名
3	第1回埋蔵文化財担当職員等講習会	平成16年9月1日(水)~4日(土)	佐賀県佐賀市	1名
4	全国埋蔵文化財法人連絡協議会 コンピューター等研究委員会 (中国・四国・九州ブロック地区委員会)	平成16年9月2・3日 (木・金)	山口県	2名
5	全国埋蔵文化財法人連絡協議会 (中国・四国・九州ブロック会議)	平成16年9月30日(木)・10月1日(金)	山口県山口市	3名
6	全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会	平成 16 年 10 月 14 日・15 日 (木・金)	和歌山県	2名
7	独立行政法人 奈良文化財研究所開催 特別研修「遺跡地図情報過程」	平成 16 年 11 月 8 日 (月) ~ 12 日 (金)	奈良市	1名
8	独立行政法人 奈良文化財研究所開催 専門研修「古代集落遺跡調査過程」	平成 16年11月29日(月)~12月10日(金)	奈良市	1名

#### 8. 考古館入館者数調 (表 13)

表 13 平成 16 年度 考古館月別入館者数調 (平成 16 年 4 月 1 日~ 17 年 3 月 31 日) (単位:人)

				H >XH23 ( 1 )		/	., , 0	/3 O i 🖽 /		(+12.70)
	田田 かち		有料入館者			無料入	.館者			
月	開館 日数	個 人 一 般	個 人 高齢者割引	団体一般・ 各種割引	児童生徒	身障者	幼児	その他	入館者 合計	一日平均 入 館 者
4	25 日	219	23	0	618	27	10	238	1,135	45
5	26 日	249	86	22	935	12	10	665	1,979	76
6	26 日	209	70	0	734	58	18	533	1,622	62
7	27 日	192	82	113	211	13	4	385	1,000	37
8	26 日	181	27	48	324	2	81	310	973	37
9	25 日	93	30	7	25	2	10	0	167	7
10	28 日	142	144	14	513	14	11	26	864	31
10	特 27 日	192	33	12	501	6	7	25	776	29
11	23 日	126	92	83	80	2	6	2	391	17
	特 18 日	76	57	81	80	2	5	2	303	17
12	22 日	91	18	3	16	19	1	11	159	7
1	24 日	110	14	0	48	0	10	228	410	17
2	23 日	137	18	42	226	8	22	252	705	31
3	27 日	110	81	18	1,600	0	8	156	1,973	73
計	302 日	2,127	775	443	5,911	165	203	2,833	12,457	41

※「特」は特別展

# 松山市埋蔵文化財調査年報 17

平成 17年 12月 28日 発行

> 編集 松山市教育委員会

発 行 〒 790-0003 愛媛県松山市三番町 6 丁目 6 - 1 TEL(089)948 - 6605

> 財団法人 松山市生涯学習振興財団 埋蔵文化財センター

〒791-8032 愛媛県松山市南斎院町乙67番地6

TEL(089)923 - 6363FAX(089)925 - 0260

印刷 岡田印刷株式会社

> 〒 790-0012 愛媛県松山市湊町7丁目1-8 TEL(089)941 - 9111 代 FAX(089)932 - 1199

